佐野市公共下水道事業計画

変 更 届 出 書

令和3年 2月

栃 木 県 佐 野 市

佐野市公共下水道事業計画変更届出書

〔1〕佐野	野市公共下水道事業計画を変更する理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
〔2〕佐野	野市公共下水道事業計画書·····	5
〔3〕佐野	野市公共下水道事業計画説明書·····	21
1. 事刻	業計画の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	23
2. 予定	定処理区域及びその周辺の地域の地形及び土地利用の状況・・・・・・・・	25
2. 1	下水の排除方式及びその決定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
2. 2	予定処理区域、予定排水区域及びその決定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25
2.3	管渠、処理施設及びポンプ場の位置の決定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
3. 計画	画下水量及びその算出の根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
3. 1	人口及び人口密度並びにこれらの推定の根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	32
3. 2	1人1日当りの汚水の量及びその推定の根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
3. 3	家庭下水、工場排水、地下水等の量及びこれらの推定の根拠・・・・・	37
3. 4	計画雨水量及びその推定の根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47
3. 5	主要な管渠の流量計算及びポンプ場の容量計算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52
4. 公劫	共下水道からの放流水及び処理施設において処理すべき	
	下水の予定水質並びにその推定の根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56
4. 1	一般家庭下水の予定水質、汚濁負荷量及びその推定の根拠・・・・・・・	56
4. 2	工場排水の予定水質及び汚濁負荷量並びにその推定の根拠・・・・・・・	57
4.3	その他汚水の予定水質及び汚濁負荷量並びにその推定の根拠・・・・・・	58
4.4	工場排水と一般家庭下水との合併処理に関する検討の内容・・・・・・・・	59
4. 5	除害施設設置基準及びその決定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
4.6	処理の対象外とする工場及び対象外とする理由・・・・・・・・・・・・・・・	59
4. 7	計画放流水質及びその算定根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
4.8	処理方法並びに各処理施設における計画汚濁負荷量	
	及びその決定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
4. 9	処理施設の容量計算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	60

5.	. 下水	(の放流先の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61
	5. 1	下水の放流先近傍における水利用の現況及びその見通し	61
6	. 毎会	計年度の工事費の予定額及びその予定財源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	62
	6. 1	下水道事業に関する財政計画書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	62
7	. その)他の書類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
	7. 1	施設の設置に関する方針(様式1)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	65
	7.2	施設の機能の維持に関する方針(様式2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67

[1] 佐野市公共下水道事業計画を変更する理由

_	2	_
	4	

変 更 理 由 書

佐野市の公共下水道事業は、昭和46年度より単独公共下水道として着手し、昭和51年度に供用開始した。その後、数次の公共下水道全体計画並びに事業計画の変更を経て、鋭意事業を継続中である。また、この間、平成17年2月28日に旧佐野市、旧田沼町、旧葛生町の3市町が合併し、平成19年度に佐野市公共下水道として一元化された。

一方、渡良瀬川上流流域下水道(秋山川処理区)は、栃木県において管理されていたが、関連公共下水道が一つになったため、平成27年度に単独公共下水道として移管を受け、本市において施設の建設改良・維持管理・資産管理に関する業務を実施することとなった。

今回の事業計画変更は、汚水整備未普及地域の効率的な整備促進を目的に、平成27年度に策定した佐野市生活排水処理構想を受け、アクションプラン期間における早期概成へ向けて、汚水事業計画の新規拡大を行うものである。

- 4 -

[2] 佐野市公共下水道事業計画書

公共下水道管理者 佐 野 市 工事着手の年月日 昭和46年11月 5日

工事完成の予定年月日 令和 8年 3月 31日

_	6	_

(第1表-1) 汚水

	予 定 処 理 区 域 調 書 (汚 水)							
予定外	処理区	区域の面積	約3, 179 約3, 250	ヘクタール	予定処理区域	或内の地名	栃木県佐野市 「区域は下水道計画 一般図表示のとおり」	
処	理	区 の	名 称	面 (単位:へ	積 クタール)	3	摘 要	
佐	野	処	理 区		3, 179 3, 250	追加 72.2	Zha、削除 0.6ha	

(第1表-2) 分流式雨水

予定排力	、区域調書(分)	流 式 雨 水)
予定排水区域の面積 約1,068	ヘクタール 予定排水区場	栃木県佐野市 或内の地名 「区域は下水道計画 一般図表示のとおり」
排 水 区 の 名 称	面 積 (単位:ヘクタール)	摘 要
中部第四の一排水区	9	
中部第四の二排水区	78	
中部第四の三排水区	22	
中部第五の二排水区	28	
東部第一の二排水区	106	
東部第三排水区	424	
東部第四排水区	75	
東部第五排水区	37	
東部第七排水区	18	
東部第八排水区	8	
東部第九排水区	11	
北 部 第 二 排 水 区	20	内、約20haは合流式
北部第四排水区	3	
北部第六排水区	27	
西部第一の一排水区	124	
西 部 第 三 排 水 区	52	
秋山川第4排水区	26	

(第2表-1) 合流式及び分流式汚水

吐口調書(合流式及び分流式汚水)							
処理区の名称	主要な吐口の 種類	主要な吐口の 番号又は名称	主要な吐口の 位置	計画放流量 (m³/秒)	放流先の名称	摘要	
佐野処理区	処理施設	吐 処	植下町字間之田町	0. 582 0. 601	秋山川	低水量 1.04m³/秒	
	合 流 式雨水吐室	吐 18	植下町字間之田町	3. 021	秋山川	分流化完了時 に廃止	

(第2表-2) 分流式雨水

	吐 口	コ 調 書	(分流	式 雨 水	()	
排水区の名称	主要な吐口 の 種 類	主要な吐口の 番号又は名称	主要な吐口の位置	計画放流量 (m³/秒)	放流先の名称	摘 要
中部第四の二	分 流 式雨水管渠	吐 3-1	天神町	8. 763	秋山川	
排 水 区	分 流 式雨水管渠	吐 3-2	大町字大町	4. 854	秋山川	
東部第一の二排 水 区	分 流 式雨水管渠	吐 6	飯田町字寺地	17. 120	旧秋山川	
東部第三排水区	分 流 式 雨水管渠	吐 8	鎧塚町字本郷	44. 573	三杉川	
東部第四排水区	分 流 式雨水管渠	吐 9	高萩町字石原	17. 939	1号調整池	
東部第五排水区	分 流 式雨水管渠	吐 10	越名町字松山	6. 753	2号調整池	
北部第六排水区	分 流 式雨水管渠	吐 16	関川町字八幡	5. 813	3号調整池	
北部第二排水区	分 流 式雨水管渠	吐 15	関川町 字井戸尻道南	4. 776	三杉川	雨水吐室内 スクリーン設置
秋山川第 4 排 水 区	分 流 式雨水管渠	吐 20	堀米町	1. 793	秋山川	

(第3表-1) 合流式

	管	渠	調書	(合	流	式)			
処理区の名称	主要な管渠の内の			長 : メートル)	点検値の数			3	摘	要	
	⊙ 350			580		-		内既設	580m		
	⊙ 400			250				内既設	250m		
	⊙ 800			750			点検方法: マンホール内か	内既設	750m		
佐野処理区	⊙ 1100			710	らの管内目視も くは管内テレビ メラを用いる方 頻度: 5年に1回以上	ノビカ	内既設	710m			
	⊡ 1500×1	350		1, 310		以上	内既設	1,310m			
	⊡ 1950×1	950		2, 190					内既設	2, 190m	
	⊡ 3000 × 1	500		850						内既設	850m
合	計			6, 640		2				内既設	6,640m

(第3表-2) 分流式汚水

	管 渠 調	書 (分	流 式	汚 水)	
処理区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位:ミリメートル)	延 長 (単位:メートル)	点検箇所 の数	摘	要
	⊙ 75	390			内既設 390m
	⊙ 100	2, 850 3, 360			内既設 1,760 m
	⊙ 150	160			内既設 160 m
	⊙ 200	10, 900 14, 030			内既設 10,620m
	⊙ 250	6, 790 6, 820			内既設 6,820 m
	⊙ 300	10, 080			内既設 9,720m
	⊙ 350	3, 680			内既設 3,680 m
	⊙ 400	6, 260	マン らの管 くは管 メラを 頻度:	点検方法: マンホール内か	内既設 6,260 m
佐野処理区	⊙ 450	1, 710		らの管内目視もし くは管内テレビカ メラを用いる方法	内既設 1,710m
	⊙ 500	4, 610		頻度: 5年に1回以上	内既設 4,610 m
	⊙ 600	4, 640			内既設 4,640 m
	⊙ 700	9, 830			内既設 9,830m
	⊙ 800	6, 880			内既設 6,880 m
	⊙ 900	1, 200			内既設 1,200 m
	⊙1000	3, 570			内既設 3,570 m
	⊙1100	1, 310			内既設 1,310 m
	2 ③ 400	90			内既設 90m 既設は1条のみ
合	計	74, 950 78, 620	28 32		内既設 73, 250 m

(第3表-3) 分流式雨水

	管 渠 調	書(分	流 式	雨 水)	
排水区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位:ミリメートル)	延 長 (単位: メートル)	点検箇所 の数	摘要	
	⊙1500	420		内既設 420m	
	⊡1500×1500	100			
	⊡1700×1600	160			
	⊡3000×1300	40		内既設 40 m	
中部第四の二 排 水 区	⊡3000×1500	110	_	内既設 110m	
	⊡4300×1800	60		内既設 60 m	
	∪1700×1200	70		内既設 70 m	
	∪ 1700×1300	60		内既設 60 m	
	計	1, 020	_	内既設 760 m	
	⊙ 900	10		内既設 10 m	
	⊡1050×1050	10		内既設 10 m	
	⊡1400×1350	10		内既設 10m	
	∪ 2200×1200	130		内既設 130m	
中部第四の三 排 水 区	$ \underline{\cancel{\ }}_{2600}^{3700} \times 1400 $	110	_	内既設 110m	
		40		内既設 40 m	
		120		内既設 120m	
	 \ ' ∫ \frac{6700}{2000} ×2100	70		内既設 70 m	
	計	500	_	内既設 500m	

	管 渠 調	書 (分	流 式	雨水)	
排水区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位:ミリメートル)	延 長 (単位:メートル)	点検箇所 の数		摘	要
	⊡3000×1500	40		内既設	40 m	
	⊍ 1800×1500	130		内既設	130 m	
	∪ 2000×1500	120		内既設	120 m	
	∪ 2200×1500	150		内既設	150 m	
東部第一の二	∪ 2300×1500	370	_	内既設	370m	
排 水 区		120		内既設	120 m	
	$ \bigcirc 2800 \times 2000 $	160		内既設	160 m	
		260		内既設	260 m	
	∪ 4800×2000	860		内既設	860m	
	計	2, 210	_	内既設	2, 210 m	

	管 渠 調	書(分	流 式	雨 水)
排水区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位:ミリメートル)	延 長 (単位: メートル)	点検箇所 の数	摘 要
	⊙1800	390		内既設 270m
	⊙3000	400		内既設 400m
	⊙3500	390		内既設 390m
	⊡1200× 800	30		内既設 30 m
	⊡1200×1200	320		内既設 320m
	⊡1500×1500	120		
	⊡1600×1300	50		内既設 50 m
	⊡1600×1600	140		
	⊡1650×1650	130		内既設 130m
	⊡1700×1700	490		内既設 490 m
	⊡1800×1800	450		
	<u></u> 2000×1000	170		内既設 170m
東部第三	_2000×2000	1, 230	_	内既設 1,230 m
排水区	_2000 × 3000	80		内既設 80 m
	_2200×1500	690		内既設 690 m
	_2200×2200	790		内既設 580m
	_2300×2300	300		
	_2500×2500	310		
	<u>□</u> 2800×1400	40		内既設 40 m
	<u></u> 3500 × 3500	950		内既設 950m
	<u></u> 4000 × 4000	70		内既設 70 m
	<u></u> 4400 × 4400	350		内既設 350m
	2000× 750 1 800× 700	300		内既設 300 m
	€2500×1500	730		内既設 730m
	5000×1500 2500×1400	650		内既設 650 m
	計	9, 570	_	内既設 7,920 m

	管 渠 調	書 (分	流 式	雨水)
排水区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位:ミリメートル)	延 長 (単位: メートル)	点検箇所 の数	摘 要
	⊡1400×1400	180		内既設 180m
	⊡1800×1800	170		内既設 170m
	⊡2000×1800	230		内既設 230m
東 部 第 四 排 水 区	⊡2000×2000	530	_	内既設 530m
	⊡2300×2000	190		内既設 190m
	⊡3500×2000	130		内既設 130m
	計	1, 430		内既設 1,430 m
	⊙1650	60	_	内既設 60 m
東部第五	⊙1800	140		内既設 140m
排 水 区	⊡1600×1600	20		内既設 20 m
	計	220	_	内既設 220m
北部第二	⊙1000	360		内既設 360m
排 水 区	計	360		内既設 360m
	⊙1650	350		内既設 350m
北 部 第 六 排 水 区	⊙1800	90	_	内既設 90 m
	計	440		内既設 440 m
	⊡1500×1500	220		
	⊡1800×1800	440		
秋山川第4	⊡1900×1900	300	_	
排水区	⊡2000×2000	540		
	⊡2200×2200	90		
	計	1, 590	_	
合	· 計十	17, 340	_	内既設 13,840m

(第4表)

			処 理	施 設	調			
終末処理場 等 の 名 称	位 置	敷地面積 (単位: ^クタール)	計 画放流水質	処理方法	処 理 晴天日最大 (単位: 立方メートル)	能 力 雨天日最大 (単位: 立方メートル)	計 画 処理人口 (単位:人)	摘要
佐 野 市 水処理センター	佐野市 植下町 字間之田町	6. 2	BOD 15 mg/L	標準活性 汚 泥 法	56, 200		74, 800 77, 529	計画下水量(日最大) 50,400 m³/日 52,000 m³/日 全体計画処理能力 (日最大) 56,200 m³/日 流入水質 BOD 189 mg/L 188 mg/L SS 171 mg/L 170 mg/L
下水道資源化工場	宇都宗正三川市茂原町大字第上字苗下大学学士手下大会工大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大学、大	栃木県下水 道資源化工 場敷地内	_	_	_	_	_	脱水ケーキを鬼怒川 上流流域下水道(中 央処理区)下水道資 源化工場で焼却・資 源化

	終末処理場	等の	敷地内の主	要 な 施 設	
終末処理場等 の 名 称	主要な施設の名称	個 数	構造	能力	摘要
	沈砂池	4 池	鉄筋コンクリート造	水面積負荷 約1,800m³/m²/日	4/4
	沈砂池ポンプ棟	1 棟	鉄筋コンクリート造		
	主ポンプ設備 (汚水ポンプ)	2 台 2 台	立軸斜流渦巻ポンプ	揚水量 約 25 m³/分 揚水量 約 54 m³/分	2/2 2/2 (予備1台)
	南部幹線 場内ポンプ棟	1 棟	鉄筋コンクリート造		
	主ポンプ設備 (汚水ポンプ)	1 台 2 台	水中汚水ポンプ	揚水量 約 2.2m³/分 揚水量 約 6.2m³/分	3/3 (予備1台)
	雨水沈殿池	3 池	鉄筋コンクリート造	総貯留容量 約 4,320m³	3/3
	最初沈殿池	8 池 2 池	鉄筋コンクリート造	水面積負荷 約 40m³/m²/日 約 50m³/m²/日	10/10
	反応タンク	10 池	鉄筋コンクリート造	滞留時間 約 8時間	10/10
	送風機棟	1 棟	鉄筋コンクリート造		
	送風機	4 台	ブロワ	風量 約 85m³/分	4/4 (予備1台)
佐野市 水処理センター	最終沈殿池	4 池 1 池	鉄筋コンクリート造	水面積負荷 約 25m³/m²/日 約 20m³/m²/日	5/5
7. CZ C 7	塩素滅菌機室	1室	鉄筋コンクリート造		
	塩素混和池	1池	鉄筋コンクリート造	接触時間 約 15分	1/1
	放流渠	1式	鉄筋コンクリート造		
	汚泥濃縮設備 (重力濃縮槽)	2 槽	鉄筋コンクリート造	固形物負荷 約 90kg/m²/日	2/2
	機械濃縮機棟	1 棟	鉄筋コンクリート造		
	汚泥濃縮設備	3 台	機械濃縮機	処理能力 約 30m³/時	3/3
	汚泥消化槽	3 槽	鉄筋コンクリート造	消化日数 約 20日	3/3
	汚泥貯留槽	1 槽 1 槽	鉄筋コンクリート造	貯留容量 約 584m³ 約 618m³	
	汚泥処理棟	1 棟	鉄筋コンクリート造		
	汚泥脱水設備	3 台	機械脱水機	処理能力 約 20 m³/時	3/3
	ガスタンク	1 基 1 基	鉄筋コンクリート造	貯留容量 約 1,500 m³ 約 1,900 m³	2/2
	管理棟	1 棟	鉄筋コンクリート造		

	終末処理場	等の	敷 地 内 の 主	要な施設	
終末処理場等 の 名 称	主要な施設の名称	個 数	構造	能力	摘 要
	受変電設備	1式			
佐 野 市 水処理センター	非常用発電設備	1式			
	消化ガス発電設備	1式			
下 水 道	汚泥焼却施設	2 基	流動焼却炉		
資源化工場	焼却灰資源化施設	2 基	灰溶融炉		

(第5表)

		ポンプ	施 設	調書			
ポンプ施設	処理区の名称	ポンプ施設	敷地面積 (単位:	1分間 <i>の</i> (単位:立力)揚水量 方メートル)	摘要	
の名称	の位置		ヘクタール)	晴天時最大	雨天時最大		
伊 勢 山中継ポンプ場	佐野処理区	伊勢山町 字伊勢山町	0. 12	8. 16	16.80	能力 17.4 ㎡/分	
秋 山 川中継ポンプ場	佐野処理区	庚申塚町 字壱丁田町	2. 80	20. 77 22. 04	_	能力 33.8 ㎡/分	
高 萩中継ポンプ場	佐野処理区	高萩町 字石原	0. 59	1.83	_	能力 6.6 ㎡/分	

	ポン	プ 施	設の敷地内の	主要な施設	
ポンプ施設 の名称	主要な施設 の名称	数	構造	能力	摘要
	沈砂池	2池	鉄筋コンクリート造	水面積負荷 約 1,800㎡/㎡/日	2/2
伊 勢 山中継ポンプ場	ポンプ室棟	1棟	鉄筋コンクリート造		
	汚水ポンプ	3台	水中汚水ポンプ	揚水量 約 8.7㎡/分/台	3/3 (予備1台)
	沈砂池	2池	鉄筋コンクリート造	水面積負荷 約 1,800㎡/㎡/日	2/2
 秋 山 川 中継ポンプ場	ポンプ室棟	1棟	鉄筋コンクリート造		
T ME. N. V J M	汚水ポンプ	2台 2台	水中汚水ポンプ	揚水量 約 5.3㎡/分/台 揚水量 約11.6㎡/分/台	2/2 2/3 (予備1台)
	沈砂池	1池	鉄筋コンクリート造	沈砂溜りとする	1/1
 高	ポンプ室棟	1棟	鉄筋コンクリート造		
T THE ALL OF THE	汚水ポンプ	2台 2台	水中汚水ポンプ	揚水量 約 1.7㎡/分/台 揚水量 約 3.2㎡/分/台	2/2 2/2 (予備1台)



〔3〕佐野市公共下水道事業計画説明書



1. 事業計画の概要

佐野市の公共下水道事業は、昭和 46 年度より単独公共下水道として着手し昭和 51 年度に供用開始した。その後、数次の事業計画の変更(最終変更:令和元年度)を経て、単独公共下水道である佐野市公共下水道として位置付けられた。現在、汚水 3,178.8ha、雨水 1,068.3ha を事業計画区域として事業進行中である。

この間、平成17年2月28日に旧佐野市、旧田沼町、旧葛生町の3市町が合併し、平成19年度事業計画において、旧田沼町、旧葛生町の公共下水道は、佐野市公共下水道として一元化された。

今回の事業計画の主な変更内容は、以下の項目である。

【今回の事業計画変更内容】

- ① 市街化区域内の未事業計画区域 34. 2ha (田沼第 3-3 地区)を事業計画区域に追加し、 農業集落排水事業で整備済みの常盤地区 38. 0ha (葛生第 1 地区)を編入する。
- ② 葛生第 4-3 地区の既事業計画区域のうち、農業振興地域で逆線引きとなる 0.6ha を 削除する。
- ③ 汚水事業計画区域の追加に伴い、事業計画年次のフレーム値、主要な管渠の延長を 変更する。

表 1.1 汚水計画諸元 新旧対照表

	項目		>± 40 → 1 ===	全体	計画	事業	計画	備考
			流総計画	既計画	今回計画	既計画	今回計画	備考
計画	I目標年次		令和8年	令和8年	同左	令和7年	同左	
		分流	3,664	3, 425. 7	3, 409. 3	3, 159. 2	3, 230. 8	事業計画71.6ha増
計迪(ha	「区域面積 a)	合流	_		_	19.6	19. 6	田沼第3-3地区34. 2ha 葛生第1地区38. 0ha
(110	*,	計	3,664	3, 425. 7	3, 409. 3	3, 178. 8	3, 250. 4	葛生第4-3地区-0.6ha
行政	(人) 口人)		106,840	106,840	同左	106, 840	同左	
計画	i人口(人)		80,800	80, 456	同左	74,804	77, 529	
汚水	量原単位	生活	270	270	同左	270	同左	
[日	平均]	営業	70	70	同左	70	同左	営業用水率26%
(L/	/人・目)	地下水	100	100	同左	100	同左	地下水率20%
		家庭汚水	39, 190	39, 030	同左	36, 280	37,610	
計画	ī汚水量	工場排水	5,660	5, 660	同左	5, 560	5, 560	
[日	最大]	地下水	8,080	8,050	同左	7, 480	7,760	
(m	3/日)	その他	990	990	同左	990	990	みかも山公園、佐野SA、道の駅
		計	53, 920	53, 730	同左	50, 310	51, 920	
		施設設計	_	53, 800	同左	50, 400	52,000	
	処理場名		秋山川 浄化センター	佐野市 水処理センター	同左	佐野市 水処理センター	同左	
	敷地面積	(ha)	_	6. 2	同左	6.2	同左	
	放流先		秋山川	秋山川	同左	秋山川	同左	
Ln	処理方式		標準活性汚泥法	標準活性汚泥法	同左	標準活性汚泥法	同左	
処理	処理能力	(m³/目)	_	56, 200	同左	56, 200	同左	
施	処理系列数	(_	5系列	同左	5系列	同左	
設	汚泥処理力	式	_	濃縮-消化-脱水-搬出	同左	濃縮-消化-脱水-搬出	同左	
	流入水質	BOD	188	189	同左	189	188	
	(mg/L)	SS	_	170	同左	171	170	
	放流水質	BOD	15	15	同左	15	同左	
	(mg/L)	SS	_	20	15	20	15	
中継	中継ポンプ場		_	3箇所	同左	3箇所	同左	
人孔	点検箇所数	τ	_	_	_	28	32	

[※]全体計画の面積は、用途逆線引きによる区域の削除 (0.6ha;非居住区域)及び農集常盤地区の区域再設定による削除 (15.8ha;非居住区域)しているが、フレーム・諸元値と共に次回見直し時に反映させる。

表 1.2 雨水計画諸元 (変更なし)

項目	全体計画	事業計画	備考
計画区域 (ha)	2, 960. 2	1, 068. 3	
	合理式	合理式	
雨水流出量算定式	$Q = \frac{1}{360} \cdot C \cdot I \cdot A$	$Q = \frac{1}{360} \cdot C \cdot I \cdot A$	
計画降雨確率年	5 年	5 年	
降雨強度式	I = 3816 t + 16 (50mm/時)	I = 3816 t +16 (50mm/時)	
流出係数	0.40~0.80	0.40~0.80	
流入時間	8 分	8 分	

2. 予定処理区域及びその周辺の地域の地形及び土地利用の状況

2.1 下水の排除方式及びその決定の理由

全体計画は、既定計画のとおり、計画区域全域を分流式とする。

現在、本市の公共下水道は一部合流区域(栄町地区 110ha、米山南町地区 19.6ha、計 129.6ha)を有しており、当該区域を対象として、平成 16 年度に合流式下水道改善計画が策定された。当計画では、長期的な対策として、①分流化案、②貯留案、③遮集倍率増強案の3案が検討され、①分流化案が最適であることを示した。また、完全に分流化されるまでは、雨水吐の堰上げ、及び雨水吐からのきょう雑物対策を実施することが加えられており、既に実施済である。

また、平成 26 年度の事業計画変更において合流区域 129.6ha の内、栄町地区 110.0ha は 分流式とし、既に分流化事業に着手している。しかし、米山南町地区 19.6ha は現状のまま 合流式を採用している。

表 2.1.1 排除方式別計画面積

単位: ha

127	- /\		全体計画		事業計画			
区分		既計画	今回計画	備考	既計画	今回計画	備考	
	分流	3, 425. 7	3, 409. 3	削除 16.4	3, 159. 2	3, 230. 8	追加 72.2 削除 0.6	
汚水	合流	_	_		19. 6	19. 6		
	計	3, 425. 7	3, 409. 3	16. 4減	3, 178. 8	3, 250. 4	71. 6増	
	分流	2, 960. 2	2, 959. 6	削除 0.6	1,068.3	1, 068. 3		
雨水	合流	_	_		19. 6	19. 6		
	盐	2, 960. 2	2, 959. 6	0.6減	1, 087. 9	1, 087. 9	変更なし	

※全体計画の面積は、用途逆線引きによる区域の削除 (0.6ha; 非居住区域) 及び農集常盤地区の区域 再設定による削除 (15.8ha; 非居住区域) しているが、次回見直し時に反映させる事とする。

2.2 予定処理区域、予定排水区域及びその決定の理由

(1) 汚水全体計画区域

汚水全体計画区域については、本市の市街化区域 3,012.6ha のうち、100.4ha を除く 区域 2,912.2ha と、市街化調整区域のうち、平成 27 年度策定の「佐野市生活排水処理構 想」において公共下水道が最適と選定された区域及び地区外流入済区域 513.5ha を加え た 3,425.7ha が既計画区域である。今回、市街化区域の逆線引きとなる区域 0.6ha 並び に、常盤地区(農業集落排水施設整備済み)の区域再設定による 15.8ha を削除し、今回 計画区域を 3,409.3ha とする。 なお、市街化区域のうち、下水道区域から除外する 100. 4ha の内訳は、下羽田工業団地 27. 7ha、田沼工業団地 26. 0ha (いずれも工業専用地域)、岩崎産業団地 23. 5ha (工業専用地域 21. 6ha、工業地域 1. 9ha) 及び佐野田沼インター周辺地区 23. 2ha (工業地域)である。

(2) 汚水事業計画区域

予定処理区域 (汚水事業計画区域) は、既事業計画区域 3,178.8ha に市街化区域である田沼第 3-3 地区 34.2ha、及び農業集落排水事業により整備済みの葛生第 1 地区 38.0ha を追加するとともに、市街化区域の逆線引きとなる葛生第 4-3 地区 0.6ha を削除して、3,250.4ha として汚水整備の促進を図る。

表 2.2.1 汚水計画区域面積

単位: ha

項目		全体計画		事業計画			
- 現日	既計画	今回計画	増減	既計画	今回計画	増減	
市街化区域	2, 912. 2	2, 911. 6	-0.6	2,719.1	2, 752. 7	33.6	
市街化調整区域	513. 5	497. 7	-15.8	459.7	497.7	38. 0	
旧農集並木地区	25. 8	25. 8		25.8	25.8		
旧農集飯田地区	36. 4	36. 4		36. 4	36. 4		
旧農集佐野西部地区	106. 6	106. 6		106.6	106.6		
旧農集常盤地区	53. 8	38. 0	-15.8	_	38.0	38.0	
計	3, 425. 7	3, 409. 3	-16.4	3, 178. 8	3, 250. 4	71.6	
рі	⇒ 3,426	⇒ 3,409		⇒ 3, 179	⇒ 3, 250		

※全体計画の面積は、用途逆線引きによる区域の削除 (0.6ha;非居住区域)及び農集常盤地区の区域 再設定による削除 (15.8ha;非居住区域)しているが、次回見直し時に反映させる事とする。

今回計画の処理地区別面積を、表 2.2.2 に示す。

表 2.2.2 処理地区別計画面積

単位: ha

									単位:ha
	/二寸4		全	体計画			事	業計画	
処理地区	行政 区分	市街化	市街化		and the	市街化	市街化		
	凸刀	区域	調整区域	計	備考	区域	調整区域	計	備考
佐野第1	佐野	31. 4	0. 5	31. 9		31. 4	0.5	31. 9	
佐野第2-1	佐野	159. 7	3. 6	163. 3		141. 7	3. 6	145. 3	
佐野第2-2	佐野	_	16. 1	16. 1		_	16. 1	16. 1	
佐野第2-3-1	佐野	20. 2	1. 2	21. 4		20. 2	1. 2	21. 4	
佐野第2-3	佐野	1.6	28. 2	29. 8		1.6	28. 2	29.8	
佐野第2-4	佐野		3. 7	3. 7			3. 7	3.7	
佐野第2-5	佐野	7. 5	5. 1	7. 5		7. 5	5. 1	7. 5	
佐野第2-5-1	佐野	6.4		6.4		6.4		6.4	
							_		
佐野第2-5-2	佐野	16. 1		16. 1		16. 1		16.1	
佐野第3	佐野	47.5		47. 5		47.5		47.5	
佐野第3-1	佐野	_	11. 4	11.4		_	11.4	11.4	
II. mz fefe o o	佐野		3. 1	3. 1		_	3. 1	3. 1	
佐野第3-2	田沼	_	1. 7	1. 7		_	1. 7	1. 7	
II ma lefe .	計		4. 8	4.8		_	4.8	4.8	
佐野第4	佐野	67.8	36. 3	104. 1		67.8	36. 3	104. 1	
佐野第5	佐野	1.0	_	1. 0		1.0	_	1.0	
佐野第5-1	佐野	14. 2	_	14. 2		14. 2	_	14. 2	
佐野第6	佐野	28.8	_	28.8		28.8	_	28.8	
佐野第7	佐野	131. 2	143. 9	275. 1		131. 2	143. 9	275. 1	
佐野第8	佐野	23.6	11. 2	34. 8		23.6	11. 2	34.8	
佐野第9	佐野	12.3	15.8	28. 1		9.3	15.8	25. 1	
佐野第10	佐野	27. 2	_	27. 2		27. 2	_	27. 2	
佐野第11	佐野	27.0	_	27.0		27.0	_	27.0	
佐野第12	佐野	115.7	_	115. 7		115. 7	_	115.7	
佐野第13	佐野	17.4	_	17.4		17.4	_	17.4	
佐野第14	佐野	52. 2	_	52. 2		52. 2	_	52. 2	
佐野第15	佐野	40.3	37. 1	77. 4		40.3	37. 1	77.4	
佐野第16	佐野	17.3	2. 7	20. 0		17. 3	2.7	20.0	
佐野第17	佐野	7.7	14. 4	22. 1		7. 7	14. 4	22. 1	
	佐野	1, 326. 1	103. 2	1, 429. 3		1, 308. 3	103. 2	1, 411. 5	
佐野中央	田沼	1. 3	_	1. 3		1. 3	_	1. 3	
12.112	計	1, 327. 4	103. 2	1, 430. 6		1, 309. 6	103. 2	1, 412. 8	
	佐野	2, 200. 2	432. 4	2, 632. 6		2, 161. 4	432.4	2, 593. 8	
小計	田沼	1. 3	1. 7	3. 0		1. 3	1. 7	3.0	
. 3 рі	計	2, 201. 5	434. 1	2, 635, 6		2, 162. 7	434. 1	2, 596, 8	
	田沼	9.8	— TOT. 1	9.8		2, 102. 1		2, 550.0	
田沼第1-1	葛生	31. 9		31. 9			_		
四伯第1-1		41. 7		41. 7					
田沼第1-2	田沼	35. 5		35. 5		35. 5		35. 5	
							_		
田沼第2-1	田沼	14.6		14. 6		14. 6	_	14.6	
田沼第2-2	田沼	18.0		18. 0		18.0	_	18.0	
田沼第2-3	田沼	17.0	<u> </u>	17. 0		17. 0		17. 0	
田沼第2-4	田沼	82. 9	4. 4	87.3		82. 9	4.4	87.3	
田沼第3-1	田沼	49. 2	1. 3	50. 5		49. 2	1. 3	50. 5	
田沼第3-2	田沼	73.8	1. 7	75. 5		73.8	1.7	75. 5	
田沼第3-3	田沼	34. 2	_	34. 2		34. 2	l –	34. 2	市街化区域
									34. 2ha追加
田沼第4-1	田沼	_	2.0	2.0		_	2.0	2.0	
田沼第4-2	田沼	98. 7	_	98. 7		64. 8	_	64.8	
田沼第5	田沼		12. 4	12. 4			12.4	12.4	
	田沼	433.7	21.8	455. 5		390.0	21.8	411.8	
小計	葛生	31.9	0.0	31.9		0.0	0.0	0.0	
	計	465.6	21.8	487. 4		390.0	21.8	411.8	
古什竺1	世上	104.0	20.0	149 1	農集区域再設定	60.0	20.0	00.0	農集編入区域
葛生第1	葛生	104. 8	38. 3	143. 1	15.8ha削除	60.3	38. 3	98.6	38.0ha追加
葛生第2-1	葛生	73.0	0.9	73. 9		73.0	0.9	73. 9	
葛生第2-2	葛生	0.7	_	0.7		0.7	_	0.7	
葛生第4-1	葛生	21.2	0. 2	21.4		21. 2	0.2	21.4	
葛生第4-2	葛生	29. 2	2. 4	31. 6		29. 2	2.4	31.6	
					逆線引き区域				逆線引き区域
葛生第4-3	葛生	15. 6	_	15. 6	0. 6ha削除	15. 6	-	15. 6	0. 6ha削除
小計	葛生	244. 5	41.8	286. 3		200.0	41.8	241.8	
* H1	佐野	2, 200. 2	432. 4	2, 632. 6		2, 161. 4	432. 4	2, 593. 8	
	田沼	435. 0	23. 5	458. 5		391. 3	23. 5	414. 8	
合計	葛生	276. 4	41. 8	318. 2		200. 0	41. 8	241.8	
	計	2, 911. 6		3, 409. 3		2, 752. 7		3, 250. 4	
	βl	4,911.0	497. 7	5, 409. 3		4, 102. 1	497. 7	5, 250. 4	

(3) 雨水全体計画区域

雨水全体計画区域は、市街化区域の逆線引きとなる区域 0.6ha を削除し、2,959.6ha (市街化区域 2,911.6ha、市街化調整区域 48.0ha) とする。

(4) 雨水事業計画区域

予定排水区域(雨水事業計画区域)は、既事業計画区域 1,068.3ha (すべて市街化区域)からの変更はなく、継続して浸水被害の低減に努める。

表 2.2.3 雨水計画区域面積

単位:ha

百日	全体計画		事業	計画	備考
項目	既計画	今回計画	既計画	今回計画	畑 芍
市街化区域	2, 912. 2	2, 911. 6	1, 068. 3	1,068.3	
市街化調整区域	48.0	48. 0	_		
計	2, 960. 2	2, 959. 6	1, 068. 3	1,068.3	

[※]全体計画の面積は、用途逆線引きによる区域の削除(0.6ha;非居住区域)であるが、次回見直し時に反映させる事とする。

今回計画の排水区別計画面積を表 2.2.4 に示す。

表 2.2.4 排水区別計画面積 (1/2)

単位: ha

一日			全体計画				単位:ha		
田徳川 本見第一の一 53.5 一 1 1 1 1 1 1 1 1 1		排水区名	古法ル			古朱ル	備老		
赤見第一の三 49.2	河川名			調整区域	計	区域	調整区域	計	лн ·· У
歳見帯の回 28.3 一 28.3 一 一 一 一 一 一 月 日本の回 一 日本の記事 一 日本の記事 日	出流川	赤見第一の一	53. 5	_	53. 5		_	_	
歳月 16.5 一 16.5 一 一 一 一 一 日本 一 日 第 第 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 <th< td=""><td></td><td>赤見第一の二</td><td>49. 2</td><td>_</td><td>49. 2</td><td></td><td>_</td><td>—</td><td></td></th<>		赤見第一の二	49. 2	_	49. 2		_	—	
歳川 未見第二 147.6 — 147.5 — — — — 石塚第一 23.5 — 18.9 —				_	28.3	_	—	_	
株川 未見第二 18.9 -			16. 5	_	16.5	-	_	—	
石塚第一 19.8			147.5	_	147.5	_	_	—	
石塚第一	旗川		18. 9	_	18.9	-	_	—	
石塚第一 33.5			23. 5	_	23. 5	I	_	—	
計画			19.8	_	19.8	-	_	—	
西部第一の一			33. 5	_	33. 5	-	_	—	
西部第三			95. 7	_	95. 7	-	_		
西部第四の一 43.6	菊沢川		157. 2	11. 0	168. 2	124.0	_	124. 0	
西部第四の一			_	6.0	6.0		_	0.0	
西部第四の二 12.9 一 12.9 一 一 一 一 計 272.5 21.4 293.9 176.0 一 176.0 声 272.5 21.4 293.9 176.0 一 176.0 西部第二の一 31.1 一 31.1 一 一 西部第二の二 22.8 一 22.8 一 一 計 53.9 — 53.9 — — 中部第一 72.9 — 72.9 — — 中部第三 63.8 — 63.8 — — — 中部第三 18.9 — 18.9 — — 中部第四の一 9.0 — 9.0 9.0 — 9.0 中部第四の一 78.0 — 78.0 78.0 — 78.0 中部第四の三 21.6 — 21.6 21.6 — 21.6 中部第五の一 3.0 — 3.0 — — — 中部第五の一 46.4 — 46.4 28.2 — 28.2 中部第五の一 1.8 — — — — 中部第五の一 53.2 — 53.2 — — — 計 368.6 — 368.6 136.8 — 136.8 田秋山川 東部第一の一 50.8 12.8 63.6 — — 東部第一の二 106.0 4.2 110.2 106.0 — 106.0 東部第一の三 80.6 — 80.6 — — 計 237.4 17.0 254.4 106.0 — 106.0 東部第三 38.3 — 38.3 — — 東部第三 34.8 — 124.8 75.0 — 75.0 東部第五 36.9 — 36.9 36.9 — 36.9 36.9 北部第三 12.8 — 17.5 — — 北部第五 17.5 — 17.5 — — 北部第五 17.5 — 752.7 586.0 — 586.0 東部第六 35.5 — 35.5 — — 蘇特神水路 東部第六 35.5 — 27.2 27.2 27.2 27.2 東部第九 10.9 10.9 10.9 10.9 北部第一の三 28.9 — 28.9 — —		西部第三	58.8	_	58.8	52.0	_	52. 0	
計 272.5 21.4 293.9 176.0 — 176.0 才川 西部第二の二 31.1 — 31.1 — — 高計 53.9 — 53.9 — — — 計 53.9 — 53.9 — — — 中部第二 72.9 — 72.9 — — — 中部第三 63.8 — 63.8 — — — — 中部第三 63.8 — 63.8 — — — — — 中部第四の一 9.0 — 9.0 <th< td=""><td></td><td>西部第四の一</td><td>43.6</td><td>4. 4</td><td>48.0</td><td></td><td>_</td><td>_</td><td></td></th<>		西部第四の一	43.6	4. 4	48.0		_	_	
古部第二の二 31.1 一 31.1 一 一 一 一 一 一 一 一 一				_	12.9		_	_	
西部第二の二 22.8 一 22.8 一 一 一 計			272. 5	21. 4	293. 9	176.0	_	176.0	
計	才川	西部第二の一	+	_	31.1		_		
秋山川 中部第二 72.9 - 72.9 - - - - 中部第三 63.8 -			22.8	_	22.8		_	_	
中部第三 18.9 - 18.9		計	53. 9	_	53.9	-	_	_	
中部第四の一 9.0 - 9.0 9.0 - 9.0 中部第四の二 78.0 - 78.0 - 78.0 - 78.0 中部第五の二 21.6 - -	秋山川	中部第一	72. 9	_	72.9		_	_	
中部第四の一 9.0 — 9.0 9.0 — 9.0 中部第四の三 21.6 — 21.6 21.6 — 21.6 中部第五の一 3.0 — 3.0 — — — 中部第五の一 3.0 — — — — — — 中部第五の一 3.0 — 3.0 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —		中部第二	63.8	_	63.8		_	_	
中部第四の三 78.0 — 78.0 — 78.0 — 78.0 中部第五の一 3.0 — 3.0 —		中部第三	18.9	_	18.9	1	_		
中部第五の一 21.6 — 21.6 — 21.6 — 21.6 — 21.6 — <td></td> <td>中部第四の一</td> <td>9.0</td> <td>_</td> <td>9.0</td> <td>9.0</td> <td>_</td> <td>9. 0</td> <td></td>		中部第四の一	9.0	_	9.0	9.0	_	9. 0	
中部第五の一 3.0 - 3.0 - <t< td=""><td></td><td>中部第四の二</td><td>78.0</td><td>_</td><td>78.0</td><td>78.0</td><td>_</td><td>78.0</td><td></td></t<>		中部第四の二	78.0	_	78.0	78.0	_	78.0	
中部第五の二 46.4 — 46.4 28.2 — 28.2 中部第六の二 1.8 — 1.8 — — — 計 368.6 — 368.6 136.8 — — — 計 368.6 — 368.6 —		中部第四の三	21.6	_	21.6	21.6	_	21.6	
中部第六の二 1.8 — 53.2 — <		中部第五の一	3.0	_	3.0	I	_		
中部第六の二 53.2 — 53.2 — — — 目36.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 — 136.8 —		中部第五の二	46. 4	_	46.4	28.2	_	28. 2	
計		中部第六の一	1.8	_	1.8	I	_		
田秋山川 東部第一の一		中部第六の二	53. 2	_	53. 2		_		
東部第一の二 106.0 4.2 110.2 106.0 — 106.0 東部第一の三 80.6 — 80.6 — — — 計 237.4 17.0 254.4 106.0 — 106.0 東部第二 38.3 — 38.3 — — 東部第三 424.5 — 424.5 — 424.5 東部第四 124.8 — 124.8 75.0 — 75.0 東部第五 36.9 — 36.9		計	368.6	_	368.6	136.8	_	136.8	
東部第一の三 80.6 — 80.6 — — — — 計 237.4 17.0 254.4 106.0 — 106.0 東部第二 38.3 — 38.3 — — 東部第三 424.5 — 424.5 424.5 — 東部第四 124.8 — 124.8 75.0 — 75.0 東部第五 36.9 — 36.9 — 36.9 北部第二 53.7 — 53.7 19.6 — 19.6 北部第三 9.2 — 9.2 — — — 北部第四 20.6 — 20.6 2.8 — 2.8 北部第五 17.5 — 17.5 — — — 北部第六 27.2 — 27.2 27.2 27.2 — 27.2 計 752.7 752.7 586.0 — 586.0 幹線排水路 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 </td <td>旧秋山川</td> <td>東部第一の一</td> <td>50.8</td> <td>12.8</td> <td>63.6</td> <td>1</td> <td>_</td> <td>_</td> <td></td>	旧秋山川	東部第一の一	50.8	12.8	63.6	1	_	_	
計 237.4 17.0 254.4 106.0 — 106.0 東部第二 38.3 — 38.3 — — 東部第三 424.5 — 424.5 — 424.5 東部第四 124.8 — 124.8 75.0 — 75.0 東部第五 36.9 — 36.9 — 36.9 北部第二 53.7 — 53.7 19.6 — 19.6 北部第三 9.2 — 9.2 — — 北部第五 17.5 — 17.5 — — 北部第五 17.5 — 17.5 — — 北部第六 27.2 — 27.2 27.2 27.2 27.2 計 752.7 752.7 586.0 — 586.0 幹線排水路 東部第六 35.5 — 35.5 — — — 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — — 東部第一の一		東部第一の二	106.0	4. 2	110.2	106.0	_	106.0	
東部第三 38.3 - 38.3 - <t< td=""><td></td><td>東部第一の三</td><td>80.6</td><td>_</td><td>80.6</td><td>1</td><td>_</td><td>_</td><td></td></t<>		東部第一の三	80.6	_	80.6	1	_	_	
東部第三 424.5 — 424.5 — 424.5 — 424.5 東部第四 124.8 — 124.8 75.0 — 75.0 東部第五 36.9 — 36.9 36.9 — 36.9 北部第二 53.7 — 53.7 19.6 — 19.6 北部第三 9.2 — 9.2 — — 北部第四 20.6 — 20.6 2.8 — 2.8 北部第五 17.5 — 17.5 — — — 北部第五 17.5 — 17.5 — — — — 北部第六 27.2 — 27.2 27.2 27.2 — 27.2 計 752.7 — 752.7 586.0 — 586.0 東部第六 35.5 — 35.5 — — — 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — — 東部第九		計	237. 4	17.0	254.4	106.0	_	106.0	
東部第四 124.8 — 124.8 75.0 — 75.0 東部第五 36.9 — 36.9 — 36.9 北部第二 53.7 — 53.7 19.6 — 19.6 北部第三 9.2 — 9.2 — — 北部第四 20.6 — 20.6 2.8 — 2.8 北部第五 17.5 — 17.5 — — 北部第六 27.2 — 27.2 27.2 — 27.2 計 752.7 — 752.7 586.0 — 586.0 幹線排水路 東部第六 35.5 — 35.5 — — — 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第人 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第人 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — — 鷲川 北部第一の一 69.6 — — — — 北部第一の一 28.9 — — — — <td>三杉川</td> <td>東部第二</td> <td>38. 3</td> <td>_</td> <td>38.3</td> <td>1</td> <td>_</td> <td>_</td> <td></td>	三杉川	東部第二	38. 3	_	38.3	1	_	_	
東部第五 36.9 — 36.9 36.9 — 36.9 北部第三 53.7 — 53.7 19.6 — 19.6 北部第三 9.2 — 9.2 — — — 北部第四 20.6 — 20.6 2.8 — 2.8 北部第五 17.5 — 17.5 — — — — 北部第六 27.2 — 27.2 27.2 — 27.2 計 752.7 — 752.7 586.0 — 586.0 摩線排水路 東部第六 35.5 — 35.5 — — — — 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — — 北部第一の三 28.9 — 28.9 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —		東部第三	424. 5	_	424.5	424.5	_	424. 5	
北部第三 53.7 - 53.7 19.6 - 19.6 北部第三 9.2 - 9.2 - - - 北部第四 20.6 - 20.6 2.8 - 2.8 北部第五 17.5 - 17.5 - - - 北部第六 27.2 - 27.2 27.2 - 27.2 計 752.7 - 752.7 586.0 - 586.0 東部第六 35.5 - 35.5 - - - 東部第七 27.2 - 27.2 18.3 - 18.3 東部第八 8.4 - 8.4 8.4 - 8.4 東部第八 8.4 - 8.4 8.4 - 8.4 東部第九 10.9 - 10.9 10.9 - 10.9 計 82.0 - 82.0 37.6 - 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 - 69.6 - - - 北部第一の二 28.9 - 28.9 - - - 北部第一の二 91.4 - - - - 北部第一の二 91.4 -		21111121111	124. 8	_	124.8	75.0	_	75. 0	
北部第三 9.2 - 9.2 - - 北部第四 20.6 - 20.6 2.8 - 2.8 北部第五 17.5 - 17.5 - - - 北部第六 27.2 - 27.2 27.2 - 27.2 計 752.7 - 752.7 586.0 - 586.0 東部第六 35.5 - 35.5 - - - 東部第七 27.2 - 27.2 18.3 - 18.3 東部第八 8.4 - 8.4 8.4 - 8.4 東部第八 8.4 - 8.4 8.4 - 8.4 東部第九 10.9 - 10.9 - 10.9 計 82.0 - 82.0 37.6 - 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 - 69.6 - - - 北部第一の三 91.4 - 91.4 - - - 北部第一の三 91.4 - - - -		東部第五	36. 9	_	36. 9	36. 9	_	36. 9	
北部第四 20.6 — 20.6 2.8 — 2.8 北部第五 17.5 — 17.5 — — — 北部第六 27.2 — 27.2 27.2 — 27.2 計 752.7 — 752.7 586.0 — 586.0 幹線排水路 東部第六 35.5 — — — 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — 北部第一の三 28.9 — 28.9 — — — 北部第一の三 91.4 — 91.4 — —		北部第二	53. 7		53. 7	19.6	_	19. 6	
北部第五 17.5 — — — 北部第六 27.2 — 27.2 27.2 — 27.2 計 752.7 — 752.7 586.0 — 586.0 東部第六 35.5 — 35.5 — — 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — 北部第一の三 28.9 — 28.9 — — — 北部第一の三 91.4 — 91.4 — —			9. 2		9. 2		_		
北部第六 27.2 — 27.2 27.2 — 27.2 計 752.7 — 752.7 586.0 — 586.0 幹線排水路 東部第六 35.5 — 35.5 — — 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — 北部第一の二 28.9 — 28.9 — — — 北部第一の三 91.4 — 91.4 — — —		北部第四	20.6		20.6	2.8	_	2.8	
計 752.7 - 752.7 586.0 - 586.0 幹線排水路 東部第六 35.5 - 35.5 - - - 東部第七 27.2 - 27.2 18.3 - 18.3 東部第八 8.4 - 8.4 8.4 - 8.4 東部第九 10.9 - 10.9 - 10.9 計 82.0 - 82.0 37.6 - 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 - 69.6 - - - 北部第一の二 28.9 - 28.9 - - - 北部第一の三 91.4 - 91.4 - - -			17. 5		17.5		_		
幹線排水路 東部第六 35.5 — — — 東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第八 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — 北部第一の二 28.9 — 28.9 — — — 北部第一の三 91.4 — 91.4 — —			27. 2	_	27. 2	27. 2	_	27. 2	
東部第七 27.2 — 27.2 18.3 — 18.3 東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — 128.9 — 128.9 — — 128.9 — — 128.9 — — 128.9 — — 128.9 — — 128.9 — 128.9 — — 128.9 — — 128.9 — — 128.9 —			752. 7	_	752.7	586.0	_	586. 0	
東部第八 8.4 — 8.4 8.4 — 8.4 東部第九 10.9 — 10.9 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — 北部第一の二 28.9 — 28.9 — — — 北部第一の三 91.4 — 91.4 — —	幹線排水路	東部第六	35. 5		35. 5		_		
東部第九 10.9 — 10.9 — 10.9 計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — 北部第一の二 28.9 — 28.9 — — — 北部第一の三 91.4 — 91.4 — — —		東部第七	27. 2		27. 2	18.3	_	18. 3	
計 82.0 — 82.0 37.6 — 37.6 鷲川 北部第一の一 69.6 — 69.6 — — — 北部第一の二 28.9 — 28.9 — — — 北部第一の三 91.4 — 91.4 — —			8.4	_	8.4	8.4	_	8. 4	
鷲川 北部第一の一 69.6 一 69.6 一 一 北部第一の二 28.9 一 28.9 一 一 北部第一の三 91.4 一 91.4 一 一			10.9	_	10.9	10.9	_	10. 9	
北部第一の二 28.9 — 28.9 — — 北部第一の三 91.4 — 91.4 — —		計	82.0	_	82.0	37.6	_	37. 6	
北部第一の三 91.4 - 91.4	鷲川		69. 6	_	69.6	_	_		
		北部第一の二	28.9	_	28.9	_	_		
計 180 0 — 180 0 — — —		北部第一の三	91. 4	_	91.4	_	_	_	
FI 103. 3 103. 3		計	189. 9	_	189. 9		_	_	
佐野地区 計 2,200.2 38.4 2,238.6 1,042.4 — 1,042.4	佐野	予地区 計	2, 200. 2	38. 4	2, 238. 6	1, 042. 4	_	1, 042. 4	

表 2.2.4 排水区別計画面積 (2/2)

単位: ha

全体計画 事業計画								
放流先	排水区名		全体計画					
河川名		市街化 区域	市街化 調整区域	計	市街化 区域	市街化 調整区域	計	備考
秋山川	秋山川第1	20.0	_	20.0		_	_	
	秋山川第2	97.0	_	97.0		_	_	
	秋山川第3	1.3	_	1.3		_	_	
	秋山川第4	60.4	_	60.4	25.9	_	25. 9	
	中部第六の二	1.3	_	1.3		_	_	
	計	180.0	_	180.0	25.9	_	25. 9	
菊沢川	菊沢川第1	132. 2	_	132. 2		_	_	
	菊沢川第2	95. 4	_	95.4	1	_	_	
	菊沢川第3	27.4	_	27.4		_	_	
	菊沢川第4	_	9.6	9.6	1	_	_	
	計	255.0	9.6	264.6	1	_	_	
秋山川	中央	37.4	_	37.4	1	_	_	
	中央西	6.4	_	6.4	1	_	_	
	鉢木	29. 1	_	29. 1	1	_	_	
	秋山川左岸第1	10.6	_	10.6	1	_	_	
	秋山川左岸第2	20.5	_	20.5	1	_	_	
	秋山川左岸第3	21.7	_	21.7	1	_	_	
	山菅第1	2. 2	_	2.2	1	_	_	
	山菅第2	7. 1	_	7.1	1	_	_	
	山菅第3	23.0	_	23.0	-	_	_	
	計	158.0	_	158.0		_	_	
小曽戸川	村樫川	33.0	_	33.0		_	_	
	小曽戸川右岸第1	15. 4	_	15.4		_	_	
	小曽戸川右岸第2	13. 5	_	13.5		_	_	
	小曽戸川左岸	20. 7	_	20.7		_	_	
	計	82.6	_	82.6		_	_	
荒久川	荒久川第1	12. 9	_	12.9		_	_	
	荒久川第2	22. 9	_	22.9		_	_	
	計	35.8	_	35.8	_	_	_	
田沼・葛生地区 計		711.4	9.6	721.0	25.9	0.0	25. 9	
合計		2, 911. 6	48.0	2, 959. 6	1, 068. 3	0.0	1, 068. 3	

2.3 管渠、処理施設及びポンプ場の位置の決定の理由

(1) 管渠

管渠のルートは原則として公道を利用し、地形、道路幅員、地下埋設物などを考慮して決定した。

(2) 処理施設

処理施設の位置は、地形上汚水の集約及び処理水の放流が容易であること、十分な用地が確保できること、さらに土地利用上からも適正な位置であること等を勘案して選定した。

(3) 中継ポンプ場

① 伊勢山中継ポンプ場

栄町より北側低地部の汚水系統は、自然流下では下流側の幹線管渠へ接続できないため、本ポンプ場を設け栄町工業団地内の幹線管渠まで圧送することとした。

② 秋山川中継ポンプ場、高萩中継ポンプ場

渡良瀬川上流流域下水道(秋山川処理区)施設として栃木県において管理されていたが、関連公共下水道が1つになったため、平成26年度の事業計画変更で単独公共下水道である佐野市公共下水道施設として位置づけられた。

3. 計画下水量及びその算出の根拠

3.1 人口及び人口密度並びにこれらの推定の根拠

(1) 行政人口

本市の行政人口は、平成5年度の129,187人をピークとして年々減少傾向をたどっており、平成22年度では122,229人となっている。今後大きな社会情勢の変化等がない限り、全国他都市と同様、この傾向は将来まで続くと想定される。

このような状況を勘案して、「佐野市生活排水処理構想(以下、市基本構想という。)」では「社人研」の推計人口を採用し、令和7年度において106,840人とした。また、「利根川流域別下水道整備総合計画(以下、流総計画という。)」においては、「市基本構想」の令和7年度の予測人口を令和8年度にスライドして採用している。

本計画では、将来行政人口として「市基本構想 = 社人研」の推計人口に基づく「流総計画人口」を採用する。

	項目	平成22年度	令和2年度	令和4年度	令和7年度	令和8年度		_
項		[実績値]	前々回事業 計画年次	前回事業 計画年次	今回事業 計画年次	全体計画 目標年次	備	考
行政人口	(人)	122, 229	111, 920	109, 930	106, 840	106, 840		
減少率	(%)	100.0	91.6	89. 9	87. 4	87.4		

表 3.1.1 本計画行政人口

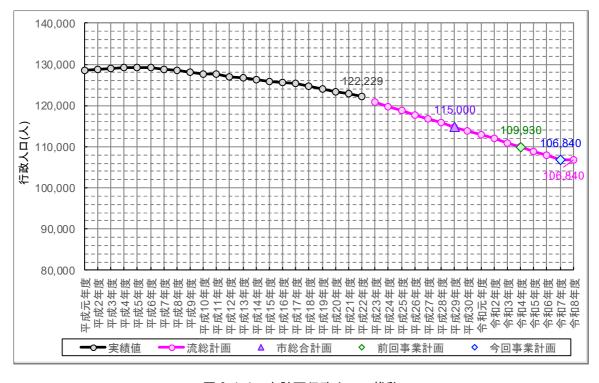


図 3.1.1 本計画行政人口の推移

(2) 計画人口

全体計画人口は、令和8年度において「流総計画」に準拠した80,000人のうち、平成28年度全体計画見直しにおいて削減した市街化調整区域239.3ha分の人口344人を減じて、80,456人とする。令和8年度の計画人口は、令和7年度と同値である。

表 3.1.2 全体計画人口

項目	平成22年度	令和2年度 前々回事業 計画年次	令和4年度 前回事業 計画年次	令和7年度 今回事業 計画年次	令和8年度 全体計画 目標年次	備	考
減少率 (%)	100.0	91.6	89. 9	87. 4	87. 4		
市街化区域人口 (人)	81, 019	74, 122	72, 046	71, 004	71,004		
市街化調整区域人口(人)	11, 403	10, 508	10, 031	9, 452	9, 452		
全体計画人口 (人)	92, 422	84, 630	82, 077	80, 456	80, 456		

また、事業計画人口は、今回追加する区域内の人口(令和7年度)を既事業計画人口に加えて設定した。

表 3.1.3 事業計画人口(令和7年度)

	既事業計画		今回追加区域		今回事業計画			
項目	計画面積	計画人口	区域面積	区域人口	計画面積	計画人口	備	考
	(ha)	(人)	(ha)	(人)	(ha)	(人)		
市街化区域	2, 719. 1	66, 346	33.6	94	2, 752. 7	68, 077		
市街化調整区域	459. 7	8, 458	38.0	1,680	497.7	9, 452		
計	3, 178. 8	74, 804	71.6	1,774	3, 250. 4	77, 529		

表 3.1.4 計画人口総括表

項目	全体計画 (令和8年度)	事業計画 (令和7年度)	備	考
採用値	80, 456	77, 529		

処理地区別の計画人口を、表 3.1.5、表 3.1.6 に示す。

表 3.1.5 地区別計画人口(全体計画:令和8年度)

	計	画面積(ha)	計	画人口(人)	
処理地区	市街化 区域	市街化 調整区域	計	市街化 区域	市街化 調整区域	計	備考
佐野第1	31.4	0.5	31. 9	1, 271	3	1, 274	
佐野第2-1	159.7	3. 6	163. 3	3, 466	39	3, 505	
佐野第2-2	_	16. 1	16. 1	_	143	143	
佐野第2-3-1	20. 2	1.2	21. 4	317	17	334	
佐野第2-3	1.6	28. 2	29.8	71	308	379	
佐野第2-4	_	3. 7	3. 7	_	49	49	
佐野第2-5	7.5		7. 5	243	_	243	
佐野第2-5-1	6. 4		6. 4	127	_	127	
佐野第2-5-2	16. 1		16. 1	482	_	482	
佐野第3	47.5		47. 5	1, 586	_	1, 586	
佐野第3-1	_	11. 4	11. 4		95	95	
佐野第3-2	_	4. 8	4. 8	_	96	96	
佐野第4	67.8	36. 3	104. 1	1, 597	657	2, 254	
佐野第5	1.0	_	1. 0	39	_	39	
佐野第5-1	14. 2	_	14. 2	390	_	390	
佐野第6	28. 8	_	28. 8	703	_	703	
佐野第7	131. 2	143. 9	275. 1	2, 324	4, 704	7, 028	
佐野第8	23.6	11. 2	34. 8	247	123	370	
佐野第9	12. 3	15. 8	28. 1	220	126	346	
佐野第10	27. 2	_	27. 2		_		
佐野第11	27. 0		27. 0	455		455	
佐野第12	115. 7		115. 7	2, 357	_	2, 357	
佐野第13	17. 4	_	17. 4	505	_	505	
佐野第14	52. 2		52. 2	708	_	708	
佐野第15	40. 3	37. 1	77. 4	1, 423	540	1, 963	
佐野第16	17. 3	2. 7	20. 0	766	46	812	
佐野第17	7. 7	14. 4	22. 1	200	244	444	
佐野中央	1, 327. 4	103. 2	1, 430. 6	35, 919	320	36, 239	
田沼第1-1	41.7	_	41. 7	552	_	552	
田沼第1-2	35. 5	_	35. 5	996	_	996	
田沼第2-1	14.6	_	14. 6	389	_	389	
田沼第2-2	18. 0	_	18. 0	481	_	481	
田沼第2-3	17.0	_	17. 0	468	_	468	
田沼第2-4	82. 9	4. 4	87. 3	2, 302	46	2, 348	
田沼第3-1	49. 2	1. 3	50. 5	1, 330	_	1, 330	
田沼第3-2	73. 8	1. 7	75. 5	1, 855	19	1,874	
田沼第3-3	34. 2	_	34. 2	94	_	94	
田沼第4-1	_	2. 0	2. 0	_	_	_	
田沼第4-2	98. 7	_	98. 7	3, 209	_	3, 209	
田沼第5	_	12. 4	12. 4		141	141	
葛生第1	104.8	38. 3	143. 1	816	1, 689	2, 505	
葛生第2-1	73. 0	0.9	73. 9	1, 295	10	1, 305	
葛生第2-2	0.7	_	0. 7	50	_	50	
葛生第4-1	21. 2	0. 2	21. 4	508	2	510	
葛生第4-2	29. 2	2. 4	31. 6	691	35	726	
葛生第4-3	15. 6	_	15. 6	552	_	552	
合計	2, 911. 6	497. 7	3, 409. 3	71,004	9, 452	80, 456	

表 3.1.6 地区別計画人口(事業計画:令和7年度)

	計	画面積(ha))	計	画人口(人)	
処理地区	市街化 区域	市街化 調整区域	計	市街化 区域	市街化 調整区域	計	備考
佐野第1	31.4	0.5	31. 9	1, 271	3	1, 274	
佐野第2-1	141.7	3.6	145. 3	3,075	39	3, 114	
佐野第2-2	_	16. 1	16. 1	_	143	143	
佐野第2-3-1	20. 2	1. 2	21. 4	317	17	334	
佐野第2-3	1.6	28. 2	29.8	71	308	379	
佐野第2-4	_	3. 7	3. 7	_	49	49	
佐野第2-5	7.5	_	7. 5	243	_	243	
佐野第2-5-1	6.4	_	6. 4	127	_	127	
佐野第2-5-2	16. 1	_	16. 1	482	_	482	
佐野第3	47.5	_	47. 5	1, 586	_	1, 586	
佐野第3-1	_	11. 4	11. 4		95	95	
佐野第3-2	_	4.8	4.8	_	96	96	
佐野第4	67.8	36. 3	104. 1	1, 597	657	2, 254	
佐野第5	1.0	_	1. 0	39	_	39	
佐野第5-1	14. 2	_	14. 2	390	_	390	
佐野第6	28.8	_	28. 8	703	_	703	
佐野第7	131. 2	143. 9	275. 1	2, 324	4, 704	7, 028	
佐野第8	23.6	11. 2	34. 8	247	123	370	
佐野第9	9. 3	15. 8	25. 1	166	126	292	
佐野第10	27. 2	_	27. 2	_	_		
佐野第11	27. 0		27. 0	455	_	455	
佐野第12	115. 7		115. 7	2, 357	_	2, 357	
佐野第13	17.4	_	17. 4	505	_	505	
佐野第14	52. 2	_	52. 2	708	_	708	
佐野第15	40.3	37. 1	77. 4	1, 423	540	1, 963	
佐野第16	17. 3	2. 7	20. 0	766	46	812	
佐野第17	7.7	14. 4	22. 1	200	244	444	
佐野中央	1, 309. 6	103. 2	1, 412. 8	35, 437	320	35, 757	
田沼第1-1	_	_			_		
田沼第1-2	35. 5	_	35. 5	996	_	996	
田沼第2-1	14.6	_	14. 6	389	_	389	
田沼第2-2	18.0	_	18. 0	481	_	481	
田沼第2-3	17.0	_	17. 0	468	_	468	
田沼第2-4	82. 9	4. 4	87. 3	2, 302	46	2, 348	
田沼第3-1	49. 2	1. 3	50. 5	1, 330	_	1, 330	
田沼第3-2	73.8	1. 7	75. 5	1, 855	19	1,874	
田沼第3-3	34. 2	_	34. 2	94	_	94	今回94人追加
田沼第4-1	_	2.0	2. 0	_	_	_	
田沼第4-2	64.8	_	64. 8	2, 107	_	2, 107	
田沼第5	_	12.4	12. 4	_	141	141	
葛生第1	60.3	38. 3	98. 6	470	1,689	2, 159	今回1,680人追加
葛生第2-1	73.0	0.9	73. 9	1, 295	10	1, 305	
葛生第2-2	0.7	_	0.7	50	_	50	
葛生第4-1	21. 2	0. 2	21. 4	508	2	510	
葛生第4-2	29. 2	2.4	31. 6	691	35	726	
葛生第4-3	15.6	_	15. 6	552	_	552	
合計	2, 752. 7	497.7	3, 250. 4	68, 077	9, 452	77, 529	

3.2 1人1日当りの汚水の量及びその推定の根拠

生活汚水量原単位と営業汚水量原単位を加えた値を、1人1日当り汚水量と称する。1人1日当たり汚水量は、「平成28年全体計画」の値を採用する。「平成28年全体計画」では、上水道の給水実績に基づき予測値を採用しており、将来の伸びは見込んでいない。また、1人1日当たり汚水量の時間変動比及び日変動比についても、「平成28年全体計画」の比を採用する。

日平均:日最大:時間最大 = 0.70 : 1.00 : 1.50

表 3.2.1 1人1日当り汚水量(事業計画=全体計画)

単位:L/人・日

区分	項目	全体計画 (令和8年度)	事業計画 (令和7年度)	備考
	生活汚水	270	270	
日平均	営業汚水	70	70	営業用水率:26%
	計	340	340	
	生活汚水	385	385	
日最大	営業汚水	100	100	
	計	485	485	
	生活汚水	580	580	
時間最大	営業汚水	150	150	
	計	730	730	

3.3 家庭下水、工場排水、地下水等の量及びこれらの推定の根拠

(1) 生活系汚水量

生活系汚水量は、生活汚水量と営業汚水量を加えたもので、計画人口に1人1日当り 汚水量を乗じて算定する。

表 3.3.1 生活系汚水量(全体計画:令和8年度)

項目	計画人口 (人) ①	1人1日当り 汚水量 (L/人・日) ②	生活系汚水量 (㎡/日) ①×②	備考
日平均		340	27,355 = 27,360	
日最大	80, 456	485	39, 021 ≒ 39, 030	
時間最大		730	$58,733 \div 58,740$	

表 3.3.2 生活系汚水量(事業計画:令和7年度)

項目	計画人口 (人) ①	1人1日当り 汚水量 (L/人・日) ②	生活系汚水量 (㎡/日) ①×②	備考
日平均		340	26,360 = 26,360	
日最大	77, 529	485	37,602 = 37,610	
時間最大		730	$56,596 \Rightarrow 56,600$	

(2) 工場排水量

1)全体計画工場排水量

口径 20mm以上の上水道有収水量のうち、工場用として判定した量(上水道及び下水道 有収水量ベスト 100 より工場と判定した量)を上水道水源の工場排水量とし、さらに井 戸水水源の工場排水量を加えて日平均工場排水量とする。ただし、下水道未整備区域の 井戸水を水源とする工場排水量の把握は困難であり、その量は微少と判断して計上しな い。

表 3.3.3 工場排水量(日平均)の現況推移調査

左曲	一人が石	有収	双水量(工場用)=工場排水量	畫	/# **
年度	水源		(m³/年)	(m³/目)	備考
	上水道	2, 030, 449	上水道有収水量	5, 563	
平成23	井 戸	128, 049	下水道有収水量ベスト100より	351	
	計	2, 158, 498	_	5, 914	
	上水道	2, 063, 424	上水道有収水量	5, 653	
平成24	井 戸	119, 574	下水道有収水量ベスト100より	328	
	計	2, 182, 998	_	5, 981	
	上水道	2, 085, 461	上水道有収水量	5, 714	
平成25	井 戸	112, 590	下水道有収水量ベスト100より	308	
	計	2, 198, 051	_	6, 022	
	上水道	2, 091, 225	上水道有収水量	5, 729	
平成26	井 戸	132, 595	下水道有収水量ベスト100より	363	
	計	2, 223, 820	_	6, 093	
	上水道	2, 036, 221	上水道有収水量	5, 579	
平成27	井 戸	123, 190	下水道有収水量ベスト100より	338	
	計	2, 159, 411	_	5, 916	
	上水道	2, 061, 356	上水道有収水量	5, 648	
5か年 平均	井 戸	123, 200	下水道有収水量ベスト100より	338	
	計	2, 184, 556	_	5, 985	
		設 定 値(化	读 補)	6,000	

「平成28年 全体計画」より

調査結果は表 3.3.3 に示すとおり 6,000 ㎡/日となり、流総計画値 5,660 ㎡/日とはやや開きがある。しかし、その差は 6%程度であり、全体計画汚水量(日最大)に対しては 1%未満であるため、本計画では流総計画値を採用し、年次変化はないものとする。また、産業中分類別の工場排水量(表 3.3.4)についても流総計画値を採用する。

表 3.3.4 産業中分類別全体計画工場排水量(日平均)

単位: m³/日

				平位, III/ H
産業中分類	甲種工場	甲種以外 工場	計	備考
9 食料品	458	130	588	
10 飲料・たばこ・飼料	_	3	3	
11 繊維工業	4	646	650	
12 衣服・その他の繊維製品	2	13	15	
13 木材・木製品	_	_	_	
14 家具・装備品	_	1	1	
15 パルプ・紙・紙加工品	63	172	235	
16 印刷・同関連産業	4	50	54	
17 化学工業	333	_	333	
18 石油・石炭製品	_	29	29	
19 プラスチック製品	129	138	267	
20 ゴム製品	229	17	246	
21 なめし革・同製品・毛皮	_	48	48	
22 窯業・土石製品	1, 120	766	1,886	
23 鉄鋼業	13	35	48	
24 非鉄金属	_	9	9	
25 金属製品	31	145	176	
26 一般機械器具	64	45	109	
27 精密機械器具	19	25	44	
28 電子部品・デバイス	_	_	_	
29 電気機械器具	5	_	5	
30 情報通信機械器具	475	95	570	
31 輸送用機械器具	272	8	280	
32 その他	48	13	61	
∌ I.	3, 269	2, 388	5, 657	
計	≒ 3, 270	≑ 2, 390	≒ 5,660	

注) 甲種工場:従業員30人以上の事業所

「流総計画」より

甲種以外工場:従業員30人未満の事業所

工場排水量の変動比は、流総計画値を採用し、以下のとおりとする。

日平均:日最大:時間最大 = 1 : 1 : 2

2) 事業計画工場排水量

事業計画工場排水量については、原則的に全体計画工場排水量と同じとする。

しかし、事業計画においては、田沼第 1-1 地区および田沼第 3-3 地区が未整備であることから、この分の工場排水量(日平均 100 ㎡/日)を減じる。

事業計画工場排水量は、表3.3.5のとおりとする。

表 3.3.5 工場排水量(全体計画,事業計画)

単位: m³/日

DZ //		全体計画				備	考	
区分	日平均	日最大	時間最大	日平均	日最大	時間最大	7)用	45
甲種工場	3, 270	3, 270	6, 540	3, 270	3, 270	6, 540		
甲種以外	2, 390	2, 390	4, 780	2, 290	2, 290	4, 580		
計	5, 660	5, 660	11, 320	5, 560	5, 560	11, 120		

注) 甲種工場:従業員30人以上の事業所

甲種以外工場:従業員30人未満の事業所

(3) 地下水量

1) 地下水量原単位

地下水量原単位は、表 3.3.6 に示すとおり、日最大 1 人 1 日当り汚水量の 20%を見込み、日変動、時間変動はないものとする。

表 3.3.6 地下水量原単位 (事業計画=全体計画)

区分	日最大 1人1日当り 汚水量 (L/人・日)	地下水率	地下水量 原単位 (L/人·日)	備考
	(1)	2	0×2	
日平均 日最大 時間最大	485	20%	100	

2) 地下水量

地下水量は、計画人口に地下水量原単位を乗じて算定する。

表 3.3.6 地下水量

区分	計画人口 (人) ①	地下水量 原単位 (L/人・日) ②	地下水量 (㎡/日) ①×②	備考
全体計画	80, 456	100	8,046 ≒ 8,050	
事業計画	77, 529	100	$7,753 \; \doteq \; 7,760$	

(4) その他汚水量

生活系汚水や工場排水に分類されないが、計画区域の端(上流)に位置し、かつ排水量の著しく大きな施設またはその反対(著しく小さい)の施設については、その他汚水として計上する。その他汚水は、「平成28年度全体計画」のとおり「みかも山公園」、「佐野サービスエリア」及び「道の駅どまんなかたぬま」を見込む。

表 3.3.7 その他汚水量(事業計画=全体計画)

単位: m³/日

名 称	日平均	日最大	時間最大	備考
みかも山公園	10	10	30	
佐野サービスエリア	360	900	1,800	
道の駅どまんなかたぬま	60	80	240	
計	430	990	2, 070	

1) みかも山公園の汚水量

当公園の平成 22 年における下水道有収水量実績 10 ㎡/日を、日平均汚水量とする。日最大については、生活系汚水と同様、日平均:日最大 = 0.7:1.0 とし $10\div0.7=14.3$ $\div 10 ㎡/日とする。時間最大については、排水が 9 時~17 時の 8 時間に集中するものとみなして日最大の <math>3.0$ 倍とし、30 ㎡/日とする。

2) 佐野サービスエリアの汚水量

平成 22 年における合併処理浄化槽の日平均処理水量は 360 ㎡/日であり、年間最大処理水量は 900 ㎡/日であることから、当地区における計画汚水量は日平均 360 ㎡/日、日最大 900 ㎡/日とする。また、時間最大は、排水が 8 時~20 時の 12 時間に集中するものとみなして日最大の 2.0 倍とし、1,800 ㎡/日とする。

3) 道の駅どまんなかたぬまの汚水量

平成 22 年における下水道有収水量実績 57≒60 ㎡/日を、日平均汚水量とする。変動 比、日平均:日最大は生活系汚水と同様、0.7:1.0 とすると、日最大汚水量は 57÷0.78 = 81≒80 ㎡/日となる。また、時間最大は、排水が 9 時~17 時の 8 時間に集中するもの とみなして日最大の 3.0 倍とし、240 ㎡/日とする。

4) 汚水共同処理について

佐野市水処理センターに隣接する「佐野地区衛生施設組合 佐野地区衛生センター」の 施設老朽化に伴い、効率的な事業運営の観点から、佐野地区衛生センターで除渣された し尿・浄化槽汚泥等を佐野市水処理センターへ受け入れ、共同処理を行う。

佐野地区衛生センターにおけるし尿・浄化槽汚泥等の搬入量の推移を表 3.3.8 に、日平均処理量の推移を図 3.3.1 に示す。

表 3.3.8 佐野地区衛生センターにおけるし尿・浄化槽汚泥搬入量の推移

年度	し尿	浄化槽汚泥	その他	合計	搬入日数	日平均
	搬入量	搬入量	受入量			処理量
	(kL)	(kL)	(kL)	(kL)	(日)	(kL/日)
H17	18, 097. 5	26, 191. 6	4, 468. 7	48, 757. 7	278	175. 4
H18	16, 448. 7	26, 774. 0	6, 281. 8	49, 504. 4	273	181. 3
H19	16, 053. 0	25, 967. 1	5, 288. 7	47, 308. 9	275	172. 0
H20	15, 578. 0	24, 260. 8	3, 741. 9	43, 580. 7	275	158. 5
H21	14, 453. 5	23, 502. 5	4, 181. 0	42, 137. 0	277	152. 1
H22	14, 240. 5	23, 864. 8	4, 109. 7	42, 215. 1	279	151. 3
H23	13, 607. 2	22, 958. 2	5, 459. 1	42, 024. 4	274	153. 4
H24	13, 054. 9	21, 897. 1	4, 362. 0	39, 314. 0	274	143. 5
H25	12, 340. 3	21, 937. 4	4, 131. 5	38, 409. 2	275	139. 7
H26	11, 529. 6	22, 156. 7	2, 856. 6	36, 542. 9	280	130. 5
H27	9, 899. 4	23, 139. 2	3, 775. 0	36, 813. 5	279	131. 9
H28	8, 964. 8	22, 512. 2	2, 744. 9	34, 221. 9	277	123. 5
H29	8, 404. 4	22, 236. 2	3, 435. 3	34, 075. 9	279	122. 1
H30	7, 528. 1	23, 663. 7	3, 831. 0	35, 022. 7	277	126. 4
R元	6, 467. 2	23, 926. 7	3, 997. 0	34, 390. 9	278	123. 7

※その他受入量は、バキュームホース洗浄水、投入車室清掃水、公園及び施設トイレ排水を含む

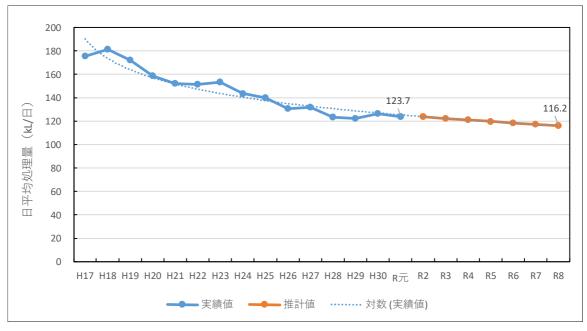


図 3.3.1 佐野地区衛生センターにおけるし尿・浄化槽汚泥の日平均処理量の推移

し尿・浄化槽汚泥の搬入量は減少傾向にあり、令和元年度の日平均値は 123.7kL/日となっている。また、近似式(対数曲線)による将来推計を行うと、図 3.3.1 のとおり、全体計画年次(令和8年)には 116.2kL/日まで減少するものと推定される。

し尿・浄化槽汚泥の受け入れは、令和3年度中に全量移送を開始する予定であることを踏まえ、本計画では現況値を10単位に切り上げ、計画受入量を130kL/日とする。

また、し尿・浄化槽汚泥の計画水質は、直近 5 か年(平成 27 年度~令和元年度)の平均水質を採用し、BOD: 4,500mg/L、SS: 7,000mg/L とする。

表 3.3.9 し尿・浄化槽汚泥等の水質

単位:mg/L

項目	平成2	7年度	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		5か年値	
項目	BOD	SS										
最 大	6, 900	9,600	7, 700	9, 500	6, 200	8,600	5, 400	8, 200	5, 900	9,600	7, 700	9,600
最 小	3, 300	5, 700	2,700	5, 300	2,800	5, 200	2,900	5, 500	2, 100	2,500	2, 100	2,500
平均	4, 960	7, 246	4, 848	7, 129	4, 246	6, 802	3, 919	6, 781	4, 271	7, 021	4, 449	6, 996
		•						•		採用値:	4,500	7,000

※5か年平均値を100単位で切り上げ

(5) 計画汚水量総括表

表 3.3.10 全体計画汚水量総括表 (令和 8 年度)

計画面積	計画人口	区八		全体計画汚水量 (m³/日)						
(ha)	(人)	区分	生活系	工場	地下水	その他	計	備考		
		日平均	27, 360	5, 660	8,050	430	41,500			
3, 409. 3	80, 456	日最大	39, 030	5, 660	8,050	990	53, 730			
		時間最大	58, 740	11, 320	8,050	2,070	80, 180			

表 3.3.11 事業計画汚水量総括表 (令和7年度)

計画面積	計画人口	区分		全体計画汚水量 (m³/日)						
(ha)	(人)	ムガ	生活系	工場	地下水	その他	計	備考		
		日平均	26, 360	5, 560	7,760	430	40, 110			
3, 250. 4	77, 529	日最大	37,610	5, 560	7,760	990	51,920			
		時間最大	56,600	11, 120	7,760	2,070	77, 550			

(6) ha 当り時間最大汚水量

1) 点投入施設

点投入扱いとする施設は、当該施設が流入した場合、最小管径 200mm、3‰の管渠余裕率が約 100%確保されなくなる量、すなわち時間最大汚水量 1,000 $\mathring{\text{m}}/\text{B}$ (=0.012 $\mathring{\text{m}}/\text{s}$) 以上の事業所とする。

最小管径 VU200mm、3.0‰の流下能力は0.024 m³/s である。したがって、対象となる事業所は、「佐野サービスエリア」(時間最大汚水量1,800 m³/日=0.021 m³/s)のみである。また、「チェルシージャパン」(時間最大汚水量496 m³/日=0.006 m³/s)も点投入扱いとする。「チェルシージャパン」は、佐野第14地区に位置し、点投入としなければ、この影響が当処理分区のその他(一般)地域に及ぶためである。

表 3.3.12 点投入施設(事業計画=全体計画)

処理地区	区分	事業所	所在地	計画面積 時間最大汚水量		間最大汚水量	備	考
处理地区	凸分	事 表別	別任地	(ha)	(m³/目)	(m^3/s)	7/用	与
佐野第14	営業 汚水量	チェルシージャパン	越名町	11.0	496	0.006		
		みかも山公園	西浦町	74.0	30	0.0003 \(\dip 0.001		
佐野中央	営業 汚水量	佐野サービスエリア	黒袴町	9.0	1,800	0.021		
	17/1	計		83. 0	1,830	0. 022		

処理地区別の ha 当り時間最大汚水量を、表 3.3.12、表 3.3.13 に示す。

表 3.3.13 ha 当り時間最大汚水量(全体計画:令和 8 年度)

		計画面積	計画人口		計画時間長	最大汚水量	(m³/H)		ha当り汚水量	
処理地区	区分			4.江 万				計		備考
佐野第1	一般	(ha) 31.9	(人)	生活系 930	工場	地下水	その他	1,057	(m³/s/ha) 0.000384	
佐野第2-1	一般	163. 3	3, 505	2, 559	38	351	_	2,948	0.000209	
佐野第2-2 佐野第2-2	一般	16. 1	143	104	30	14		118	0. 000209	
佐野第2-3-1	一般	21. 4	334	244		33		277	0.000083	
佐野第2-3 佐野第2-3	一般		379	277		38				
佐野第2-3 佐野第2-4		29.8	49		_			315	0.000122	
	一般	3. 7		36	_	5		41	0.000128	
佐野第2-5	一般	7.5	243	177	_	24		201	0.000310	
佐野第2-5-1	一般	6. 4	127	93		13		106	0.000192	
佐野第2-5-2 佐野第2	一般	16. 1	482	352		48		400	0. 000288	
佐野第3	一般	47. 5	1, 586	1, 158		159	_	1,317	0.000321	
佐野第3-1	一般	11. 4	95	69	32	10	_	111	0.000113	
佐野第3-2	一般	4.8	96	70		10		80	0.000193	
佐野第4	一般	104. 1	2, 254	1, 645	416	225	_	2, 286	0.000254	
佐野第5	一般	1. 0	39	28	4	4	_	36	0.000417	
佐野第5-1	一般	14. 2	390	285	58	39	_	382	0. 000311	
佐野第6	一般	28. 8	703	513	96	70	_	679	0.000273	
佐野第7	一般	275. 1	7, 028	5, 130	832	703		6,665	0. 000280	
佐野第8	一般	34. 8	370	270	90	37		397	0. 000132	
佐野第9	一般	28. 1	346	253	48	35	_	336	0.000138	
佐野第10	一般	27. 2	_		200		_	200	0.000085	佐野インター産業団地
佐野第11	一般	27.0	455	332	38	46	_	416	0.000178	
佐野第12	一般	115. 7	2, 357	1,721	100	236	_	2,057	0. 000206	
佐野第13	一般	17. 4	505	369	14	51		434	0. 000289	
	一般	41.2	708	21	244	71	_	336	0.000094	
佐野第14	点投入	11.0	_	496	_		_	496	$(0.006\text{m}^3/\text{s})$	チェルシージャパン
	計	52. 2	708	517	244	71	_	832	_	
佐野第15	一般	77.4	1, 963	1,433	28	196	_	1,657	0. 000248	
佐野第16	一般	20.0	812	593	4	81	_	678	0. 000392	
佐野第17	一般	22. 1	444	324	_	44	_	368	0.000193	
	一般	1, 347. 6	36, 239	26, 459	7,656	3,626	_	37, 741	0.000324	
佐野中央	点投入	83.0	_	_	_		1,830	1,830	$(0.022\text{m}^3/\text{s})$	みかも山公園, 佐野SA
	計	1, 430. 6	36, 239	26, 459	7,656	3,626	1,830	39, 571	_	
田沼第1-1	一般	41.7	552	403	186	55	_	644	0.000179	
田沼第1-2	一般	35. 5	996	727	_	100		827	0.000270	
田沼第2-1	一般	14.6	389	284	_	39	_	323	0.000256	
田沼第2-2	一般	18.0	481	351	_	48		399	0.000257	
田沼第2-3	一般	17. 0	468	342	_	47		389	0.000265	
田沼第2-4	一般	87. 3	2, 348	1,714	10	235		1,959	0. 000260	
田沼第3-1	一般	50. 5	1, 330	971	14	133		1,118	0. 000256	
田沼第3-2	一般	75. 5	1,874	1, 368	110	187		1,665	0. 000255	
田沼第3-3	一般	34. 2	94	69	24	9	_	102	0.000035	
田沼第4-1	一般	2.0	_	_	_	_	240	240	0.001389	道の駅どまんなかたぬま
田沼第4-2	一般	98. 7	3, 209	2, 343	40	321	_	2,704	0.000317	
田沼第5	一般	12. 4	141	103	_	14	_	117	0.000109	
葛生第1	一般	143. 1	2, 505	1,829	914	251	_	2,994	0.000242	
葛生第2-1	一般	73. 9	1, 305	953	114	131	_	1, 198	0.000188	
葛生第2-2	一般	0. 7	50	37	_	5	_	42	0.000694	
葛生第4-1	一般	21. 4	510	372	10	51	_	433	0.000234	
葛生第4-2	一般	31. 6	726	530	_	73	_	603	0.000221	
葛生第4-3	一般	15.6	552	403	_	55	_	458	0.000340	

表 3.3.14 ha 当り時間最大汚水量(事業計画:令和7年度)

		計画面積	計画人口		計画時間長	最大汚水量	(m³/日)		ha当り汚水量	
処理地区	区分			4.75.75				÷1		備考
佐野第1	一般	(ha) 31.9	(人) 1,274	生活系 930	工場	地下水	その他	計 1,057	(m³/s/ha) 0.000384	
					20					
佐野第2-1	一般	145. 3	3, 114	2, 273	38	311	_	2,622	0.000209	
佐野第2-2	一般	16. 1	143	104	_	14	_	118	0.000085	
佐野第2-3-1	一般	21. 4	334	244	_	33	_	277	0.000150	
佐野第2-3	一般	29. 8	379	277	_	38	_	315	0.000122	
佐野第2-4	一般	3. 7	49	36		5	_	41	0.000128	
佐野第2-5	一般	7. 5	243	177	_	24	_	201	0.000310	
佐野第2-5-1	一般	6.4	127	93	_	13	_	106	0.000192	
佐野第2-5-2	一般	16. 1	482	352	_	48	_	400	0. 000288	
佐野第3	一般	47. 5	1, 586	1, 158	_	159	_	1,317	0. 000321	
佐野第3-1	一般	11. 4	95	69	32	10	_	111	0.000113	
佐野第3-2	一般	4.8	96	70	_	10	_	80	0.000193	
佐野第4	一般	104. 1	2, 254	1,645	416	225	_	2, 286	0.000254	
佐野第5	一般	1.0	39	28	4	4	_	36	0. 000417	
佐野第5-1	一般	14. 2	390	285	58	39	_	382	0.000311	
佐野第6	一般	28. 8	703	513	96	70	_	679	0.000273	
佐野第7	一般	275. 1	7, 028	5, 130	832	703	_	6,665	0.000280	
佐野第8	一般	34.8	370	270	90	37	_	397	0.000132	
佐野第9	一般	25. 1	292	213	48	29	_	290	0.000134	
佐野第10	一般	27. 2	_	_	200	_	_	200	0.000085	佐野インター産業団地
佐野第11	一般	27. 0	455	332	38	46	_	416	0.000178	
佐野第12	一般	115. 7	2, 357	1,721	100	236	_	2,057	0.000206	
佐野第13	一般	17. 4	505	369	14	51	_	434	0.000289	
	一般	41. 2	708	21	244	71	_	336	0.000094	
佐野第14	点投入	11.0	_	496	_	_	_	496	$(0.006\mathrm{m}^3/\mathrm{s})$	チェルシージャパン
	計	52. 2	708	517	244	71	_	832	_	
佐野第15	一般	77. 4	1, 963	1, 433	28	196	_	1,657	0.000248	
佐野第16	一般	20.0	812	593	4	81	_	678	0.000392	
佐野第17	一般	22. 1	444	324	_	44	_	368	0.000193	
	一般	1, 329. 8	35, 757	26, 106	7,656	3, 582	_	37, 344	0. 000325	
佐野中央	点投入	83. 0	_	_	_	_	1,830	1,830	(0.022 m³/s)	みかも山公園, 佐野SA
	計	1, 412. 8	35, 757	26, 106	7,656	3, 582	1,830	39, 174	_	
田沼第1-1	一般		_		_		_		_	
田沼第1-2	一般	35. 5	996	727	_	100	_	827	0.000270	
田沼第2-1	一般	14. 6	389	284	_	39	_	323	0. 000256	
田沼第2-2	一般	18. 0	481	351	_	48	_	399	0. 000257	
田沼第2-3	一般	17. 0	468	342	_	47	_	389	0. 000265	
田沼第2-4	一般	87. 3	2, 348	1,714	10	235	_	1,959	0. 000260	
田沼第3-1	一般	50. 5	1, 330	971	14	133	_	1,118	0. 000256	
田沼第3-2	一般	75. 5	1, 874	1, 368	110	187	_	1,665	0. 000255	
田沼第3-3	一般	34. 2	94	69	10	9	_	88	0. 000230	
田沼第4-1	一般	2. 0		_	_		240	240	0.001389	道の駅どまんなかたぬま
田沼第4-2	一般	64. 8	2, 107	1,538	40	211		1,789	0.001303	
田沼第5	一般	12. 4	141	1, 556		14	_	117	0.000320	
葛生第1	一般	98. 6	2, 159	1, 576	914	216	_	2,706	0.000109	
葛生第2-1	一般	73. 9	1, 305	953	114	131	_	1, 198	0.000318	
高生第2-2 葛生第2-2	一般	0.7	1, 303	37	114	5		42	0.000188	
					10		_			
葛生第4-1	一般	21. 4	510	372 520	10	51	_	433	0. 000234	
葛生第4-2	一般	31.6	726	530	_	73	_	603	0.000221	
葛生第4-3	一般	15.6	552	403	- 11 100	55	0.070	458	0.000340	
合計	_	3, 250. 4	77, 529	56,600	11, 120	7, 760	2,070	77, 550	_	

3.4 計画雨水量及びその推定の根拠

(1) 雨水流出量算出式

雨水流出量の算出は合理式により行う。合理式は次のように表わされる。

合理式
$$Q = \frac{1}{360} \cdot C \cdot I \cdot A$$

ここに、Q: ピーク流出量 (m³/秒)

C:流出係数

I:降雨強度 (mm/時) *A*:排水面積 (ha)

(2) 降雨強度式

本市は、平成22年度以前は、「下水道雨水流出量に関する研究報告書(昭和43年3月) 土木学会」により降雨強度式を算出していた。平成23年度以降は、近年の短時間局地的 集中豪雨を反映した最新の降雨実測データから、計画降雨強度を確率年別に算定し、本 市の雨水整備水準(降雨確率年)を設定する。

1) 採用降雨データ

本計画において採用する降雨データは、地域特性を最も反映する、

- ①「佐野アメダス」の 60 分間毎年最大降雨量(2009 年 1 月以前は 10 分間降水量の観測はしていない)
- ②「宇都宮地方気象台」と「熊谷地方気象台」の 10 分間毎年最大降雨量の加重平均値(近隣気象台補正値)

とする。また、データの期間は、近年の短時間の激しい降雨がより反映される過去 20 年間とする。表 3.4.2 に、本計画で採用した降雨データを示す。

2) 確率年別の降雨強度式

降雨強度式は、「降雨確率年に関する国の考え方」を参考に、最低を5年確率、最高を 10年確率、その中間として7年確率の3ケースについて算定する。

表 3.4.1 降雨確率年に関するこれまでの国の考え方

項目	内容
設計指針 (2019 年版)	計画降雨に採用する確率年は、5~10年を標準とする。
都市計画法施行規則第22条	5年に1回の確率で想定されている降雨強度以上。
都市計画中央審議会答申 (平成7年)	当面 5 年に 1 回程度の大雨に対する安全度の確保、21 世紀初頭に向けては少なくとも 10 年に 1 回程度の大雨、将来的には都市の規模や都市内河川の整備目標との整合に配慮して概ね 30 年から 50 年に 1 回程度の大雨に対して施設整備を進める。

表 3.4.2 降雨データ (佐野アメダス, 近隣気象台補正値)

		本計画採用	降雨データ	近隣地方気	象台観測値	
		60分間最大	10分間最大	10 分 間	引 最 大	
No.	年	(mm/hr)	(mm/10min)	(mm/1	0min)	備考
		佐 野	① と ② の	1	2	
		AMeDAS	加重平均值	宇都宮	熊谷	
1	1991	47.0	13.1	15.0	12.0	
2	1992	24.0	22.3	32.0	16.5	
3	1993	25.0	11.4	12.0	11.0	
4	1994	36.0	21.0	24.5	19.0	
5	1995	37.0	23.8	23.5	24.0	
6	1996	24.0	12.9	11.0	14.0	
7	1997	25.0	20.9	22.5	20.0	
8	1998	45.0	17.6	16.0	18.5	
9	1999	44.0	16.6	15.0	17.5	
10	2000	40.0	20.7	24.5	18.5	
11	2001	21.0	27.7	22.0	31.0	
12	2002	38.0	22.6	29.5	18.5	- 10000
13	2003	36.0	14.1	15.0	13.5	
14	2004	48.0	18.0	25.5	13.5	
15	2005	54.0	18.4	21.5	16.5	
16	2006	44.0	23.5	15.0	28.5	
17	2007	21.0	15.2	21.5	11.5	
18	2008	52.0	29.4	22.5	33.5	
19	2009	36.5	22.6	12.5	28.5	
20	2010	71.5	16.6	15.0	17.5	
平	均値	38.5	19.4	19.8	19.2	

図3.4.1 には、各確率年毎の降雨強度曲線(1996~2015)を示す。同図の降雨強度は、降雨継続時間10分以下では今回設定の方が大きく(3年確率の場合であっても)、40分を超えると今回設定(10年確率であっても)より現計画の方が大きいことを示している。すなわち、流達時間が20分から30分程度である本市公共下水道の雨水幹線は、今回設定する降雨強度に対しては、最低水準の3年確率降雨の場合であっても既計画断面の拡大が必要となる場合がある。

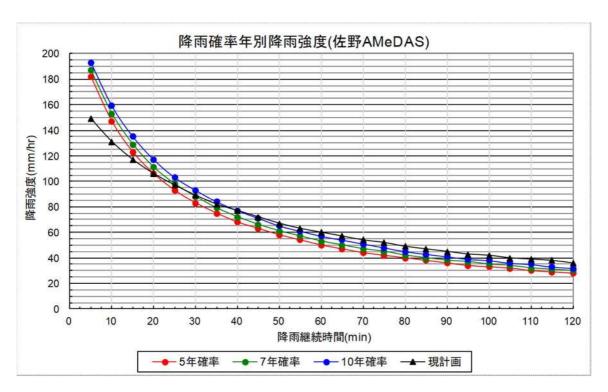


図3.4.1 確率年別の降雨強度曲線

3) 雨水整備の経済的効率性 (B/C)

雨水整備は浸水被害の解消あるいは軽減を図るために行うものであり、整備水準を高い位置に設定すればするほど浸水安全度は向上するものである、一方、整備費用は、整備水準の向上に伴い高騰していくものである。

ここでは、モデル地区を選定し、確率年(5年、7年、10年)毎の雨水整備の費用と整備により得られる便益を計算し、費用便益比(B/C)を算定する。

項	目	5年確率	7年確率	10年確率	備考
年当り費用	(百万円/年)	63.4	68.3	70.5	
年当り便益	(百万円/年)	149.8	157.1	164.0	
費用便益比	(B/C)	2.4	2.3	2.3	

表 3.4.3 モデル地区の費用便益比 (B/C)

4) 雨水整備水準 (降雨確率年) の決定

雨水の整備水準(降雨確率年)は、経済的効率性(B/C)が5年確率、7年確率、10年確率のいずれも同等であることから、浸水安全度をどこまで向上させるか、すなわち、雨水整備に対してどこまで投資するかの視点で決定する。本市においては、従来より5年確率降雨を採用して整備進行中であるため、全体計画目標年度までは5年確率を継続させて、概成した段階でレベルアップについて検討するものとし、本計画では、雨水の整備水準は5年確率降雨とする。

表 3.4.4 本計画降雨強度公式

降雨確率年	降雨強度式	備考
5 年	$I = \frac{3,816}{t+16}$	

(3) 流出係数

現況の土地利用別(工種別)面積を雨水排水区別に算定し、その工種別面積に工種別 基礎流出係数を乗じることにより、排水区別の現況流出係数を算定する。算定された現 況流出係数を二捨三入して計画流出係数として採用する。

表 3.4.5 工種別基礎流出係数の標準値

工 種 別	流出係数	工 種 別	流出係数
屋根	0.85 ~ 0.95	間 地	0.10 ~ 0.30
道 路	0.80 ~ 0.90	芝、樹木の多い公園	0.05 ~ 0.25
その他不浸透面	0.75 ~ 0.85	勾配の緩い山地	0.20 ~ 0.40
水 面	1.00		

出典:下水道施設計画・設計指針と解説 2009 年版(社)日本下水道協会

本計画では、工種別基礎流出係数は、表 3.4.6の値を採用する。

表 3.4.6 工種別基礎流出係数の採用値

工種	別	採用流出係数	備	考
屋	根	0.90		
道	路	0.85		
その他不	浸透面	0.80		
水	面	1.00		
間	地	0.20		
芝、樹木の	多い公園	0.20		
勾配の緩	い山地	0.30		

表 3.4.7 排水区別流出係数

放流先 河川名	排水区名	流出係数	備考	放流先 河川名	排水区名	流出係数	備考
出流川	赤見第一の一	0.50		秋山川	秋山川第1	0.50	
	赤見第一の二	0.50			秋山川第2	0.50	
	赤見第一の三	0.50			秋山川第3	0.50	
	赤見第一の四	0.50			秋山川第4	0.50	事業計画
旗川	赤見第二	0.40			中部第六の二	0.50	
	石塚第一	0. 55		菊沢川	菊沢川第1	0.50	
	石塚第一	0.50			菊沢川第2	0.45	
	石塚第一	0.50			菊沢川第3	0.45	
菊沢川	西部第一の一	0. 55	事業計画		菊沢川第4	0.50	
	西部第一の二	0.50		秋山川	中央	0.55	
	西部第三	0. 55	事業計画		中央西	0.45	
	西部第四の一	0.50			鉢木	0.50	
	西部第四の二	0.50			秋山川左岸第1	0.50	
才川	西部第二の一	0.50			秋山川左岸第2	0.50	
	西部第二の二	0.50			秋山川左岸第3	0.45	
秋山川	中部第一	0.50			山菅第1	0.50	
	中部第二	0.55			山菅第2	0.50	
	中部第三	0.60			山菅第3	0.40	
	中部第四の一	0.45	事業計画	小曽戸川	村樫川	0.50	
	中部第四の二	0. 55	事業計画		小曽戸川右岸第1	0.45	
	中部第四の三	0.60	事業計画		小曽戸川右岸第2	0.50	
	中部第五の一	0.55			小曽戸川左岸	0.50	
	中部第五の二	0.50	事業計画	荒久川	荒久川第1	0.45	
	中部第六の一	0.45			荒久川第2	0.45	
	中部第六の二	0.50					
旧秋山川	東部第一の一	0.50					
	東部第一の二	0.50	事業計画				
	東部第一の三	0.50					
三杉川	東部第二	0.50					
	東部第三	0. 55	事業計画				
	東部第四	0.50	事業計画				
	東部第五	0.60	事業計画				
	北部第二	0.50	事業計画				
	北部第三	0.50					
	北部第四	0.45	事業計画				
	北部第五	0.45					
	北部第六	0.70	事業計画				
幹線排水路	東部第六	0.40					
	東部第七	0.70	事業計画				
	東部第八	0.80	事業計画				
	東部第九	0.40	事業計画				
鷲川	北部第一の一	0.45					
	北部第一の二	0.55					
	北部第一の三	0.50		_			

(4) 流達時間

流達時間は、流入時間と流下時間の和で求める。

流入時間は8分を採用する。また流下時間は、各管渠延長を満管流速で除して求める。

3.5 主要な管渠の流量計算及びポンプ場の容量計算

(1) 管渠

主要な管渠の流量計算書は別添とする。管渠設計は以下の基準により行っている。

1) 流速公式

a. 円形管

○350mm 以下 : マニング公式 (n=0.010)

○400mm 以上 : マニング公式 (n=0.013)

b. 矩形渠、開渠

マニング公式 (n=0.013) とする。

2) 設計流速

汚水管渠は、0.6~3.0m/s とする。

雨水管渠は、0.8~3.0m/s とする。

以上の範囲で、下流ほど流速を漸増するよう定める。

3) 最小断面

a. 汚水

○200mm とする。

b. 雨水

U240mm あるいは 2U240mm とする。(側溝はU240mm~U300mm までを使用。) また、円形管の場合は○250mm とする。

4) 計画下水量と管渠断面

a. 汚水

汚水管渠の計画下水量は計画時間最大汚水量とする。 汚水管渠については計画時間最大汚水量に対して、

小管渠 (200~600mm) · · · · · 約 100%

中管渠 (700~1500mm) · · · · · 約 50~100%

大管渠 (1650~3000mm) · · · · · 約 25~50%

の余裕を見込み、管渠断面を決定する。

b. 雨水

雨水管渠の計画下水量は、合理式で算出した計画雨水流出量とする。 雨水管渠については計画雨水流出量に対して、

円形渠…… 10 割水深

開渠…… 8割水深

矩形渠…… 9割水深

で管渠断面を決定する。

5) 管渠の接合

汚水、雨水とも管頂接合を原則とする。

6) 最小土被り

管渠の最小土被りは、以下を原則とする。

a. 主要な管渠(排除面積 20ha 以上の管渠)の場合

市道······ 1.0m

県道、国道(○300mm以下) ···· 1.0m

県道、国道 (○350mm 以上) ···· 3.0m

b. その他の管渠(排除面積 20ha 未満の管渠)の場合

市道······1.0m

県道、国道···········1.0m

また、地下埋設物との横断については 0.5mのクリアランスを原則とし、鉄道、 河川等の主要構造物の横断については、その管理者との協議の上定める。

(2) 伊勢山中継ポンプ場

以下に、本ポンプ場の計画汚水量等の算出表を示す。なお、全体計画では全て分流式であり、事業計画は米山南地区(19.6ha)のみ合流式である。

表 3.5.1 伊勢山中継ポンプ場流入面積

単位: ha

区分		全体計画	事業計画	備考
一般区域	合流	_	22.1	米山南町19.6ha
一般区域	分流	428.8	337.5	
みかも山公園	分流	74. 0	74.0	
佐野サービスエリア	分流	9. 0	9.0	
計		511.8	442.6	

注) 合流区域22.1haには、雨水吐室(吐15)へ流入する分流区域2.5haを含む

表 3.5.2 伊勢山中継ポンプ場晴天時最大汚水量

		全体計画		事業	計画	
区分		ha当り	晴天時	ha当り	晴天時	備考
		汚水量	最大汚水量	汚水量	最大汚水量	加力
		m³/s/ha	m³/s	m³/s/ha	m³/s	
一般区域	合流	0.000324		0.000322	0.006	
一般区域	分流	0.000324	0.140	0.000322	0.109	
みかも山公園	分流	点投入	0.000	点投入	0.000	⇒ 0.0003
佐野サービスエリア	分流	点投入	0.021	点投入	0.021	
計	m³/s		0.161		0.136	
i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	m³/min		9. 66		8. 16	

注) 晴天時最大汚水量=流入面積×ha当り汚水量

表 3.5.3 伊勢山中継ポンプ場雨天時最大汚水量

		全体	計画	事業	計画	
区分		ha当り	雨天時	ha当り	雨天時	備考
		汚水量	最大汚水量	汚水量	最大汚水量	畑石
		m³/s/ha	m³/s	m³/s/ha	m³/s	
一般区域	合流		_		0.150	
一般区域	分流	0.000324	0.140	0.000322	0.109	
みかも山公園	分流	点投入	0.000	点投入	0.000	⇒ 0.0003
佐野サービスエリア	分流	点投入	0.021	点投入	0.021	
計	m³/s		0.161	_	0. 280	
i∏ I	m³/min	_	9. 66	_	16.80	_

注) 合流区域雨天時最大汚水量の根拠:合流式下水道改善計画報告書(平成16年度) p. 5-36 分流区域雨天時最大汚水量の算出方法:流入面積×ha当り汚水量

表 3.5.4 伊勢山中継ポンプ場ポンプ能力

ポンプ名称	揚水能力	(m³/min)	備考	
か ノノ 名	全体計画	事業計画		
Р	8.7	8. 7	既設 φ 250mm	
Р	8.7	8. 7	既設 φ 250mm	
P (予備)	8.9	8. 9	既設 φ 250mm	
ポンプ能力 計	17. 4	17. 4		
〔雨天時最大汚水量〕	9. 66	16.80		

注) ポンプ能力 計には予備機は含まない。 ポンプは全て、水中汚水ポンプである。

(3) 秋山川中継ポンプ場、高萩中継ポンプ場

秋山川中継ポンプ場及び高萩中継ポンプ場の計画汚水量を以下に示す。両ポンプ場は 分流式のポンプ場であり、それぞれの排除地区は表 3.5.5 のとおりである。

なお、高萩中継ポンプ場を経由した汚水は、佐野第 13~佐野第 17 地区の汚水とあわせて佐野市水処理センター南部幹線場内ポンプ場へ流入する。

表 3.5.5 各ポンプ場の計画汚水量

ポンプ場		D.	分		全体計画			事業計画		備	考
名称		区	ガ	日平均	日最大	時間最大	日平均	日最大	時間最大	1/用	<i>5</i>
	面	積	(ha)		1, 619. 7			1, 478. 6			
	人	П	(人)		36, 973			34, 528			
			生活系	12, 571	17,932	26, 990	11, 740	16, 746	25, 205		
秋山川			工場	1, 518	1,518	3, 036	1, 418	1, 418	2,836		
中 継	計画港	永量	地下水	3, 697	3, 697	3, 697	3, 453	3, 453	3, 453		
ポンプ場	$(m^3/$	月)	その他	60	80	240	60	80	240	道の騆	R
			計	17, 846	23, 227	33, 963	16, 671	21, 697	31, 734		
			ĦΤ	≒ 17, 850	≑ 23, 230	≒ 33, 970	≒ 16, 680	≒ 21, 700	≒ 31, 740		
	計画港	亦量	(m³/分)			23. 59			22.04		
	面	積	(ha)		169. 9			169. 9			
	人	П	(人)		2,812			2,776			
			生活系	956	1,364	2,053	944	1, 346	2,026		
高 萩			工場	169	169	338	169	169	338		
中 継	計画港	永量	地下水	281	281	281	278	278	278		
ポンプ場	$(m^3/$	月)	その他	_		_	_	_	_		
			計	1, 406	1,814	2, 672	1, 391	1, 793	2,642		
			ĦΙ	≒ 1, 410	≒ 1,820	≒ 2, 680	≒ 1, 400	≒ 1,800	≑ 2,640		
	計画港	示水量	(m³/分)			1.86			1.83		

※各ポンプ場の排除地区

秋山川中継ポンプ場:佐野第1~第9地区+田沼全地区+葛生全地区

高萩中継ポンプ場 : 佐野第10~第12地区

4. 公共下水道からの放流水及び処理施設において処理すべき下水の予定水質 並びにその推定の根拠

4.1 一般家庭下水の予定水質、汚濁負荷量及びその推定の根拠

(1) 生活汚水汚濁負荷量原単位

生活汚水汚濁負荷量原単位は、流総計画では、本市を含む利根川流域内 24 市町の公共 下水道全体計画値の平均値を採用している。これは、「流総指針 (平成 20 年 9 月)」に示 されている参考値より、実施に即していると考え採用したものである。

(2) 営業汚水汚濁負荷量原単位

生活汚水と同様の水質と考え、次のとおり算定している。

営業汚水汚濁負荷量原単位=生活汚水汚濁負荷量原単位×営業汚水量原単位 /生活汚水量原単位

表 4.1.1 生活系汚水の汚濁負荷量原単位 (全体計画=事業計画)

	生活汚水	汚濁負荷量原単	位の設定	営業汚水汚濁負荷量原単位の設定			
水質項目	流総指針 (平成20年)	利根川流域内 平均値	本計画採用値(=流総計画)	生活汚水量 原単位	営業汚水量 原単位	本計画採用値(=流総計画)	
	(g/目/人)	(g/日/人)	(g/目/人)	(L/目/人)	(L/目/人)	(g/日/人)	
	1	2	3=2	4	5	$3 \times 5/4$	
BOD	58	63	63	270	70	16	
SS	45	49	49	270	70	12	

(3) 生活系汚濁負荷量

生活系汚水汚濁負荷量原単位に計画人口を乗じて算出する。

表 4.1.1 生活系汚濁負荷量

		水質	計画人口	汚濁負荷量 原単位	汚濁負荷量	tile de
項	目	項目	(人)	(g/日/人)	(kg/日)	備考
			1	2	①×②/1000	
	上江江 小	BOD		63	5, 068. 7	
全体計画	生活汚水	SS	00 450	49	3, 942. 3	
(令和8年)	<u> </u>	BOD	80, 456	16	1, 287. 3	
	営業汚水	SS		12	965. 5	
	生活汚水	BOD		63	4, 884. 3	
事業計画	生百万小	SS	77 500	49	3, 798. 9	
(令和7年)	学来 江小	BOD	77, 529	16	1, 240. 5	
	営業汚水	SS		12	930. 3	

4.2 工場排水の予定水質及び汚濁負荷量並びにその推定の根拠

(1) 全体計画工場排水汚濁負荷量

全体計画工場排水汚濁負荷量は流総計画の値を採用する。ここで、水質が著しく高い 業種は、除害施設の排水基準を適用して、600mg/Lを上限値とし汚濁負荷量を補正する。

表 4.2.1 全体計画工場排水汚濁負荷量

単位: kg/日

·]	BOD負荷量	<u>.</u>		SS負荷量	+ L Kg/ H
産業中分類	甲種	甲種以外	計	甲種	甲種以外	計
9 食料品	274. 80	35. 39	310. 19	225. 88	52.74	278. 62
10 飲料・たばこ・飼料	_	0. 53	0. 53	_	1. 92	1. 92
11 繊維工業	0. 99	178. 14	179. 13	0. 28	67. 42	67. 70
12 衣服・その他の繊維製品	0.30	0.18	0.48	0.60	2. 98	3. 58
13 木材・木製品	_	_	_	_	_	_
14 家具・装備品	_	0.16	0.16	_	0.58	0. 58
15 パルプ・紙・紙加工品	32. 48	32. 37	64. 85	32. 51	83. 66	116. 17
16 印刷・同関連産業	_	0. 58	0. 58		11.72	11. 72
17 化学工業	156. 18	0.09	156. 27	131. 21	0.13	131. 34
18 石油・石炭製品	_	3. 52	3. 52	_	8. 61	8. 61
19 プラスチック製品	58. 88	17. 46	76. 34	53.89	42.74	96. 63
20 ゴム製品	24. 96	1. 58	26. 54	46.02	3. 47	49. 49
21 なめし革・同製品・毛皮	_	28. 73	28. 73	_	28. 73	28. 73
22 窯業・土石製品	221. 99	68. 59	290. 58	649. 44	330. 46	979. 90
23 鉄鋼業	0.41	0.56	0.97	6. 14	4.87	11.01
24 非鉄金属	_	0. 25	0. 25	_	2. 54	2. 54
25 金属製品	6.05	16.64	22. 69	4. 29	21.04	25. 33
26 一般機械器具	4. 74	8.68	13. 42	6.36	16. 61	22. 97
27 精密機械器具	2. 87	1.66	4. 53	2.74	2.70	5. 44
28 電子部品・デバイス	_	_	_	_	_	_
29 電気機械器具	1. 11	0.01	1. 12	1.02	0.03	1. 05
30 情報通信機械器具	96. 75	5. 15	101.90	95. 56	14. 94	110. 50
31 輸送用機械器具	61. 43	0.39	61.82	101.06	0.92	101. 98
32 その他	7. 45	1. 18	8. 63	9.60	1.89	11. 49
計	951. 39	401.84	1, 353. 23	1, 366. 60	700. 70	2, 067. 30

(2) 事業計画工場排水汚濁負荷量

事業計画工場排水汚濁負荷量は、全体計画の水質と同様と考え、算定する。

表 4.2.2 工場排水汚濁負荷量

	計画	汚濁釒	負荷量	流入	水質	
項目	汚水量	BOD	SS	BOD	SS	備考
	m³/∃	kg/日	kg/日	mg/L	mg/L	
全体計画(令和8年)	5, 660	1, 353. 2	2, 067. 3	239	365	
事業計画(令和7年)	5, 560	1, 328. 8	2, 029. 4	239	365	

4.3 その他汚水の予定水質及び汚濁負荷量並びにその推定の根拠

その他汚水は、みかも山公園、佐野サービスエリア、道の駅であり、水質は生活(営業)汚水と同様と考え、汚濁負荷量を算定する。

表 4.3.1 その他汚水の汚濁負荷量(全体計画=事業計画)

		生活汚水		その作	也汚水	
水質項目	汚濁負荷量 原単位	汚水量 原単位	水質	日平均 汚水量	汚濁負荷量	備考
	g/目/人	L/目/人	mg/L	m³/∃	kg/∃	
	1	2	3=1/2	4	5=3×4	
BOD	63	270	233	430	100. 2	
SS	49	270	181	430	77.8	

以上より、予定水質及び汚濁負荷量をまとめると、次のとおりである。

表 4.3.2 予定水質及び汚濁負荷量総括表

項		汚濁釒 (kg/		日平均 汚水量	予定 (mg		備考
		BOD	SS	(m^3/\exists)	BOD	SS	
	生活汚水	5, 068. 7	3, 942. 3	21, 730	233	181	
	営業汚水	1, 287. 3	965. 5	5, 630	229	171	
全体計画	工場排水	1, 353. 2	2, 067. 3	5, 660	239	365	
(令和8年)	地下水	_	_	8, 050	_	_	
	その他汚水	100. 2	77.8	430	233	181	
	計	7, 809. 4	7, 052. 9	41, 500	189	170	
	生活汚水	4, 884. 3	3, 798. 9	20, 930	233	182	
	営業汚水	1, 240. 5	930. 3	5, 430	228	171	
事業計画	工場排水	1, 328. 8	2, 029. 4	5, 560	239	365	
(令和7年)	地下水	_	_	7, 760	_	_	
	その他汚水	100.2	77.8	430	233	181	
	計	7, 553. 8	6, 836. 4	40, 110	188	170	

4.4 工場排水と一般家庭下水との合併処理に関する検討の内容

本市に存在する工場は、水質的に良好な排水を排出する工場が多く、有害物質や有毒物質を排出する工場は現在のところない。

将来も誘致条件としてこのような工場に限定しており、家庭汚水と合併処理することにより、下水道施設の損傷、微生物処理の阻害等の問題は生じないと考える。

4.5 除害施設設置基準及びその決定の理由

下水道法第 12 条で公共下水道管理者は、著しく公共下水道若しくは流域下水道の機能を妨げ、または施設を損傷するおそれのある下水を公共下水道に排除するものに対し、条例で当該下水による障害を除去するために必要な施設(除害施設)を設け、または必要な措置をしなければならない旨を定めることができることになっている。

本市下水道条例では、下水道法施行令第9条に基づく悪質な下水を排除するものに対し、 除害施設を設置させるべく定めている。

4.6 処理の対象外とする工場及び対象外とする理由

「窯業・土石業」の工場排水は、物理処理(沈殿)により対処でき、下水道での微生物による高級処理を行う必要がないため、処理の対象外とする。

4.7 計画放流水質及びその算定根拠

計画放流水質については、既事業計画並びに平成 26 年度利根川流総計画のとおり、下水 道法施行令に示される標準活性汚泥法の上限値 BOD=15mg/L とする。

4.8 処理方法並びに各処理施設における計画汚濁負荷量及びその決定の理由

(1) 処理方法

下水道法施行令に基づく計画放流水質より設定される水処理方式は、計画放流水質が 15mg/L であるため、標準活性汚泥法を採用する。

表 4.8.1 下水道法施行令に基づく計画放流水質より設定した水処理方式

処理場名称	下水道法施行令に基づく 計画放流水質 BOD (mg/L)	下水道法施行令に基づく 計画放流水質より設定し た水処理方式	備 考
佐野市水処理センター	15	標準活性汚泥法	

(2) 計画汚濁負荷量

佐野市水処理センターへの計画汚濁負荷量は、前出の表 4.3.2 に示すとおりである。

4.9 処理施設の容量計算

処理施設の容量計算は、巻末に示す。

5. 下水の放流先の状況

5.1 下水の放流先近傍における水利用の現況及びその見通し水利用なし。

- 6. 毎会計年度の工事費の予定額及びその予定財源
- 6.1 下水道事業に関する財政計画書

				\(\frac{1}{2} \)	格	黄		6	锦		
年次		쾓	設	长	邑	費	起債元利	維持	流域下水道		7
		御派	ポンプ場	処理場	丰	うち用地費	價還費	管 理 費	分担金	P S S	<u>.α</u>
過年度	度	54,559,018	4 004 400	7,097,318	62,737,759	161,139	43,266,504	16,050,478	900 920 97	1,767,100	141,898,767
(昭和46年 ~ 令和)	令和元年)	53,875,283	1,001,423	7,179,368	62,136,074	163,005	43,230,225	15,500,656	10,070,920	1,764,100	140,707,981
c		846,800	27,560	474,100	1,348,460		1,612,128	1,078,133		1,000	4,039,721
744 2 4度	.J	963,297	27,560	474,100	1,464,957	l	1,610,114	1,048,702	l	1,000	4,124,773
今む。 仕事		1,428,900	27,400	1,062,800	2,519,100	ı	1,634,325	1,078,133	ı	1,000	5,232,558
受士 2 単中	.J	1,150,158	27,500	806,900	1,984,558	l	1,631,044	1,091,872		1,000	4,708,474
1	,,	1,548,400	163,400	497,300	2,209,100		1,627,576	1,078,133		1,000	4,915,809
市和 4 年度	LaJ.	2,214,800	163,400	497,300	2,875,500	I	1,646,017	1,048,702	I	1,000	5,571,219
u		1,561,600	396,000	719,400	2,677,000		1,613,673	1,078,133		1,000	5,369,806
受十 6 単中	.J	2,228,060	396,000	719,400	3,343,460	l	1,643,917	1,048,702		1,000	6,037,079
今 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4		1,592,400	206,000	556,767	2,355,167		1,605,812	1,078,133		1,000	5,040,112
→ → → → → → → → → → → → → → → → → → →	.J	2,269,300	206,000	556,767	3,032,067	l	1,650,544	1,048,702	l	1,000	5,732,313
今 7 4 4 年		1,575,800	202,000	795,923	2,573,723	ı	1,501,201	1,078,133	I	1,000	5,154,057
744 / 平度	.J	1,991,200	202,000	795,923	2,989,123	l	1,560,072	1,048,702	l	1,000	5,598,897
令和2年 ~ 令和7年	17年	8,553,900	1,022,360	4,106,290	13,682,550	_	9,594,715	6,468,798	ı	000'9	29,752,063
抽		10,816,815	1,022,460	3,850,390	15,689,665		9,741,708	6,335,382		6,000	31,772,755
4		63,112,918	2,103,783	11,203,608	76,420,309	161,139	52,861,219	22,519,276	19 078 028	1,773,100	171,650,830
		64,692,098	2,103,883	11,029,758	77,825,739	163,005	52,971,933	21,836,038	0,070,920	1,770,100	172,480,736

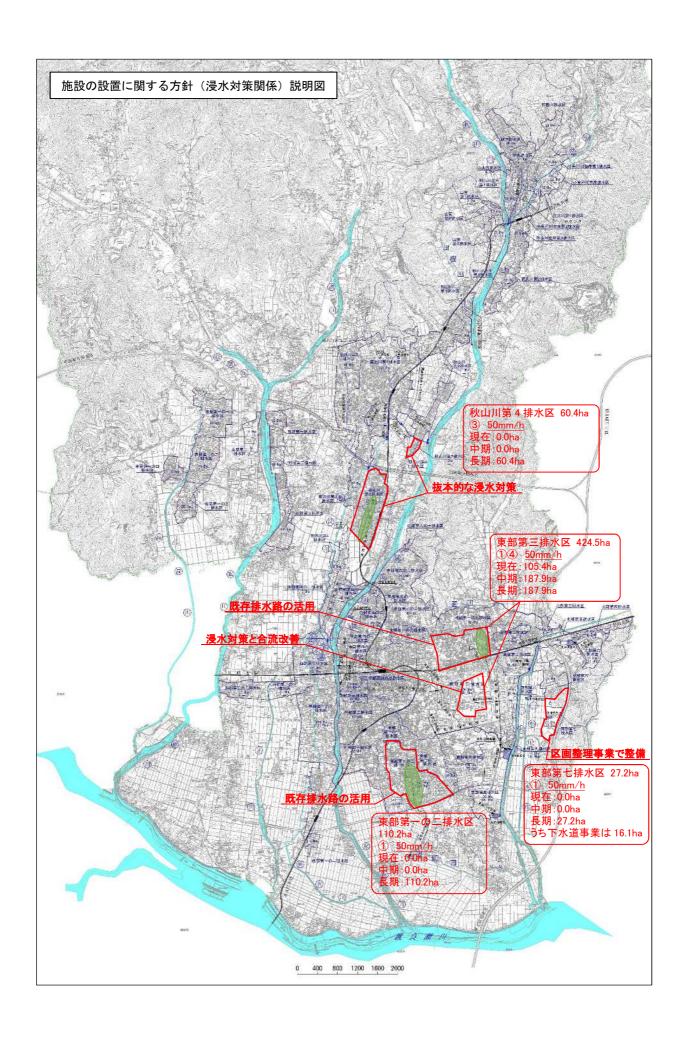
単位:千円

			(□)	財	源	Ę.	Ø		那		
	再	重 記	5 改	5 良	3	لساو	維持管理	理費及び	起債元利	」質遠費	
#	Ħ	草	中	受負益担	そのも	杣	下使水用※	他	そ 9 街	, 	価
過年度	21,526,481	39,600,730	9,102,978	3,752,710	0.7	75,086,059	24,803,235	38,205,078	3,804,395	66,812,708	141,898,767
(昭和46年 ~ 令和元年)	21,117,091	39,659,330	8,777,929	3,826,864	1,103,100	74,484,374	24,677,207	37,715,538	3,830,862	66,223,607	140,707,981
۰	549,600	551,000	167,860	80,000		1,348,460	1,153,288	1,537,173	800	2,691,261	4,039,721
74 7 平皮	556,530	674,500	126,212	107,715	l	1,464,957	1,149,779	1,504,699	5,338	2,659,816	4,124,773
今託 2 在車	1,029,000	1,032,300	377,800	80,000	I	2,519,100	1,164,819	1,547,839	800	2,713,458	5,232,558
0	669,300	1,063,000	150,053	102,205		1,984,558	1,182,861	1,494,716	46,339	2,723,916	4,708,474
-	910,000	904,300	314,800	80,000	I	2,209,100	1,176,468	1,529,441	800	2,706,709	4,915,809
744 4 年度	1,000,476	1,528,505	250,119	96,400	I	2,875,500	1,155,832	1,534,549	5,338	2,695,719	5,571,219
今和 5 在审	1,093,600	1,093,400	410,000	80,000	ı	2,677,000	1,188,233	1,503,773	800	2,692,806	908'698'5
0	1,164,801	1,779,558	291,201	107,900		3,343,460	1,155,631	1,532,650	5,338	2,693,619	6,037,079
今 4 4 4	976,800	970,300	328,067	80,000		2,355,167	1,200,115	1,484,030	800	2,684,945	5,040,112
	1,062,006	1,622,509	265,502	82,050		3,032,067	1,178,824	1,516,084	5,338	2,700,246	5,732,313
今	1,052,500	1,050,900	390,323	80,000	I	2,573,723	1,212,116	1,367,418	800	2,580,334	5,154,057
	1,045,556	1,597,377	261,390	84,800		2,989,123	1,296,520	1,307,916	5,338	2,609,774	5,598,897
令和2年 ~ 令和7年	5,611,500	5,602,200	1,988,850	480,000	l	13,682,550	8,236,906	8,969,674	4,800	16,069,513	29,752,063
計	5,498,669	8,265,449	1,344,477	514,750	l	15,689,665	7,119,447	8,890,614	18,414	16,083,090	31,772,755
	27,137,981	45,202,930	11,091,828	4,232,710	4 400 460	88,768,609	33,040,141	47,174,752	3,809,195	82,882,221	171,650,830
<u>π</u>	26,615,760	47,924,779	10,122,406	4,341,614	1, 103, 100	90,174,039	31,796,654	46,606,152	3,849,276	82,306,697	172,480,736
	接続率:	93.1%	93.1% (令和2年度:初年度)]年度) →		92.0%	97.0% (令和7年度:最終年度)	号終年度)			
		講じる対策:広報	広報活動と個別	活動と個別訪問による水洗化促進	洗化促進。						
下水道使用料	有収率:	27.5%	57.5% (令和2年度:初年度)]年度) →		65.0%	65.0% (令和7年度:最終年度)	号終年度)			
※関連事項		講じる対策:	講じる対策:合流式下水道の改善。不明水対策の実施。	の改善。不明か	〈対策の実施。						
	その他の講じる対策	る対策	下水道使用料(の見直し検討。	下水道使用料の見直し検討。滞納整理の強化。	یْد					

7. その他の書類

7.1 施設の設置に関する方針(様式1)

主要な施策		整備水準					
(事業計画に基 づき今後実施 する予定の事 業に関連する ものを記載)	指標等	現在 令和元 年度末	中期 目標 令和 7 年度末	長期 目標	事業の 重点化・効率化の方針	中期目標を達成するための主要な事業	備考
汚水処理	下水道処理人口 普及率	67. 9%	75. 6%	79. 4%	平成 27 年度に見直した佐 野市生活排水処理構想に 基づく汚水処理の 10 年概 成を目標とし、人口密度が 高い地域から優先的に整 備を実施する。 集落排水施設の統廃合に より管理の効率化を図る。 飯田:接続済み 並木:接続済み 佐野西部:接続済み 常盤地区:令和6年度接続 予定	佐野処理区 未普及対策整 備事業 (整備面積: 3,285ha)	令和 7 年度を 目途に全農集 地区を下水道 に接続する。
浸水対策	浸水対策達成率	13. 6% 402ha	14. 0% 431ha	20. 6% 611ha	過去の浸水実績に基づき、被害 の生じた区域から優先的に整 備する。 既設水路等のストックを活用 し、効率的な整備を図る。	東部 14 号 幹線整備事業 東部 9 号 幹線整備事業	
高度処理	_						
合流式下水道 の改善	合流式下水道 改善率	9. 9% 12. 6ha	84. 9% 110ha	100% 126. 9ha	令和 8 年度までにすべての対 策を完了する。	東部 14 号 幹線整備事業	
汚泥の 再生利用	再生利用率	71.7%	73. 5%	100%	セメント原料化などの汚泥再 利用を推進する。		
その他	_						



7.2 施設の機能の維持に関する方針 (様式2)

(1) 主要な施設に係る主な措置

①劣化・損傷を把握するための点検・調査の計画

主要な施設	点検・調査の計画
管渠施設	施設の重要度に応じて概ね5~20年に一度点検・調査を実施。点検の結果、 異常の可能性がある箇所についてTVカメラ等による調査を実施。
汚水・雨水ポンプ施設 (ポンプ本体)	概ね7年に一度分解・点検及び消耗品交換を実施。
水処理施設 (送風機本体)	概ね8~14年に一度分解・点検及び消耗品交換を実施。
汚泥処理施設 (汚泥脱水機)	概ね8~14年に一度分解・点検及び消耗品交換を実施。

②診断結果を踏まえた修繕・改築の判断基準

主要な施設	修繕・改築の判断基準
管渠施設	緊急度Ⅱ以下に該当する施設を改築対象とする。
汚水・雨水ポンプ施設 (ポンプ本体)	健全度2以下に該当する設備を改築対象とする。
水処理施設 (送風機本体)	健全度2以下に該当する設備を改築対象とする。
汚泥処理施設 (汚泥脱水機)	健全度2以下に該当する設備を改築対象とする。

③改築事業の概要(令和2年度から令和7年度)

主要な施設	改築事業の概要
管渠施設	延長: 概ね 4km
汚水・雨水ポンプ施設 (ポンプ本体)	佐野市水処理センター沈砂池ポンプ棟 No. 3・4 汚水ポンプ (電動機のみ) 秋山川中継ポンプ場 No. 2・3 汚水ポンプ
水処理施設 (送風機本体)	該当なし
汚泥処理施設 (汚泥脱水機)	該当なし

(2) 施設の長期的な改築の需要見通し

管渠施設

改築の需要見通し (年当りの概ねの事業規模の試算)	試算の対象時期	試算の前提条件
概ね 7.3 億円/年	100 年間	健全度予測式を用い試算 (緊急度Ⅱ以下に該当する施設が対象)

処理場

改築の需要見通し (年当りの概ねの事業規模の試算)	試算の対象時期	試算の前提条件
概ね 5.0 億円/年	100 年間	処理場・ポンプ場施設の目標耐用年数を、 土木・建築構造物については概ね65年、 機械・電気設備については標準耐用年数 の1.5~1.7倍として試算

処理施設容量計算書

令和2年度

佐 野 市

1.基本事項

1-1. 処理場概要

1)名 称 佐野市水処理センター

2)位 置 栃木県佐野市植下町字間ノ田

3) 敷地面積 6.2 ha

1-2. 計画処理人口及び処理区域面積

計画区分 項 目	全体計画	事業計画
計画処理人口(人)	80,456(令和8年)	77,529(令和7年)
計画処理区域面積(ha)	3,425.1	3,266.2

1-3. 排除方式

分流式(一部合流式) ※将来(全体計画)は、完全分流化

1-4. 計画汚水量および処理施設設計水量

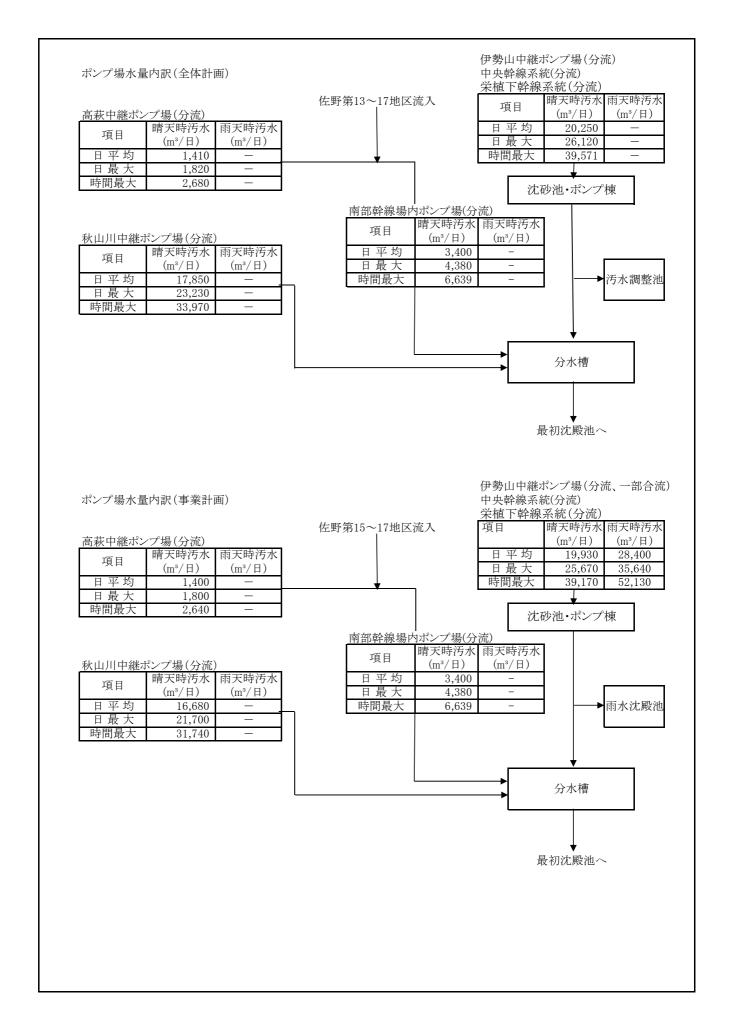
(単位 : m³/日)

項目		計画区分	全体計画	事業計画	
		日平均汚水量	41,500	40,110	
	晴天時汚水量	日最大汚水量	53,730	51,920	
計画汚水量		時間最大汚水量	80,180	77,550	
		日平均汚水量	ı	48,580	
	雨天時汚水量	日最大汚水量	ı	61,890	
		時間最大汚水量	_	90,510	
		日平均汚水量	41,500	40,200	
	晴天時汚水量	日最大汚水量	53,800	52,000	
施設設計水量		時間最大汚水量	80,200	77,600	
地区区口小里		日平均汚水量	_	-	
	雨天時汚水量	日最大汚水量	_	_	
		時間最大汚水量	_	90,600	

1-5. 計画し尿・浄化槽汚泥量および処理施設設計汚泥量

(単位 : m³/日)

項 目	全体計画	事業計画
計画汚泥量	130	130
施設設計汚泥量	130	130



1-6. 設計水質下水

(単位 : mg/L)

							(早)	<u>v.</u> : IIIg/L)
		_		計画区分	全 体	計画	事 業	計画
項	目				BOD	s s	BOD	S S
	流	入	水	質	189	170	188	170
	返	流	水	質	394	1,410	394	1,406
	設	計	水	質	192	192	192	193

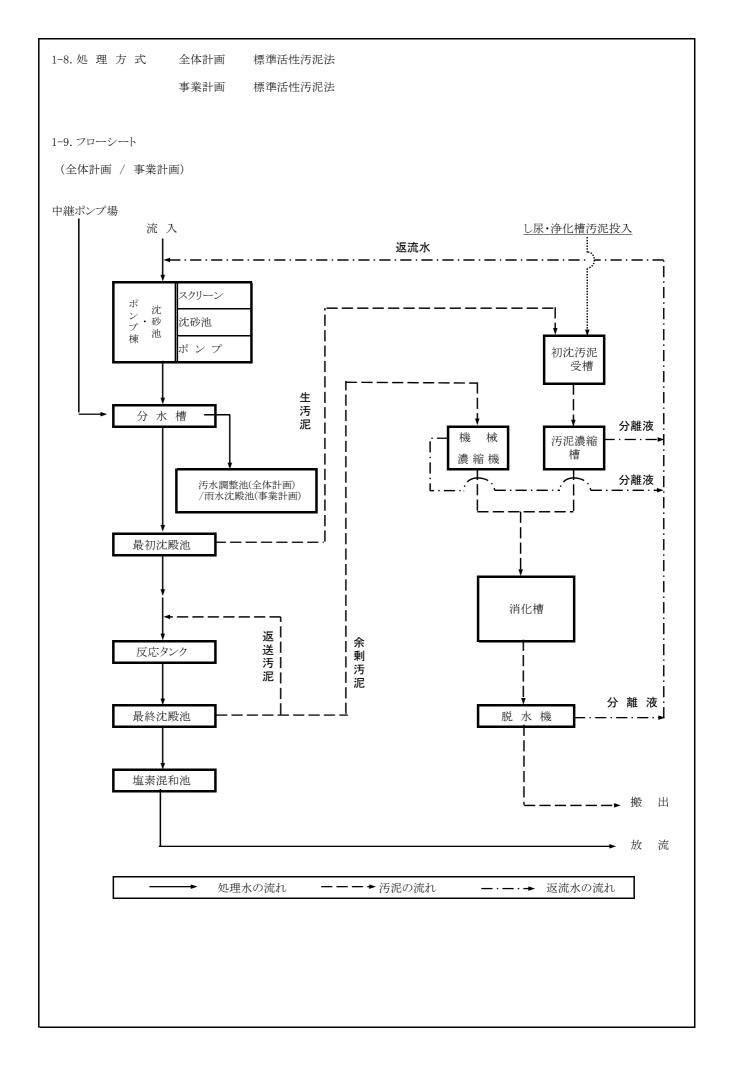
し尿・浄化槽汚泥

(単位 : mg/L)

計画区分	全 体	計画	事業計画		
項目	BOD	s s	BOD	s s	
流入水質	4,500	7,000	4,500	7,000	

1-7. 処 理 効 率

	計画区分	全 体	計画	事業	計画
項目		BOD	s s	BOD	S S
除去効率	最初沈殿池	40	50	40	50
	反応タンクと最終沈殿池	87	85	87	85
(%)	総合	92	92	92	92
水質	最初沈殿池流入水	192	192	192	193
小貝	反応タンク流入水	116	96	116	98
(mg/L)	処 理 水	15	15	15	15



余 去 率	最初沈殿池 BOD SS 反応タンクと最終沈殿池 BOD SS 総合 BOD SS BOD SS BOD	% % % % % mg/L mg/L	全体計画 40 50 87 85 92 92 15 15	事業計画 40 50 87 85 92 92 15	
心理水質	SS 反応タンクと最終沈殿池 BOD SS 総合 BOD SS BOD SS	% % % % mg/L	50 87 85 92 92 15	50 87 85 92 92	
心理水質	反応タンクと最終沈殿池 BOD SS 総 合 BOD SS BOD SS BOD SS	% % % % mg/L	87 85 92 92 15	87 85 92 92	
心理水質	BOD SSS 総合 BOD SSS BOD	% % % mg/L	92 92 15	92 92	
D.理水質	SS 総合 BOD SS BOD SS	% % % mg/L	92 92 15	92 92	
D.理水質	総合 BOD SS BOD SS	% % mg/L	92 92 15	92 92	
D.理水質	BOD S S BOD S S	% mg/L	92 15	92	
心理水質	S S BOD S S	% mg/L	92 15	92	
心理水質	BOD S S	mg/L	15		
心理水質	S S			15	
		mg/L	15		
	BOD	1		15	
女流 水 質		mg/L	15	15	
	S S	mg/L	15	15	
是 初 沈 殿 池	水 面 積 負 荷	m³/m²• ∃	1~4系列	40	
		m³/m²• ∃	5系列	50	
	有 効 水 深	m	1~5系列	3.0	
	越流負荷	m³/m	25	50	
え 応 タン ク	MLSSの濃度	mg/L	2,0	000	
	反応タンク流入水の BOD中のS-BODの比率	%	100		
	BODに対する汚泥転換率	mgMLSS/mgBOD	0.4		
	SSに対する汚泥転換率	mgMLSS/mgSS		1	
	活性汚泥微生物の内性呼吸 による減量を標す係数	1/日	0.	03	
送 風 機	A(除去BOD当たり必要酸素量)	KgO2/KgBOD	0.6		
	B(単位MLVSS当たり の内生呼吸による酸素消費量)	KO2/KgMLVSS・日	0.1 4.57		
	C(硝化反応の伴に 消費される酸素量)	KgO ₂ /KgN			
	余剰汚泥の窒素含有率	%	8		
	水 面 積 負 荷	m³/m²∙ 日	1~4系列	25	
		m³/m₂• ∃	5系列	20	
	有 効 水 深	m	1~4系列	3.0	

施設名	項目	単 位	設計基準
	越流負荷	$ m m^3/m$	120
	返送汚泥比(常時)	%	30
	返送汚泥比(最大)	%	100
	返送汚泥濃度	mg/L	8,700
塩素混和池	接触時間	分	15
	塩 素 注 入 率	mg/L	0.5 ~ 3
重力濃縮槽	固形物負荷	kg/m²• 日	90
	有効水深	m	3.5
消化槽	有機物含有率	%	80
,_,_	消化率	%	50
	消化日数	日	20
	消 化 温 度	$^{\circ}$	35
固形物回収率	重力濃縮槽	%	90
	機械濃縮機	%	90
	消化タンク	%	脱離液がないので、回収率100%
	機械脱水機	%	95
返流水質(BOD)	重力濃縮タンク	mg/L	500
	機械濃縮機設備	mg/L	500
	消化タンク(高濃度消化)	mg/L	脱離液なし
含 水 率	生 汚 泥	%	98
	余 剰 汚 泥	%	99.2
	濃 縮 汚 泥		
	重 力 式	%	96
	機械式	%	96
	消 化 汚 泥	%	_
	脱水ケーキ(遠心)	%	83

3.発生汚泥量の計算

生汚泥 固形物量 = 最初沈殿池流入SS量 × 最初沈殿池のSS除去率

余剰 汚泥 発生量 = S-BODに対する汚泥転換量 + SSに対する汚泥転 - 活性汚泥微生物の内性呼吸による減量 (設計指針では S-BOD としているが、水処理センターでは解析結果より T-BOD としている)

余剰 汚泥 引抜量 = 余剰汚泥発生量 - 最終沈殿池のSS流出量

投入固形物量 = 生汚泥固形物量

重力濃縮槽

引抜固形物量 = 投入固形物量 × 回収率

投入固形物量 = 余剰汚泥固形物量

機械濃縮機

引抜固形物量 = 投入固形物量 × 回収率

投入固形物量 = 重力濃縮引抜汚泥固形物量 + 機械濃縮引抜汚泥固形物量

消化槽

引抜固形物量 = 投入固形物量 \times (1 - 0.80 \times 0.50)

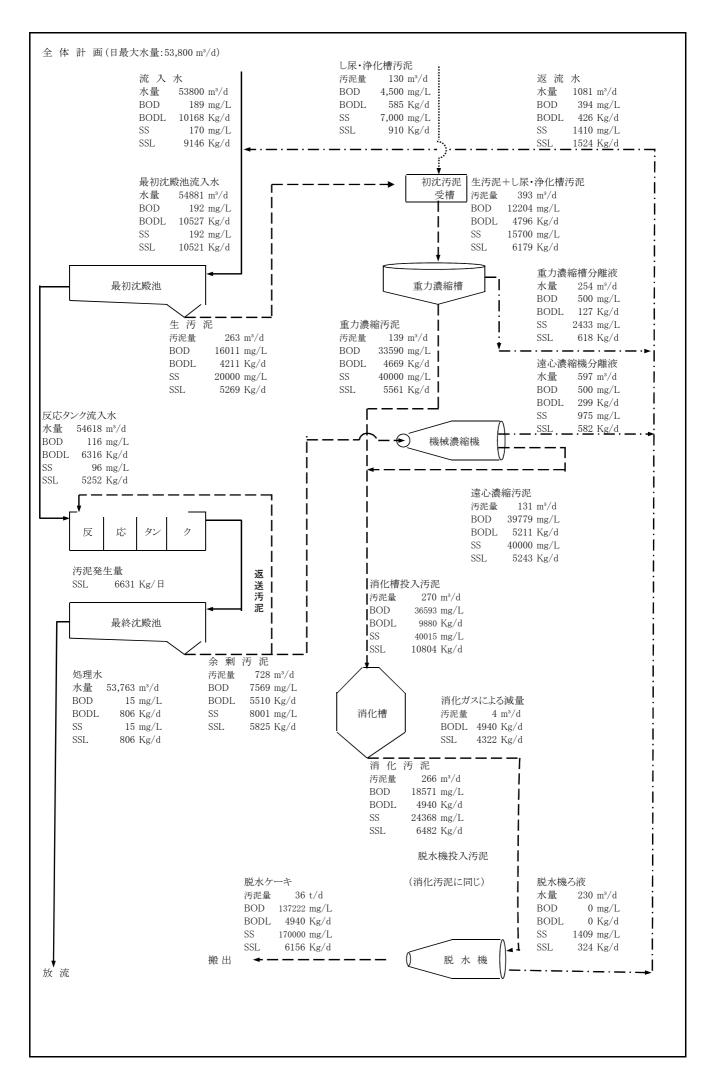
※消化槽投入固形物のうち80%を有機物とし、そのうち50%が分解されるとする。

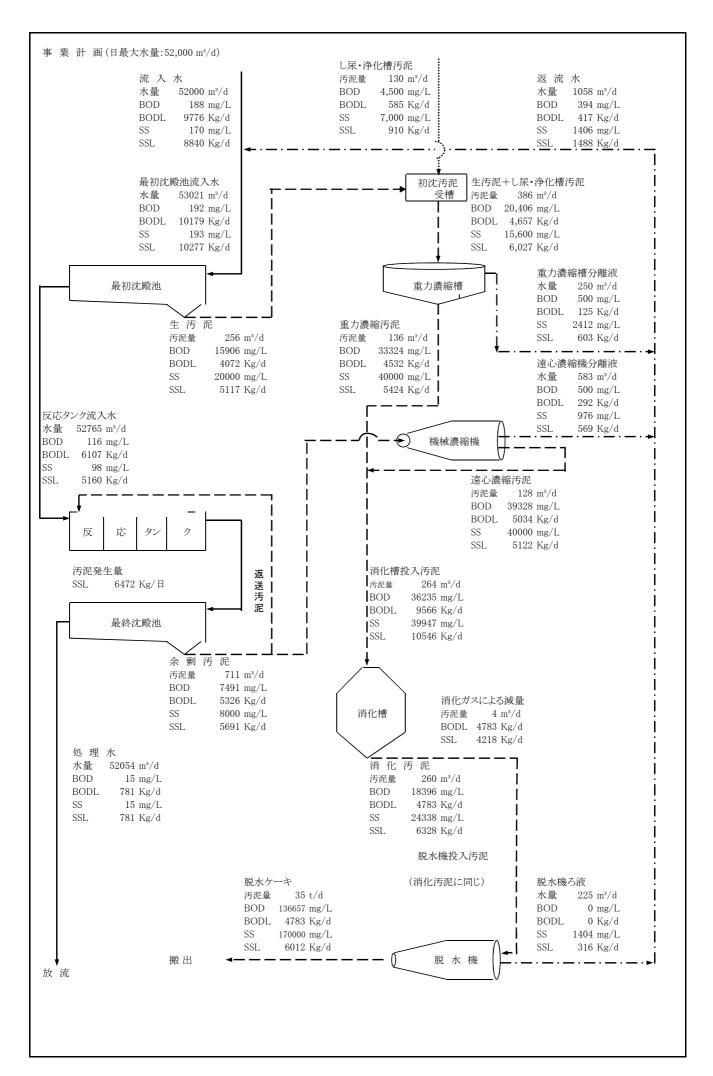
高濃度消化のため消化脱離液は引抜かない。従って、回収率は100%。

投入固形物量 = 消化槽投入汚泥量×(1-有機物含有量/100×有機物分解率/100)

脱水機

脱水ケーキ固形物量 = 投入固形物量 × 回収率





0. 4 9 +20. 4 4. 707	8,000mm × H1 60 400 M(T.P) 7 m3/秒 (マニ 5 m/秒 (マニ 14.06 0.234 - -	ニング n = (0.4 % +20.40 4.707 1.226 晴天時	m3/秒 (マ:m3/秒 (マ:m3/秒 (マ:m/秒 (マ:m/秒 (マ:m/秒 19,930 13.84 0.231 28,400	ニング n = (ニング n = (ニング n = (17.83 0.297 35,640	
0.49 +20.4 4.707 1.226 晴天時	60 M(T.P) 7 m3/秒 (マニ 5 m/秒 (マニ 5 m/秒 (マニ 14.06 0.234	ニング n = (ニング n = (ニング n = (日最大 26,120 18.14 0.302 -	時間最大 39,571 27.48 0.458	0.4 % +20.40 4.707 1.226 晴天時	DO M(T.P) m3/秒 (マ: m/秒 (マ: 19,930 13.84 0.231 28,400	ニング n = (ニング n = (日最大 25,670 17.83 0.297	時間最大 39,170 27.20 0.453
0.49 +20.4 4.707 1.226 晴天時	60 M(T.P) 7 m3/秒 (マニ 5 m/秒 (マニ 5 m/秒 (マニ 14.06 0.234	ニング n = (ニング n = (ニング n = (日最大 26,120 18.14 0.302 -	時間最大 39,571 27.48 0.458	0.4 % +20.40 4.707 1.226 晴天時	DO M(T.P) m3/秒 (マ: m/秒 (マ: 19,930 13.84 0.231 28,400	ニング n = (ニング n = (日最大 25,670 17.83 0.297	時間最大 39,170 27.20 0.453
+20. 4 4. 707 1. 226 晴天時	100 M(T.P) 7 m3/秒 (マニ 5 m/秒 (マニ 5 m/秒 (マニ 14.06 0.234	日最大 26,120 18.14 0.302	時間最大 39,571 27.48 0.458	+20. 40 4. 707 1. 226 晴天時	m3/秒 (マ:m3/秒 (マ:m3/秒 (マ:m/秒 (マ:m/秒 (マ:m/秒 19,930 13.84 0.231 28,400	日最大 25,670 17.83 0.297	時間最大 39,170 27.20 0.453
4.707	7 m3/秒 (マコ 5 m/秒 (マコ 5 m/秒 (マコ 14.06 0.234	日最大 26,120 18.14 0.302	時間最大 39,571 27.48 0.458	4.707 1.226 晴天時	m3/秒 (マコ m/秒 (マコ 19,930 13.84 0.231 28,400	日最大 25,670 17.83 0.297	時間最大 39,170 27.20 0.453
1. 226 晴天時	日平均 20,250 14.06 0.234	日最大 26,120 18.14 0.302	時間最大 39,571 27.48 0.458	1. 226 晴天時	田平均 19,930 13.84 0.231 28,400	日最大 25,670 17.83 0.297	時間最大 39,170 27.20 0.453
1. 226 晴天時	日平均 20,250 14.06 0.234	日最大 26,120 18.14 0.302	時間最大 39,571 27.48 0.458	1. 226 晴天時	田平均 19,930 13.84 0.231 28,400	日最大 25,670 17.83 0.297	時間最大 39,170 27.20 0.453
晴天時雨天	日平均 20, 250 14. 06 0. 234 —	日最大 26,120 18.14 0.302 —	時間最大 39,571 27.48 0.458 —	晴天時雨天	日平均 19,930 13.84 0.231 28,400	日最大 25,670 17.83 0.297	時間最大 39,170 27.20 0.453
下時 雨天	20, 250 14. 06 0. 234 —	26, 120 18. 14 0. 302 —	39, 571 27. 48 0. 458 —	天時市	19, 930 13. 84 0. 231 28, 400	25, 670 17. 83 0. 297	39, 170 27. 20 0. 453
下時 雨天	20, 250 14. 06 0. 234 —	26, 120 18. 14 0. 302 —	39, 571 27. 48 0. 458 —	天時市	19, 930 13. 84 0. 231 28, 400	25, 670 17. 83 0. 297	39, 170 27. 20 0. 453
下時 雨天	14. 06 0. 234 — —	18. 14 0. 302 — —	27. 48 0. 458 — —	天時市	13. 84 0. 231 28, 400	17. 83 0. 297	27. 20 0. 453
雨天	0. 234 — — —	0. 302 —	0.458	雨天	0. 231 28, 400	0. 297	0. 453
天		_	_	天	28, 400		
天	_		_	天			
時	_	_	_		19.72	24. 75	36. 20
		I	1	時	0. 329	0. 413	0.603
	流入	ゲート]		流入	ゲート	
	粗目ス	クリーン]		粗目ス	クリーン	
	細目ス	クリーン]		細目ス	クリーン	
	沈	砂池]		沈	砂池	
	汚水:	ポンプ]		汚水	ポンプ	
		細目ス	粗目スクリーン 細目スクリーン 流 砂 池 汚 水 ポ ン プ	細 目 ス ク リ ー ン	細 目 ス ク リ ー ン 沈 砂 池	細目スクリーン 沈 砂 池 沈 地	細目スクリーン 沈砂池 沈砂池

計画区分 項 目	全 体 計 画	事 業 計 画
4) 流入ゲート		
ゲート室底高	+20.400 M	+20.400 M
ゲート寸法	幅1,000mm × 高1,200mm	幅1,000mm × 高1,200mm
ゲート基数	4 基(既設)	4 基 (既設)
5) 粗目スクリーン		
形式	鋼製バースクリーン	鋼製バースクリーン
水路幅	2,600 mm	2,600 mm
有効目巾	100 mm	100 mm
バー厚	9 mm	9 mm
設 置 角	70°	70°
基数	4 基 (既設)	4 基 (既設)
6) 細目スクリーン		
スクリーン仕様		
水路幅	2,600 mm	2,600 mm
有効目巾 バー厚	25 mm 9 mm	25 mm 9 mm
設置角	75°	75°
基数	2 基(既設)	2 基 (既設)
7) 沈砂池		
設計水量	39,571 m³/日 (晴天時時間最大水量)	52,130 m³/日 (雨天時時間最大水量)
水面積負荷率	1,800 m³/m² · 日	1,800 m³/m²· 日
所要水面積	39,571 / 1,800 = 22.0 m ²	52,130 / 1,800 = 29.0 m ²
形状寸法	巾 3.2 × 長 15.0 m × 4 池	巾 3.2 × 長 15.0 m × 4 池
池幅	3. 2m	3. 2m
池長	15. 0 m	15. 0m
池数	4池中、1池使用	4池中、2池使用
水面積	$3.2 \times 15.0 \times 1 = 48.0 \text{ m}^2$	$3.2 \times 15.0 \times 2 = 96.0 \text{ m}^2$
水面積負荷	39,571 / 48 = 824 m³/m²⋅日	52,130 / 96 = 543 m³/m²・日 (雨天時のリスク分散のため、2池利用とする)

т	計画区分		全	体 言	十 画			事	業言	十 画	
項 8)	ポンプ設備										
	(1) ポンプ仕様					•					
	(1) 4.0 > 11			1		ĺ					1
	口径		450 mm		600 mm			450 mm		600 mm	
	揚水量	24	4.0m³/分	54	4.0m³/分		2	4.0m³/分	54	4.0m³/分	
	揚程		5.5 m		5.5 m			5.5 m		5.5 m	
	出力		35 kW		75 kW			35 kW		75 kW	
	台 数		2 台	2 -	台 (予備)			2 台	2 -	台 (予備)	
		(既	〔記設置〕	(既	設設置)		()	既設設置)	(既	設設置)	
	(2)揚水量、台数			流量	運転計画	揚水能力			流量	運転計画	揚水能力
				m³/分	建构可画	m³/分			m³/分	建松川岡	m³/分
			日平均	14. 06	φ 450×1台	24. 0		日平均	13. 84	φ 450×1台	24. 0
		晴 天 時	日最大	18. 14	φ 450×1台	24. 0	晴天時	日最大	17. 83	φ 450×1台	24. 0
		H4J.	時間最大	27. 48	φ 450×2台	48. 0	h4	時間最大	27. 20	φ 450×2台	48. 0
			日平均	_	_	_		日平均	19. 72	φ 450×1台	24. 0
		雨天時	日最大	_	_	_	雨天時	日最大	24. 75	φ 450×1台	24. 0
			時間最大	_	ı			時間最大	36. 20	φ 450×2台	50.0
	. 南部幹線場内ポンプ場										
1)	計画水量		日平均	日最	大 時間	最大		日平均	日最	大 時間	最大
	(m³/日)	晴	3, 400	4, 3		539	晴	3, 400	4, 3		639
	(m³/分)	天時	2. 36	3. (61	天時	2. 36	3.0		61
	(m³/秒)		0. 039	0.0	51 0.0	077		0.039	0.0	51 0.	077
2)	ポンプ設備										
	(1)ポンプ仕様										
	揚水量 台 数	2	. 2m³/分 1 台		. 2m³/分 (予備1台)		- 2	2.2m³/分 1 台		. 2m³/分 (予備1台)	
		(既	(設設置)	(既	設設置)		(1	既設設置)	(既	設設置)	
	(2)揚水量、台数			流量	運転計画	揚水能力			流量	運転計画	揚水能力
		-		m³/分	2. 2m³/分×1台	m³/分	-		m³/分	2. 2m³/分×1台	m³/分
		晴	日平均	2. 36	6.2m³/分×1台	8. 4	晴	日平均	2.36	6.2m³/分×1台	8. 4
		天時	日最大	3. 04	2. 2m³/分×1台 6. 2m³/分×1台	8. 4	天時	日最大	3.04	2. 2m³/分×1台 6. 2m³/分×1台	8. 4
		4	時間最大	4. 61	2. 2m³/分×1台 6. 2m³/分×1台	8. 4		時間最大	4.61	2. 2m³/分×1台 6. 2m³/分×1台	8. 4
				•				•			

項	計画区分	全 体 計 画	事業計画
4-2	最初沈殿池 E形一方向流式)		
1)	容量の決定		
	設計水量	53,800 m³/日 (晴天時日最大水量)	52,000 m³/日 (晴天時日最大水量)
	水面積負荷率	40 m³/m²・日(旧指針、1~4系対象)	40 m³/m²・日 (旧指針、1~4系対象)
		50 m³/m²・日 (新指針、5系対象)	50 m³/m²・日 (新指針、5系対象)
	有効水深	3.0 m	3.0 m
	所要水面積	53,800 / 40 = 1,345 m ²	52,000 / 40 = 1,300 m ²
2)	形状寸法		
	1~4系	巾7.8m × 長22.0m × 深3.0m × 1水路 × 8池 (矩形一方向流式) (既設)	巾7.8m × 長22.0m × 深3.0m × 1水路 × 8池 (矩形一方向流式) (既設)
	5系	巾9.4m × 長14.6m × 深3.0m × 1水路 × 2池 (矩形一方向流式) (躯体は既設、設備は1池分のみ既設)	市9.4m × 長14.6m × 深3.0m × 1水路 × 2池 (矩形一方向流式) (躯体は既設、設備は1池分のみ既設)
	水面積	$7.80 \times 22.0 \times 8 + 9.4 \times 14.6 \times 2$	$7.80 \times 22.0 \times 8 + 9.4 \times 14.6 \times 2$
		= 1,373 + 274	= 1,373 + 274
		= 1,647 m ²	= 1,647 m ²
	容 積	$1,373 \times 3.0 + 274 \times 3.0$	$1,373 \times 3.0 + 274 \times 3.0$
		= 4,941 m ³	= 4,941 m ³
	水面積負荷		
		1~10池:53,800 / 1,647 = 32.7 m³/m²・日 (必要池数は反応タンクにより選定)	1~10池:52,000 / 1,647 = 31.6 m³/m²・日 (必要池数は反応タンクにより選定)
	滞留時間		
		1~10池: (1,647×3.0)/53,800×24 = 2.2時間	1~10池: (1,647×3.0)/52,000×24 = 2.3時間
3)	越 流 堰		
	越流堰負荷率	250 m³/m/日	250 m³/m/日
	所要堰長(1池当り)		
		1~10池:53,800 / 250 / 10 = 21.5 m	1~10池:52,000 / 250 / 10 = 20.8 m
4)	初沈汚泥引抜量	汚泥濃度 2.0%、SSの除去率 50.0%とすると、 収支計算より 263 m³/日 0.18 m³/分	汚泥濃度 2.0% 、固形物回収率 50.0% とすると、収支計算より $256~\mathrm{m}^3/\mathrm{H}$ $0.18~\mathrm{m}^3/\mathrm{O}$

計画区分項目	全 体 計 画	事 業 計 画		
4-3 反応タンク (矩形一方向旋回流式)				
1) 滞留時間の設定				
目標水質	処理水の最高値と平均値の比を 3.0、	処理水の最高値と平均値の比を 3.0、		
	放流水質基準を 15mg/Lとすると、	放流水質基準を 15mg/Lとすると、		
	15.00 / 3.0 = 5.00 mg/L	15.00 / 3.0 = 5.00 mg/L		
水温	冬期最低 18.0 ℃以下	冬期最低 18.0 ℃以下		
	(当水処理センターの2014~2018年度実績、月平均)	(当水処理センターの2014~2018年度実績、月平均)		
流入 S-BOD量	Scs = 116.0 mg/L	Scs = 116.0 mg/L		
(Scs)	(指針ではS-BOD、当水処理センターではT-BOD)	(指針ではS-BOD、水処理センターではT-BOD)		
流入 SS量 (Sss)	96.0 mg/L	98.0 mg/L		
係数仮定	T-BODに対する汚泥転換率(a) : 0.5 (指針ではS-BODに対し0.4~0.6)	T-BODに対する汚泥転換率(a): 0.5 (指針ではS-BODに対し0.4~0.6)		
	SSに対する汚泥転換率(b): 0.95 (指針では0.9~1.0)	SSに対する汚泥転換率(b): 1.0 (指針では0.9~1.0)		
	活性汚泥微生物の内性呼吸による 減量を標す係数(c) :	活性汚泥微生物の内性呼吸による		
	0.04 (指針では0.03~0.05)	0.04 (指針では0.03~0.05)		
	上記の条件により算出したSRT(日)と 処理水のC-BOD(mg/1)を下記の表に示す。	上記の条件により算出したSRT(日)と 処理水のC-BOD(mg/1)を下記の表に示す。		
	$SRT = \frac{\theta \cdot Xa}{}$	$SRT = \frac{\theta \cdot Xa}{}$		
	$a \cdot Scs + b \cdot Sss - C \cdot \theta \cdot Xa$	$a \cdot Scs + b \cdot Sss - C \cdot \theta \cdot Xa$		
	M L S S (Xa)	M L S S (Xa)		
	S R T 1,600 1,700 1,800 1,900 2,000	S R T 1,600 1,700 1,800 1,900 2,000		
	H 6.0 3.00 3.21 3.43 3.65 3.87	H 6.0 2.96 3.17 3.38 3.60 3.81		
	R 6.5 3.29 3.52 3.76 4.00 4.25	R 6.5 3.24 3.47 3.70 3.94 4.18		
	T 7.0 3.58 3.83 4.10 4.36 4.63	T 7.0 3.52 3.78 4.04 4.30 4.57		
	(θ) 7.5 3.87 4.15 4.44 4.73 5.03	(θ) 7.5 3.81 4.09 4.37 4.66 4.96		
	8.0 4.17 4.48 4.79 5.11 5.44	8. 0 4. 11 4. 41 4. 72 5. 04 5. 36		
	$C-BOD = 10.42 \times SRT^{-0.519}$	$C-BOD = 10.42 \times SRT^{-0.519}$		
	(水温 15℃~20℃)	(水温 15℃~20℃)		
	C-BOD M L S S (Xa)	C-BOD M L S S (Xa)		
	1,600 1,700 1,800 1,900 2,000	1,600 1,700 1,800 1,900 2,000		
	H 6.0 5.89 5.68 5.50 5.32 5.16	H 6.0 5.93 5.73 5.54 5.36 5.20		
	R 6. 5 5. 62 5. 42 5. 24 5. 07 4. 92	R 6. 5 5. 66 5. 46 5. 28 5. 11 4. 96		
	T 7.0 5.38 5.19 5.01 4.85 4.70	T 7.0 5.42 5.23 5.05 4.89 4.74		
	(θ) 7.5 5.16 4.98 4.81 4.65 4.50	(θ) 7.5 5.20 5.02 4.84 4.69 4.54		
	8.0 4.97 4.79 4.62 4.47 4.33	8.0 5.00 4.82 4.66 4.50 4.36		

計画区分	全体計画	事業計画
項 目 MLSSの濃度 (Xa)	2,000 mg/L	2,000 mg/L
	※2014年~2018年度の実績値 平均1,754mg/L 最大2,241mg/L	※2011年~2015年度の実績値 平均1,754mg/L 最大2,241mg/L
滞留時間(θ)	8.00 hr	8.00 hr
所要容量	$53,800 \times 8.0 / 24 = 17,933 \text{ m}^3$	52,000 × 8.0 / 24 = 17,333 m ³
2) 形状寸法		
1~4系	巾 8.0 m × 長 36.8 m × 深 6.0 m × 8 池 (既設)	巾 8.0 m × 長 36.8 m × 深 6.0 m × 8 池 (既設)
5系	巾 10.0 m × 長 44.5 m × 深 6.0 m × 2 池 (躯体は既設、設備は1池分のみ既設) 上ハンチ:1.00×1.00	巾 10.0 m × 長 44.5 m × 深 6.0 m × 2 池 (躯体は既設、設備は1池分のみ既設) 上ハンチ:1.00×1.00
断面積	下ハンチ:0.80×0.80	下ハンチ:0.80×0.80
1~4系	$8.0 \times 6.0 - (1.00 \times 1.00 + 0.80 \times 0.80)$	$8.0 \times 6.0 - (1.00 \times 1.00 + 0.80 \times 0.80)$
	= 46.36 m ²	= 46.36 m ²
5系	$10.0 \times 6.0 - (1.00 \times 1.00 + 0.80 \times 0.80)$	$10.0 \times 6.0 - (1.00 \times 1.00 + 0.80 \times 0.80)$
	= 58.36 m ²	= 58.36 m ²
	1000 8, 000 800 800	1000 8,000 800
有効容積		
1 477	46 26 × 26 0 × 0 = 10 640 3	46 26 × 26 0 × 0 = 12 640 3
1~4系 5系	$46.36 \times 36.8 \times 8 = 13,648 \text{ m}^3$ $58.36 \times 44.5 \times 2 = 5,194 \text{ m}^3$	$46.36 \times 36.8 \times 8 = 13,648 \text{ m}^3$ $58.36 \times 44.5 \times 2 = 5,194 \text{ m}^3$
	<u> </u>	<u> </u>
	計 = 18,842 m³	計 = 18,842 m³

項目		
HRT	1~10池:18,842 / 53,800×24 = 8.4時間 (躯体は10池分既設、設備は9池分が既設)	1~10池:16,245 / 52,000×24 = 8.7時間 (躯体は10池分既設、設備は9池が既設) (9池では7.9時間のため、必要池数は10池とする)
滞留時間(θ) SRT (θc) 処理水のC-BOD	10 池を対象とする $18,842 / 53,800 \times 24 = 8.4 \text{ hr}$ $\theta \cdot Xa$ $a \cdot Scs + b \cdot Sss - C \cdot \theta \cdot Xa$ $= \frac{8.4 / 24 \times 2,000}{0.5 \times 116 + 1.0 \times 96 - 0.04 \times 8.4 / 24 \times 2,000}$ $= 5.8 \text{ B}$ $C-BOD = 10.42 \times SRT^ 0.519$ $= 10.42 \times 5.80^ 0.519$ $= 4.2 \text{ mg/L}$ $4.2 \times 3 = 12.6 < 15.0> 0K$	10 池を対象とする $18,842 / 52,000 \times 24 = 8.7 \text{ hr}$ $\theta \cdot Xa$ $a \cdot Scs + b \cdot Sss - C \cdot \theta \cdot Xa$ $= \frac{8.7 / 24 \times 2,000}{0.5 \times 116 + 1.0 \times 98 - 0.04 \times 8.7 / 24 \times 2,000}$ $= 6.0 \text{ H}$ $C-BOD = 10.42 \times SRT^0.519$ $= 10.42 \times 6.00^0.519$ $= 4.1 \text{ mg/L}$ $4.1 \times 3 = 12.3 < 15.0> 0K$
夏期	$X = 20.650 \times EXP(-0.0639 \times 水温)$ $X = 20.650 \times EXP(-0.0639 \times 18.0)$ $= 6.54日 $	$X = 20.650 \times EXP(-0.0639 \times 水温)$ $X = 20.650 \times EXP(-0.0639 \times 18.0)$ $= 6.54日 > 6.00日$ $X = 20.650 \times EXP(-0.0639 \times 水温)$ $X = 20.650 \times EXP(-0.0639 \times 25.0)$ $= 4.18日$ $(80%以上の硝化が進行する。)$ $Y = -\frac{1}{0.0639} LN(\frac{6.00}{20.650})$ $= 19.3 °C 以上$

計画区分	全体計画	事業計画		
項目	- T T E E	子		
5)送気量				
(1) BODの酸化に 必要な酸素量	① A(除去BOD当たりに必要な酸素量(KgO ₂ /KgBOD	D)))×流入BOD量(KgBOD/日)		
	$0.6 \times (116.0 - 15) \times 53,800 / 1,000$	$0.6 \times (116.0 - 15) \times 52,000 / 1,000$		
	= 3, 260 KgO₂/⊟ ·····①	= 3, 151 KgO₂/日 ·····①		
(2) 内生呼吸に 必要な酸素量	② B(単位MLVSS当たりの内生呼吸による酸素消費量(KgO2/KgMLVSS・日) × 反応タンクのMLVSS量(KgMLVSS)			
	$0.1 \times 2,000 \times 0.84 \times 18,842 / 1,000$	$0.1 \times 2,000 \times 0.84 \times 18,842 / 1,000$		
	= 3, 165 KgO₂/∃ ·····②	= 3, 165 KgO₂/ ⊟ ······②		
(3) 硝化反応に 必要な酸素量	③ C(硝化反応の伴に消費される酸素量(KgO2/Kg ただし			
	硝化したKj-N量=流入Kj-N量-流出H	Kj-N量-余剰汚泥によるKj-N量		
	a) 流出水のKj-Nの濃度が 5.0 mg/1の場合	4.57 × 1.105		
	4. 57 × 1, 148	4. 57 × 1, 105		
	= 5, 246 KgO ₂ /H③	= 5,050 KgO ₂ /H③		
	$(35.0-5.0) \times 41,500/1000$ -5,825×41,500/53,800×0.08 = 1,148 KgKj-N/ \Box	(35.0-5.0) × 40, 200/1000 -5, 691 × 40, 200/52, 000 × 0.08 = 1, 105 KgKj-N/ ⊟		
	1) 法山木のV: Nの連座ぶ 10 0/1 の担合			
	b) 流出水のKj-Nの濃度が 10.0 mg/Lの場合 4.57 × 879	4. 57 × 845		
	= 4,017 KgO ₂ /日 ······③	= 3,862 KgO ₂ /日 ······③		
	$(35.0-10.0) \times 53,800/1000$ $-5,825 \times 0.08$	$(35.0-10.0) \times 52,000/1000$ $-5,691 \times 0.08$		
	= 879 KgKj-N/ ⊟	= 845 KgKj-N/⊟		
(4)必要酸素量				
硝化抑制する場合	①+②	1)+2)		
	3, 260 + 3, 165	3, 151 + 3, 165		
	= 6,425 KgO ₂ /日	= 6,316 KgO ₂ /日		
硝化促進する場合	①+②+③	①+②+③		
	$3,260 + 3,165 + (4,017 \sim 5,246)$	$3,151 + 3,165 + (3,862 \sim 5,050)$		
	= 10,442 \sim 11,671 KgO ₂ / \boxminus	= 10,178 \sim 11,366 KgO ₂ / \Box		

計画区分 項 目	·	全 体 i	計 画			事	業	計 画
(5) 必要送風量			AOR×	C _{cw} × ν			101	্ব
(6) 紀·女尼/萬重	SOR =	1.024	(T1-T2) × α >	< (B × Cc×	ν -C.,)	- ×	101.	<u>5</u>
		: T1℃におけ		_			г	
	AOR	: T2℃におけ	る必要酸素	供給量(k	g/日)			
	Т1	: 散気装置性	能の前提と	なる清水温	度			T1= 20 ℃
		: 反応タンク						T2= 25 ℃
	Csw	: 清水中T1℃	での飽和酸	素濃度				C _{SW=} 9.09
	C _s	: 清水中T2℃	での飽和酸	素濃度				$C_{S} = 8.26$
	C _A	: 反応タンク	内のDO濃度					$C_{A} = 1.5$
	α	: kl _a の補正係	系数					$\alpha = 0.85$
	β	:酸素飽和濃	と度の補正係	数				$\beta = 0.95$
	γ	: 散気水深に	よる C _s の	甫正係数				$\gamma = 1.24$
		$\gamma = ($	1/2) × 〔(h:散	10.332+h) 気水深	/10. 332+1]			5.0 m
	Р	: 処理場にお	ける大気圧					101.3 kPa
	必要空気量(G							
	Gs =	EA× o)R	- ×100× -	273+T1 ×	1		
		·			273	1440		
		: 必要空気量						
		:酸素移動效						25
		: 空気密度()						1. 293
		: 空気中酸素	含有重量(K	g02/Kg空気)			0. 232
	全体計画 硝化なし							
	SOR =	(25-20)	6, 425	< 9. 09 × 1. 2	42		×	101
		1. 024 ^(25–20) 2, 413	$\times 0.83 \times (0)$	$.95 \times 8.26 \times$	(1. 242-1. 5)			101
	Ge =	$\frac{9, 4}{25.0 \times 1.29}$	113	_ ×100× -	293 ×	1	-	
			93×0.232	- /100/	273	1440		
	=	94 m³/日						
	硝化あり							
	SOR =	1. 024 (25-20)	11, 671	$\times 9.09 \times 1.2$	42		×	101
	=	1. 024 ^(25–20) 27, 099	$\times 0.83 \times (0 \text{ (kg0}_2/日)$. 95×8. 26×	(1. 242–1. 5)			101
	Co =	$\frac{17,0}{25.0 \times 1.29}$	099	_ ×100×	293 ~	1	-	
		25.0×1.29 170 m³/日	93×0.232	- ^100 ^ -	273	1440	•	
	事業計画 硝化なし							
	SOR =	1. 024 (25-20)	6, 425	< 9. 09×1. 2	42		×	101
		1. 024 ^(25–20) 2 9, 254			(1. 242–1. 5)		,	101
	Gs =	$\frac{9, 2}{25.0 \times 1.29}$	254	- ×100× -	293 ×	1	·	
			93×0.232		273	1440		
		92 m³/日						
	硝化あり		11 671	√0 00∨1 °	149			101
	SOR =	1. 024 (25-20)	11,011	05 × 0 9 6 ×	/1 9/9_1 E\		· ×	101
	=	16, 652	(kg0 ₂ /目)					101
		16,0 25.0×1.29 165 m³/日	652 93×0. 232	- ×100× -	293 273 ×	1440	<u>.</u>	

計画区分	全体計画	事業計画		
曝気水路必要風量	1系(2池)当り必要送風量	1系(2池)当り必要送風量		
	1~5系 3m³/分/系列	1~5系 3m³/分/系列		
必要送風量	硝化なし = $94+3\times5 = 109\text{m}^3/分$ 硝化あり = $171+3\times5 = 186\text{m}^3/分$	硝化なし = $92+3\times5 = 107m^3/分$ 硝化あり = $168+3\times5 = 183m^3/分$		
1 台当り送風量	85 m³/時間	85 m³/時間		
所要台数	109 / 85 ≒ 1.3 → 2台 186 / 85 ≒ 2.2 → 3台 (硝化なし) (硝化あり)	107 / 85 ≒ 1.3 → 2台 183 / 85 ≒ 2.2 → 3台 (硝化なし) (硝化あり)		
(6)ブロワー仕様				
型式	多段ターボブロワー	多段ターボブロワー		
口径 (mm)	300	300		
風量(m³/分)	85	85		
風圧 (mmAg)	7, 100	7, 100		
₹-9-出力(kW)	150 4 (内、1台予備)	150 4 (内、1台予備)		
台数(台) 送風能力 (m³/分)	全 台 85 × 3 = 255	全 台 85 × 3 = 255		

計画区分	全 体 計 画	事業計画
項目		
4-4 最終沈殿池 (矩形一方向流式)		
1) 容量の決定		
設計水量	53,800 m³/日	52,000 m³/日
水面積負荷率	25 m³/m²・日 (旧指針、1~4系対象)	25 m³/m²・日 (旧指針、1~4系対象)
	20 m³/m²·日 (新指針、5系対象)	20 m³/m²・日 (新指針、5系対象)
所要水深	2.7, 3.2 m	2.7, 3.2 m
所要水面積	$53,800 / 25 = 2,152 \text{ m}^2$	52,000 / 25 = 2,080 m ²
2) 形状寸法		
1~4系	巾15.8m × 長35.0m × 深2.7m × 1水路 × 4池 (既設)	巾15.8m × 長35.0m × 深2.7m × 1水路 × 4池 (既設)
5系	巾4.9m × 長36.3m × 深3.2m × 1水路 × 4池 (既設)	巾4.9m × 長36.3m × 深3.2m × 1水路 × 4池 (既設)
水面積	$15.80 \times 35.0 \times 4 + 4.9 \times 36.3 \times 4$	$15.80 \times 35.0 \times 4 + 4.9 \times 36.3 \times 4$
	= 2, 212 + 711	= 2, 212 + 711
	= 2,923 m ²	= 2,923 m ²
容積	$2,212 \times 2.7 + 711 \times 3.2$	$2,212 \times 2.7 + 711 \times 3.2$
	= 8,247 m³	= 8, 247 m³
水面積負荷	53,800 / 2,923 = 18.4 m ² (必要池数は反応タンクにより選定)	52,000 / 2,923 = 17.8 m ² (必要池数は反応タンクにより選定)
1 池当り能力 1~4系列	$15.8 \text{m} \times 35.0 \text{m} \times 25 \text{m}^3/\text{m}^2$	$H = 13.800 \text{m}^3 / \text{H}$
5系列	4.9m × 36.3m × 20m3/m2·F	
滞留時間	1. Jii / 00. Jii / 20110/112	, 0,000m / p
110 🖽 9 149	1~5池:8,247/53,800×24 = 3.7時間	1~5池:8,247/52,000×24 = 3.8時間
a) #A>##		
3) 越流堰	100 3/	100 3/
越流堰負荷率	120 m³/m	120 m³/m
所要堰長(1池当り)	1_ FNH: FF 200 / 100 / F 200 0	1_ Fight: FE 200 / 100 / F 200 0
	1~5池:55,200 / 120 / 5 = 92.0 m	1~5池:55,200 / 120 / 5 = 92.0 m
4) 余剰汚泥引抜量	(S-BODに対する汚泥転換量 + SSに対する汚泥 汚泥濃度 0.8%とし 収支計算より 728 m³/日 0.51 m³/分	云換量) −最終沈殿池のSS流出量 汚泥濃度 0.8%とし 収支計算より

計画区分		
項目	全 体 計 画	事業計画
4-5 塩素混和池 (長方形迂回流式)		
1) 容量の決定		
設計水量	$53,800 \text{ m}^3/日 = 37.36 \text{ m}^3/分$	$52,000 \text{ m}^3/日 = 36.11 \text{ m}^3/分$
滞留時間	15 分	15 分
所要容積	$37.36 \times 15 = 560 \text{ m}^3$	$36.11 \times 15 = 542 \text{ m}^3$
2) 形状寸法	巾4.5×長35.0m×深2.3m×3水路×1池	巾4.5×長35.0m×深2.3m×3水路×1池
容 量	$4.5~\times~35.0~\times~2.3~\times~3~\times~1~=~1064~\text{m}^{\text{3}}$	$4.5 \times 35.0 \times 2.3 \times 3 \times 1 = 1064 \text{ m}^{\text{s}}$
接触時間	1,064 / 37 = 28.5 分	1,064 / 36 = 29.5 分
4-6 雨水沈殿池(完全分》		
1) 施設用途	汚水調整池	雨水沈殿池
2)所要容量	日最大汚水量に対して、1時間程度の調整容量 を確保する。	合流区域面積に対して、降雨量3.0mm程度の 貯留容量を確保する。
	日最大汚水量 53,800m3/日 = 2,242m3/hr	合流区域面積 A = 130
	所要容量=2,242×1.0=2,242m³	所要容量= 129.6×3.0×10 = 3,888m³
3) 形状寸法	巾15.0m × 長32.0m × 深3.0m × 3池	巾15.0m × 長32.0m × 深3.0m × 3池
池容量	$15.0 \times 32.0 \times 3.0 \times 3 = 4,320 \text{ m}^3$	$15.0 \times 32.0 \times 3.0 \times 3 = 4,320 \text{ m}^3$
3) 能力チェック		実調整降雨量
	4,320 / 2,242 = 1.9 > 1.0 h r OK	$4,320/129.6/10 = 3.3 \text{ mm} > 3.0 \text{mm} \rightarrow 0\text{K}$

計画区分 項 目	全 体 計 画	事業計画
4-7 初沈汚泥受槽		
1) 施設用途	初沈汚泥とし尿・浄化槽汚泥を混合し、汚泥濃縮	・ 博へ供給するためのもの。 -
初沈汚泥引抜量	汚泥濃度 2.0%、SSの除去率 50.0%とし、 収支計算より 263 m³/日 0.18 m³/分	汚泥濃度 2.0%、SSの除去率 50.0%とし、 収支計算より 256 m³/日 0.18 m³/分
し尿・浄化槽汚泥	基本事項. 主要施設の設計負荷より汚泥濃度 0.7% 130 m³/日 0.09 m³/分	基本事項. 主要施設の設計負荷より汚泥濃度 0.7% 130 m³/日 0.09 m³/分
合 計	393 m³/日 0.27 m³/分	386 m³/日 0.27 m³/分
2) 形状寸法	巾3.0m × 長4.0m × 深3.0m × 1槽	巾3.0m × 長4.0m × 深3.0m × 1槽
容量	$3.0 \times 4.0 \times 3.0 \times 1 = 36 \text{ m}^3$	$3.0 \times 4.0 \times 3.0 \times 1 = 36 \text{ m}^3$
滞留時間	36 / 393 × 24 = 2.2 時間	36 / 386 × 24 = 2.2 時間

計画区分 項 目	全 体 計 画	事 業 計 画
4-8 重力濃縮槽		
(重力円形放射流式) 1) 容量の決定		
1) 谷重の決定 投入汚泥量	収支計算(P8)より汚泥濃度を 1.57 %とすると	
· 按八仍此里	収文計算(PO)より行他優長を 1.30 %とりると 生汚泥固形物量 = 6.18 t/日	収支計算(p9) より汚泥濃度を 1.56 %とすると 生汚泥固形物量 = 6.03 t/日
	至77亿回ル初星 — 0.18 t/ 日 6.18 / 1.57 × 100 = 393 m³/日	至77亿回ル初里 — 0.03 t/口 6.03 / 1.56 × 100 = 386 m³/日
固形物負荷率	90 kg/m ² ·目(指針値60~90)	90 kg/m ² ·日 (指針値60~90)
所要水面積	6. $18 / 90 \times 10^{\circ}3 = 68.7 \text{ m}^2$	$6.03 / 90 \times 10^3 = 67.0 \text{ m}^2$
所要水深	3.5 m とする。	3.5 m とする。
2) 形状寸法	5.5 m と y る。 内径 8.5 m × 深 3.5 m × 2 槽 (既設)	3.5 m と y る。 内径 8.5 m × 深 3.5 m × 2 槽 (既設)
水面積	$\pi / 4 \times 8.5^2 \times 2 = 113.5 \text{ m}^2$	$\pi / 4 \times 8.5^{\circ}2 \times 2 = 113.5 \text{ m}^{2}$
水面價 容 量	$113.5 \times 3.5 = 397 \text{ m}^3$	$113.5 \times 3.5 = 397 \text{ m}^3$
日形物負荷 西形物負荷	$(6.18 / 113.5) \times 10^3 = 54.4 \text{ kg/m}^2 \cdot \text{F}$	$(6.03 / 113.5) \times 10^3 = 53.1 \text{ kg/m}^2 \cdot \text{H}$
滞留時間	397 / 393 × 24 = 24.2 時間	397 / 386 × 24 = 24.7 時間
3) 濃縮汚泥引抜量	500. 7 500 / 21 27.2 NJEJ	SOL, SOO A ZI ZII NJEJ
0/ 派州出 7/2 开及至	汚泥濃度 4.0%、固形物回収率 90.0%とすると、	汚泥濃度 4.0%、固形物回収率 90.0%とすると、
	$6.18 \times 0.90/4 \times 100 = 139$ m³/日=0.097m³/分	$6.03 \times 0.90/4 \times 100 = 136 \text{m}^3/日 = 0.094 \text{m}^3/分$
4-9 機械濃縮機		
1) 容量の決定		
投入汚泥量	汚泥濃度を 0.8 %とすると、	汚泥濃度を 0.8 %とすると、
	余剰汚泥固形物量 = 5.83 t/日	余剰汚泥固形物量 = 5.69 t/日
	5.83/ 0.8 × 100	5.69/ 0.8 × 100
	$= 729 \text{m}^3 / \exists = 30 \text{m}^3 / \text{hr}$	= 711m³/日 = 30m³/hr
濃縮機1台当り 処理能力	30 m³/時間	30 m³/時間
所要台数	30 / 30 ≒ 1.01 → 2台 (既設は2台)	31/30 ≒ 1.0 → 2台 (既設は2台)
2)濃縮機仕様		
型式	遠心濃縮機	遠心濃縮機
能力	30 m³/時間 · 台	30 m³/時間 ・ 台
台数	3 台(内 1 台予備)	3 台 (内 1 台予備)
3) 濃縮汚泥引抜量		
5/ 10×10日1フルロフFIX 里	汚泥濃度を 4 %、	汚泥濃度を 4 %、
	固形物回収率は 90.0%とすると、	固形物回収率は 90.0%とすると、
	$5.83 \times 0.90/4 \times 100 = 131$ m³/日= 0.09 m³/分	$5.69 \times 0.90/4 \times 100 = 128$ m³/日=0.09m³/分

計画区分	全 体 計 画	事 業 計 画
4-10 消化槽		
1) 容量の決定		
投入汚泥量	濃縮汚泥量 = 重力濃縮汚泥量+機械濃縮汚泥量	濃縮汚泥量 = 重力濃縮汚泥量+機械濃縮汚泥量
	固形物量 : 5.56+5.25=10.81t/日	固形物量 : 5.42+5.12=10.54t/日
	汚泥体積 : 139+131=270m³/日	汚泥体積 : 136+128=264m³/日
消化汚泥量	有機物含有率 : 80 %	有機物含有率 : 80 %
	有機物分解率 : 50 %	有機物分解率 : 50 %
	固形物量:10.81×(1-0.80×0.50)=6.49t/日	固形物量:10.54×(1-0.80×0.50)=6.32t/日
	消化汚泥量 = 投入汚泥量 = 270 m³/日	消化汚泥量 = 投入汚泥量 = 264 m³/日
消化日数	20 日	20 日
消化温度	35 ℃ (中温消化)	35 ℃ (中温消化)
所要容積	$270 \times 20 = 5,400 \text{ m}^3$	$264 \times 20 = 5,280 \text{ m}^3$
2) 形状寸法	※No. 1消化槽は、将来廃止し、No. 2, No. 3の再構築	薬用地の予定。 -
寸 法 No. 1, 2	内 径 20.00m × 直胴部深 9.6m × 2 槽 (既設)	内 径 20.00m × 直胴部深 9.6m × 2 槽 (既設)
No. 3	内 径 16.50m × 直胴部深 14.0m × 1 槽 (既設)	内 径 16.50m × 直胴部深 14.0m × 1 槽 (既設)
容 積	$3,366 \times 2 + 4,000 \times 1 = 10,732 \text{ m}^3$	$3,366 \times 2 + 4,000 \times 1 = 10,732 \text{ m}^3$
消化日数	10,732 ÷ 270 ≒ 40 日 (既設の躯体を活用)	10,732 ÷ 264 ≒ 41 日 (既設の躯体を活用)
4-11 ガスタンク (ドライシール)		
1) 容量の決定	W// h > h flid Flight B	Will by bill a provide a construction
投入汚泥量	消化タンク投入固形物量 = 10.81 t/日	消化タンク投入固形物量 = 10.54 t/日
発生ガス量	投入有機物1kg当りの発生ガス量 0.6m³とすれば (汚泥の有機分解率を80%とする)	投入有機物1kg当りの発生ガス量 0.6m³とすれば (汚泥の有機分解率を80%とする)
	$10.80 \times 0.8 \times 0.6 \times 10^3 = 5,184 \text{m}^3 / \text{H}$	$10.55 \times 0.8 \times 0.6 \times 10^3 = 5,064 \text{m}^3 / \text{B}$
貯留時間	12 時間とする。	12 時間とする。
所要容量	$5,184 \times 12 / 24 = 2,592 \text{ m}^3$	$5,064 \times 12 / 24 = 2,532 \text{ m}^{3}$
2) 形状寸法		
型式	ドライシール	ドライシール
内 径	14.1 m	14.1 m
高さ	16.7 m	16.7 m
容量	1,500 m³ 1,900 m³	1,500 m³ 1,900 m³
基数	2 基(各1基ずつ, 既設)	2 基(各1基ずつ, 既設)
貯留時間	(1,500+1,900)×24/5,184=15.7時間	(1,500+1,900)×24/5,064=16.1時間

計画区分項目	全 体 計 画	事業計画
4-12 汚泥貯留槽		
投入汚泥量	消化汚泥量 = 270m³/日 = 11.3m³/hr	消化汚泥量 = 264m3/日 = 11.0m³/hr
脱水機運転時間	週 5 日、1日 7.0 時間運転	週 5 日、1日 7.0 時間運転
	最大貯留時間は、土曜日脱水機停止から月曜日脱	i水開始までの時間
	必要貯留時間=(7-5)×24+(24-7)=65hr	必要貯留時間=(7-5)×24+(24-7)=65hr
所要容量	三次貯留槽は 115m³ であるので、	三次貯留槽は 115m³ であるので、
	必要容量11.5×65-115=632.5 m³	必要容量10.9×65-115=593.5 m³
形状寸法	No. 1貯留槽 内径 φ 12. 4m	No. 1貯留槽 内径 φ 12. 4m
	No. 2貯留槽 内径 φ 15. 0m	No. 2貯留槽 内径 φ 15. 0 m
貯留量 No. 1 貯留槽	$= \pi / 4 \times 12. \ 4^2 \times (3.3 + 0.5) + \pi \times 0.84/3$	$= \pi /4 \times 12. \ 4^2 \times (3.3 + 0.5) + \pi \times 0.84/3$
NO. 1 以 田 1百	$ \begin{array}{c} -\pi/4 \times 12.4 \ 2 \times (3.3 \times 0.3) + \pi/4 \times 0.04/3 \\ \times (6.2^2 + 6.2 \times 3.008 + 3.008^2) = 584 \text{m}^3 \end{array} $	$ \begin{array}{c} -\pi/4 \times 12.4 \ 2 \times (3.310.3) + \pi/4 \times 0.04/3 \\ \times (6.2^2 + 6.2 \times 3.008 + 3.008^2) = 584 \text{m}^3 \end{array} $
	× (0.2 2 + 0.2×3.000 + 3.000 2) = 304iii	× (0.2 2 + 0.2 × 3.000 + 3.000 2) = 304 m
No. 2 貯留槽	$= \pi/4 \times 15.0^{2} \times (2.15+0.7) + \pi/\times 1.25/3$	$= \pi /4 \times 15.0^{2} \times (2.15+0.7) + \pi / \times 1.25/3$
	$\times (7.5^2 + 7.5 \times 1.25 + 1.25^2) = 618 \text{m}^3$	$\times (7.5^2 + 7.5 \times 1.25 + 1.25^2) = 618 \text{m}^3$
合計貯留量	584 + 618 = 1, 202 m ³	584 + 618 = 1,202 m ³
実貯留時間	(1,202 + 115) / 11.3 = 116.5 hr	(1,202 + 115) / 11.0 = 119.7 hr
4-13 脱水機 1) 容量の決定		
1) 存重の次定 固形物量	消化汚泥 = 6.49 ton/日	消化汚泥 = 6.32 ton/日
運転時間	週 5 日、1日 7 時間運転	週 5 日、1日 7 時間運転
処理固形物量	6.49×(7/5)×(1/7)=1.30t/時間	6.32×(7/5)×(1/7)=1.26t/時間
投入汚泥量	消化汚泥濃度 2.4 %	消化汚泥濃度 2.4 %
	$1.30 / 2.4 \times 100 = 54 \text{ m}^3/\text{hr}$	$1.26 / 2.4 \times 100 = 53 \text{ m}^3/\text{hr}$
脱水機能力	20 m³/hr	20 m³/hr
必要台数	54 / 20 = 2.7 → 3 台 (既設)	53 / 20 = 2.7 → 3 台 (既設は3台)
脱水汚泥量	含水率 83 %、回収率 95 %とする。	含水率 83 %、回収率 95 %とする。
	$6.49 \times 0.95 \times (7/5) \times 100/(100-83)$	$6.32 \times 0.95 \times (7/5) \times 100/(100-83)$
	=50.8m³/日	=49.4m³/日

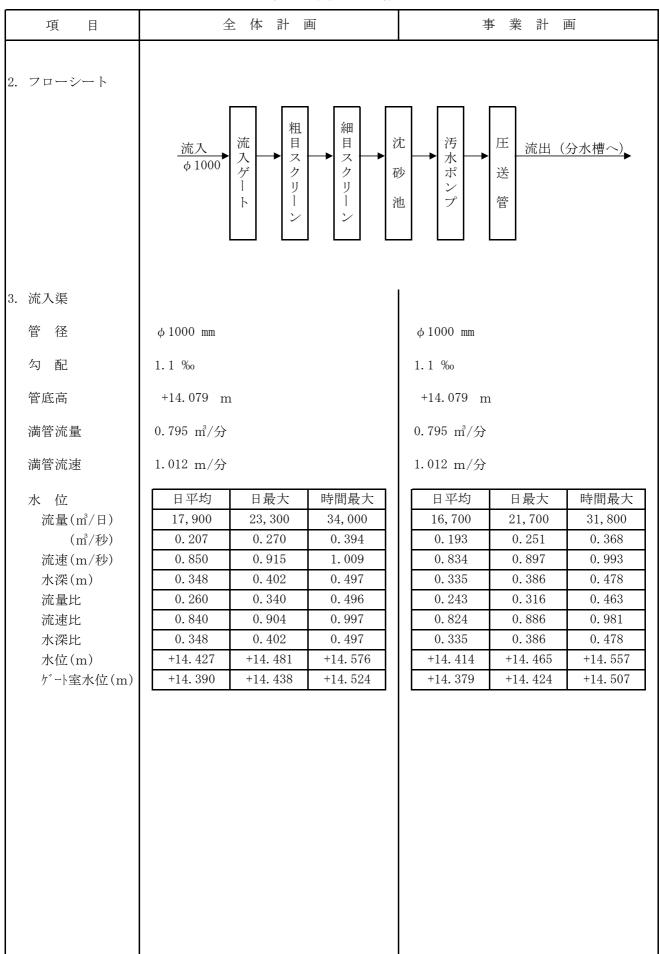
事画区分 項 目	全体計画	事 業 計 画
2) 脱水機仕様		
型式	遠心脱水機	遠心脱水機
能 力(m³/hr)	20	20
台 数(台)	3	3

ポンプ施設容量計算書

令和2年度

佐 野 市

項目	全 体 計 画	事業計画
1. 基本事項		
(1) 敷地条件		
位置	佐野市庚申塚字壱町田町	
敷地面積	2, 800 m²	
(2) 流入条件		
流入管径	HP φ1000 mm	HP φ1000 mm
流入管勾配	1.1 %	1.1 %
流入管底高	+14. 079 m	+14. 079 m
満管流量	0.795 ㎡/分	0.795 m³/分
満管流速	1.012 m/分 (マニング n=0.013)	1.012 m/分 (マニング n=0.013)
(3) 流出条件	(圧送管)	(圧送管)
圧送先	佐野市水処理センター 分水槽	佐野市水処理センター 分水槽
条数	2 条	2 条
管径	ϕ 400 mm	φ 400 mm
圧送距離	312 m	312 m
圧送先水位	+27. 200 m	+27. 200 m
(4) 計画水量	日平均 日最大 時間最大	日平均 日最大 時間最大
(m³/日) (m³/分) (m³/秒)	日本の 日放入 時間放入 17,900 23,300 34,000 12.43 16.18 23.61 0.207 0.270 0.394	16,700 21,700 31,800 11.60 15.07 22.08 0.193 0.251 0.368



項 目	全体計画	事業計画	
損失水頭計算			
日平均			
流失損失水頭	$1 \times \frac{0.850 \hat{2}}{2 \times 9.8} = 0.037 \text{ m}$	$1 \times \frac{0.834 ^2}{2 \times 9.8} = 0.035 \text{ m}$	
流出水位	+14.427 - 0.037 = +14.390 m	+14.414 - 0.035 = +14.379 m	
日最大			
流失損失水頭	$1 \times \frac{0.915 \hat{2}}{2 \times 9.8} = 0.043 \text{ m}$	$1 \times \frac{0.897 \hat{2}}{2 \times 9.8} = 0.041 \text{ m}$	
流出水位	+14.481 - 0.043 = +14.438 m	+14.465 - 0.041 = +14.424 m	
時間最大			
流失損失水頭	$1 \times \frac{1.009 ^2}{2 \times 9.8} = 0.052 \text{ m}$	$1 \times \frac{0.993 ^2}{2 \times 9.8} = 0.050 \text{ m}$	
流出水位	+14.576 - 0.052 = +14.524 m	+14.557 - 0.050 = +14.507 m	
4. 流入ゲート			
(1) 水位			
日平均	+14. 390 m	+14. 379 m	
日最大	+14. 438 m	+14. 424 m	
時間最大	+14. 524 m	+14. 507 m	
(2) 底高	+13. 900 m	+13. 900 m	
(3) 通過水深	ゲート室水位-ゲート室底高	ゲート室水位-ゲート室底高	
日平均	+14.390 - (+13.900) = 0.490 m	+14.379 - (+13.900) = 0.479 m	
日最大	+14.438 - (+13.900) = 0.538 m	+14. 424 - (+13. 900) = 0. 524 m	
時間最大	+14.524 - (+13.900) = 0.624 m	+14.507 - (+13.900) = 0.607 m	
(4) 寸法	W H 0.70m×1.00m×2 基	W H 0.70m×1.00m×2 基	

項目	全 体 計 画	事 業 計 画
(5) 通過流速		
日平均	$\frac{0.207}{0.490 \times 0.70 \times 2} = 0.302 \text{ m/f}$	$\frac{0.193}{0.479 \times 0.70 \times 2} = 0.288 \text{ m/F}$
日最大	$\frac{0.270}{0.538 \times 0.70 \times 2} = 0.358 \text{ m/}$	$\frac{0.251}{0.524 \times 0.70 \times 2} = 0.342 \text{ m/fb}$
時間最大	$\frac{0.394}{0.624 \times 0.70 \times 2} = 0.451 \text{ m/}$	$\frac{0.368}{0.607 \times 0.70 \times 2} = 0.433 \text{ m/F}$
(6) 損失水頭		
日平均	$\frac{0.302^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.007 \text{ m}$	$\frac{0.288^{\circ}2}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.006 \text{ m}$
日最大	$\frac{0.358^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.010 \text{ m}$	$\frac{0.342^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.009 \text{ m}$
時間最大	$\frac{0.451 ^2}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.016 \text{ m}$	$\frac{0.433^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.014 \text{ m}$
5. 粗目スクリーン		
(1) スクリーン仕様		
目巾	200 mm	200 mm
バー厚	9 mm	9 mm
角度	70°	70°
基数	2 基	2 基
(2) 水路底高	+13.900m ~ +13.800m	+13.900m ~ +13.800m
(3) 水路巾	1.0 m	1.0 m
(4) 損失水頭	粗目スクリーンのため損失水頭は無視する。 	

項目	全 体 計 画	事業計画	
6. 細目スクリーン			
(1) スクリーン仕様			
目巾	25 mm	25 mm	
バー厚	9 mm	9 mm	
角度	75°	75°	
(0) + /÷	ᅜᇍᆝ ᇢ ᆉᅜᅠᅜᇍᆝᄖᅭᆎᆎᇏ	だっし字を位しだ。1.44を元前	
(2) 水 位	ゲート室水位ーゲート損失水頭	ゲート室水位ーゲート損失水頭	
日平均	+14.390 - 0.007 = +14.383 m	+14.379 - 0.006 = +14.373 m	
日最大	+14. 438 - 0. 010 = +14. 428 m	+14. 424 - 0. 009 = +14. 415 m	
時間最大	+14. 524 - 0. 016 = +14. 508 m	+14.507 - 0.014 = +14.493 m	
(3) 水路底高	+13.800 m	+13. 800 m	
(4) 流下水深	スクリーン水位ースクリーン底高	スクリーン水位ースクリーン底高	
日平均	+14.383 -(+13.800) = 0.583 m	+14.373 -(+13.800) = 0.573 m	
日最大	+14.428 -(+13.800) = 0.628 m	+14.415 -(+13.800) = 0.615 m	
時間最大	+14.508 - (+13.800) = 0.708 m	+14.493 -(+13.800) = 0.693 m	
(5) 水路巾	1.00m×2水路とする。	1.00m×2水路とする。	
(6) 通過流速	 閉塞率を50%とすると、スクリーン通過流速は、		
日平均	$\frac{0.207}{0.583 \times 0.50} \times \frac{(25+9)/25}{1.0 \times 2}$	$\frac{0.193}{0.573 \times 0.50} \times \frac{(25+9)/25}{1.0 \times 2}$	
	= 0.483 m/秒	= 0.458 m/秒	
日最大	$\frac{0.270}{0.628 \times 0.50} \times \frac{(25+9)/25}{1.0 \times 2}$	$\frac{0.251}{0.615 \times 0.50} \times \frac{(25+9)/25}{1.0 \times 2}$	
	= 0.585 m/秒	= 0.555 m/秒	
時間最大	$\frac{0.394}{0.708 \times 0.50} \times \frac{(25+9)/25}{1.0 \times 2}$	$\frac{0.368}{0.693 \times 0.50} \times \frac{(25+9)/25}{1.0 \times 2}$	
	= 0.757 m/秒	= 0.722 m/秒	

項目	全 体 計 画	事 業 計 画
(7)損失水頭	hs=2.34×sin θ ×(t/b) $^4/3$ × $\frac{V^2}{2g}$	hs=2.34×sin θ ×(t/b) $^4/3$ × $\frac{\text{V}^2}{2\text{g}}$
日平均	$= 2.34 \times \sin 75 \times (9/25)^4/3 \times \frac{0.483^2}{2g}$	= $2.34 \times \sin 75 \times (9/25)^4/3 \times \frac{0.458^2}{2g}$
	= 0.007 m	= 0.006 m
日最大	= $2.34 \times \sin 75 \times (9/25)^4/3 \times \frac{0.585^2}{2g}$	= $2.34 \times \sin 75 \times (9/25)^4/3 \times \frac{0.555^2}{2g}$
	= 0.010 m	= 0.009 m
時間最大	= $2.34 \times \sin 75 \times (9/25)^4/3 \times \frac{0.757^2}{2g}$	= $2.34 \times \sin 75 \times (9/25)^4/3 \times \frac{0.722^2}{2g}$
	= 0.017 m	= 0.015 m
7. 沈砂池		
(1) 形状寸法		
池巾	2.5 m	2.5 m
池長	7.35 m	7.35 m
池数	2 池	2 池
池底高	+13. 800 m	+13.800 m
(2) 水面積負荷	$\frac{34,000}{2.5 \times 7.35 \times 2} = 925 \text{ m}^3/\text{m}^2 \cdot \text{d}$	$\frac{31,800}{2.5 \times 7.35 \times 2} = 865 \text{ m}^3/\text{m}^2 \cdot \text{d}$
(3) 沈砂池水位	スクリーン水路水位ースクリーン損失水頭	スクリーン水路水位ースクリーン損失水頭
日平均	+14.383 - 0.007 = +14.376 m	+14.373 - 0.006 = +14.367 m
日最大	+14.428 - 0.010 = +14.418 m	+14.415 - 0.009 = +14.406 m
時間最大	+14.508 - 0.017 = +14.491 m	+14.493 - 0.015 = +14.478 m
(4) 水 深		
日平均	+14.376 - (+13.800) = 0.576 m	+14.367 - (+13.800) = 0.567 m
日最大	+14.418 - (+13.800) = 0.618 m	+14.406 - (+13.800) = 0.606 m
時間最大	+14.491 - (+13.800) = 0.691 m	+14.478 - (+13.800) = 0.678 m

秋山川中継ポンプ場

項目	全	体計 [画		事業計画				
(5) 流 速									
日平均	$\frac{0.207}{2.5 \times 0.576 \times 2} = 0.072 \text{ m/}$				$\frac{0.193}{2.5 \times 0.567 \times 2} = 0.068 \text{ m/}$				
日最大	0. 270 2. 5 × 0. 618	$\frac{0}{3\times2}$	0.087 m/秒	-	$\frac{0.251}{2.5 \times 0.606 \times 2} = 0.083 \text{ m/} $				
時間最大	$\begin{array}{c} 0.394 \\ 2.5 \times 0.691 \end{array}$	= × 2	0.114 m/秒	-	0. 368 2. 5 × 0. 678	$\frac{8}{8 \times 2} =$	0.109 m/秒		
8. ポンプ設備									
(1) 揚水量及び台数	各流入量に対	するポンプi	軍転は次のとお	 3り。	とする。				
1号ポンプ揚水量	5.3 m³/分				5.3 m³/分				
2号ポンプ揚水量	11.6 m³/分				11.6 m³/分				
	日平均	日最大	時間最大		日平均	日最大	時間最大		
流量(m³/分)	12.43	16. 18	23. 61	ľ	11.60	15.07	22. 08		
運転台数(1号)	1	1	2	Ì	1	1	2		
運転台数(2号)	1	1	2		1	1	1		
揚水量(m³/分)	16. 90	16. 90	33.80		16. 90	16. 90	22. 20		
揚水量(m³/秒)	0. 282	0. 282	0.563		0. 282	0. 282	0.370		
(2) ポンプロ径	D=146×(Q D:ポンプの Q:ポンプの V:吸い込み)吸い込み口()吐き出し量((m³/分)		D=146×(G D:ポンプの Q:ポンプの V:吸い込み)吸い込み口?)吐き出し量	(m³/分)		
1号ポンプ	V=2.5m/分 D=213mm	→ 200mm			$V = 2.5 \mathrm{m}$ $D = 213 \mathrm{mm}$				
2号ポンプ	V = 2.5 m/分 $D = 314 \text{mm} \rightarrow 300 \text{mm}$				$V = 2.5 \mathrm{m}$ $D = 314 \mathrm{mm}$				
(3) 揚 程									
ポンプ井水位	日平均	 日最大	時間最大		日平均	日最大	時間最大		
(m)	+14. 383	+14. 428	+14. 508		+14. 373	+14. 415	+14. 493		
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			,						

秋山川中継ポンプ場

項目	全体計画	事業計画			
圧送管摩擦(m)	$he = 10.666 \times (Q/C)^1.85 \times D^4.87 \times L$	he=10.666×(Q/C)^1.85×D^-4.87×L			
流速係数 管 径(m) 延 長(m) 条 数(条)	C: 110 D: 0.40 , 0.40 L: 312 n: 2	C: 110 D: 0.40, 0.40 L: 312 n: 2			
実揚程(m)	圧送先水位ーポンプ井L.W.L	圧送先水位ーポンプ井L.W.L			
	= +27.200 - (+14.500)	= +27.200 - (+14.500)			
	= 12.700 m	= 12.700 m			
全揚程(m)	ポンプ回り損失を1.5mとすると	ポンプ回り損失を1.5mとすると			
	日平均 日最大 時間最大	日平均 日最大 時間最大			
圧送管摩擦	2. 479 3. 395 5. 872	0. 945 1. 562 2. 479			
実揚程	12. 700 12. 700 12. 700	12.700 12.700 12.700			
ポンプ回り	1.500 1.500 1.500	1.500 1.500 1.500			
合計	16. 679 17. 595 20. 072	15. 145 15. 762 16. 679			
(4) 設備 (4) 項 口型 揚揚 原 台 (4) 以	以上より、全揚程 = 21 m 1号ポンプ 2号ポンプ 200 mm 300 mm 水中汚水ポンプ 5.3 m³/分 11.6 m³/分 21.0 m 37.0 kW 75.0 kW 2 3 (1) ※() 内は内予備台数	以上より、全揚程 = 21 m 1号ポンプ 2号ポンプ 200 mm 300 mm 水中汚水ポンプ 5.3 m³/分 11.6 m³/分 21.0 m 37.0 kW 75.0 kW 2 2 (1) ※() 内は内予備台数			

秋山川中継ポンプ場

項目			画	事	事業計 [画
9. 水位等のまとめ						
	日平均	日最大	時間最大	日平均	日最大	時間最大
流入管底高	+14.079	+14. 079	+14. 079	+14. 079	+14. 079	+14. 079
ゲート室底高	+13.900	+13. 900	+13.900	+13. 900	+13. 900	+13.900
ゲート室水位	+14. 390	+14. 438	+14. 524	+14. 379	+14. 424	+14. 507
スクリーン水路底高	+13.800	+13.800	+13.800	+13. 800	+13.800	+13.800
スクリーン水路水位	+14. 383	+14. 428	+14. 508	+14. 373	+14. 415	+14. 493
沈砂池底高	+13.800	+13.800	+13.800	+13. 800	+13.800	+13.800
沈砂池水位	+14. 376	+14. 418	+14. 491	+14. 367	+14. 406	+14. 478
ポンプ井水位	+14. 383	+14. 428	+14. 508	+14. 373	+14. 415	+14. 493
圧送先水位	+27. 200	+27. 200	+27. 200	+27. 200	+27. 200	+27. 200

項目	全 体 計 画	事業計画		
1. 基本事項				
(1) 敷地条件				
位置	佐野市高萩町字石原			
敷地面積	589. 46 m²			
(0) 法 1 名 (4)				
(2) 流入条件 流入管径	HP φ600 mm	HP φ600 mm		
		·		
流入管勾配	2.4 ‰	2.4 ‰		
流入管底高	+14.640 m	+14.640 m		
満管流量	0.301 m³/分	0.301 m³/分		
満管流速	1.064 m/分 (マニング n=0.013)	1.064 m/分 (マニング n=0.013)		
(3) 流出条件	(圧送管)	(圧送管)		
	V=1.5m/秒程度とすると、	V=1.5m/秒程度とすると、		
	D = φ162mm×1 → φ300mm×1 となる。(φ300mmの既設を活用)	$D = \phi 162 \text{mm} \times 1 \rightarrow \phi 300 \text{mm} \times 1$ となる。($\phi 300 \text{mm}$ の既設を活用)		
圧送先	場外マンホール	場外マンホール		
条数	1 条	1 条		
管径	φ 300 mm	ф 300 mm		
圧送距離	1, 466 m	1,466 m		
圧送先水位	+23. 490 m	+23. 490 m		
圧送管最高位	+25. 028 m	+25. 028 m		
(4) 計画水量 (m³/日) (m³/分)	日平均 日最大 時間最大 1,500 1,900 2,700 1.04 1.32 1.88	日平均 日最大 時間最大 1,400 1,800 2,700 0.97 1.25 1.88		
(m³/秒)	0. 017 0. 022 0. 031	0.016 0.021 0.031		

_	高萩中継ポンプ場							
	項目		全体計画				事業計	画
2.	フローシート	流入 φ 600	流入ゲート	→ 砂 → 溜 ま		→ 水 ポ ン	圧 流出(送 管	場外組へ)▶
3.	流入渠				I			
	管 径	ϕ 600 mm				φ 600 mm		
	勾 配	2.4 ‰				2.4 ‰		
	管底高	+14.640 m	1			+14.640 m	1	
	満管流量	0.301 m³/分				0.301 m³/分		
	満管流速	1.064 m/分				1.064 m/分		
	水 位	日平均	日最大	時間最大		日平均	日最大	時間最大
	流量(m³/日)	1, 500	1, 900	2, 700		1, 400	1,800	2, 700
	(m³/秒)	0. 017	0.022	0.031		0.016	0. 021	0.031
	流速(m/秒)	0. 577	0.620	0. 686		0. 564	0.613	0.686
	水深(m)	0. 097	0.110	0. 130		0.094	0. 107	0.130
	流量比	0.056	0.073	0. 103		0.053	0.070	0. 103
	流速比	0. 542	0.583	0.645		0.530	0. 576	0.645
	水深比	0. 162	0. 183	0. 217		0. 157	0. 178	0. 217
	水位(m)	+14. 737	+14.750	+14. 770		+14. 734	+14. 747	+14. 770
	ケート室水位(m)	+14.720	+14.730	+14. 746		+14. 718	+14. 728	+14. 746
	損失水頭計算 日平均							

項目	全 体 計 画	事業計画
流失損失水頭	$1 \times \frac{0.577 ^2}{2 \times 9.8} = 0.017 \text{ m}$	$1 \times \frac{0.564 ^2}{2 \times 9.8} = 0.016 \text{ m}$
流出水位	+14.737 - 0.017 = +14.720 m	+14.734 - 0.016 = +14.718 m
日最大		
流失損失水頭	$1 \times \frac{0.620 \hat{2}}{2 \times 9.8} = 0.02 \text{ m}$	$1 \times \frac{0.613 ^2}{2 \times 9.8} = 0.019 \text{ m}$
流出水位	+14.750 - 0.02 = +14.730 m	+14.747 - 0.019 = +14.728 m
時間最大		
流失損失水頭	$1 \times \frac{0.686 ^2}{2 \times 9.8} = 0.024 \text{ m}$	$1 \times \frac{0.686^{2}}{2 \times 9.8} = 0.024 \text{ m}$
流出水位	+14.770 - 0.024 = +14.746 m	+14.770 - 0.024 = +14.746 m
4. 流入ゲート		
(1) 水位		
日平均	+14. 720 m	+14.718 m
日最大	+14. 730 m	+14.728 m
時間最大	+14. 746 m	+14.746 m
(2) 底高	+14. 500 m	+14.500 m
(3) 通過水深	ゲート室水位-ゲート室底高	ゲート室水位-ゲート室底高
日平均	+14.720 - (+14.500) = 0.220 m	+14.718 -(+14.500)= 0.218 m
日最大	+14.730 - (+14.500) = 0.230 m	+14.728 -(+14.500)= 0.228 m
時間最大	+14.746 - (+14.500) = 0.246 m	+14.746 - (+14.500) = 0.246 m
(4) 寸法	W H 0.40m×0.40m×2 基	W H 0.40m×0.40m×2 基

項目	全 体 計 画	事業計画
(5) 通過流速		
日平均	$\frac{0.017}{0.220 \times 0.40 \times 2} = 0.097 \text{ m/}$	$\frac{0.016}{0.218 \times 0.40 \times 2} = 0.092 \text{ m/}$
日最大	$\frac{0.022}{0.230 \times 0.40 \times 2} = 0.120 \text{ m/}$	$\frac{0.021}{0.228 \times 0.40 \times 2} = 0.115 \text{ m/}$
時間最大	$\frac{0.031}{0.246 \times 0.40 \times 2} = 0.158 \text{ m/}$	$\frac{0.031}{0.246 \times 0.40 \times 2} = 0.158 \text{ m/}$
(6) 損失水頭		
日平均	$\frac{0.097^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.001 \text{ m}$	$\frac{0.092^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.001 \text{ m}$
日最大	$\frac{0.120^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.001 \text{ m}$	$\frac{0.115^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.001 \text{ m}$
時間最大	$\frac{0.158^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.002 \text{ m}$	$\frac{0.158^{2}}{2 \times 9.8} \times 1.5 = 0.002 \text{ m}$
5. スクリーン水路		
(1) スクリーン仕様		
目巾	150 mm	150 mm
バー厚	12 mm	12 mm
角度	60°	60°
(2) 水 位	ゲート室水位-ゲート損失水頭	ゲート室水位-ゲート損失水頭
日平均	+14.720 - 0.001 = +14.719 m	+14.718 - 0.001 = +14.717 m
日最大	+14.730 - 0.001 = +14.729 m	+14.728 - 0.001 = +14.727 m
時間最大	+14.746 - 0.002 = $+14.744$ m	+14.746 - 0.002 = +14.744 m
(3) 水路底高	+14.500 m ~ +14.400 m (計算上は +14.400mとする。)	+14.500 m ~ +14.400 m (計算上は +14.400mとする。)

項目	全 体 計 画	事 業 計 画
(4) 流下水深	スクリーン水位ースクリーン底高	スクリーン水位ースクリーン底高
日平均	+14.719 - (+14.400) = 0.319 m	+14.717 -(+14.400) = 0.317 m
日最大	+14.729 - (+14.400) = 0.329 m	+14.727 - (+14.400) = 0.327 m
時間最大	+14.744 - (+14.400) = 0.344 m	+14.744 - (+14.400) = 0.344 m
(5) 水路巾	最大流量時通過流速0.45m/秒以下とする。	最大流量時通過流速0.45m/秒以下とする。
	$= \frac{0.031}{0.45 \times 0.344} \times \frac{150 + 12}{150}$	$= \frac{0.031}{0.45 \times 0.344} \times \frac{150 + 12}{150}$
	= 0.216 m	= 0.216 m
	(既設) 0.60m×2水路とする。	(既設) 0.60m×2水路とする。
(6) 通過流速	閉塞率を50%とすると、スクリーン通過液	危速は、
日平均	$\frac{0.017}{0.319 \times 0.50} \times \frac{(150+12)/150}{1.0 \times 2}$	$\frac{0.016}{0.317 \times 0.50} \times \frac{(150+12)/150}{1.0 \times 2}$
	= 0.096 m/秒	= 0.091 m/秒
日最大	$\frac{0.022}{0.329 \times 0.50} \times \frac{(150+12)/150}{1.0 \times 2}$	$\frac{0.021}{0.327 \times 0.50} \times \frac{(150+12)/150}{1.0 \times 2}$
	= 0.120 m/秒	= 0.116 m/秒
時間最大	$\frac{0.031}{0.344 \times 0.50} \times \frac{(150+12)/150}{1.0 \times 2}$	$\frac{0.031}{0.344 \times 0.50} \times \frac{(150+12)/150}{1.0 \times 2}$
	= 0.162 m/秒	= 0.162 m/秒
(7)損失水頭	hs=2.34×sin θ ×(t/b) 4 /3× $\frac{\text{V}^2}{2\text{g}}$	hs=2.34×sin θ ×(t/b) $^4/3$ × $\frac{V^2}{2g}$
日平均	= $2.34 \times \sin 60 \times (12/150)^4/3 \times \frac{0.096^2}{2g}$	= $2.34 \times \sin 60 \times (12/150)^4/3 \times \frac{0.091^2}{2g}$
	= 0.000 m	= 0.000 m
日最大	= $2.34 \times \sin 60 \times (12/150)^4/3 \times \frac{0.12^2}{2g}$	= $2.34 \times \sin 60 \times (12/150)^4/3 \times \frac{0.116^2}{2g}$
	= 0.000 m	= 0.000 m
時間最大	= $2.34 \times \sin 60 \times (12/150)^4/3 \times \frac{0.162^2}{2g}$	= $2.34 \times \sin 60 \times (12/150)^4/3 \times \frac{0.162^2}{2g}$
	= 0.000 m	= 0.000 m

項目	全 体 計 画		Щ	事業計	画
6. 沈砂溜り	砂溜まり程度とする。		砂溜まり程度とする。		
(1) 形状寸法					
池巾	0.6 m		0.6 m		
池長	2. 0 m		2.0 m		
池数	1 池		1 池		
(2) 沈砂溜り水位	スクリーン水路水位ースクリーン損失フ	k頭	スクリーン水路水イ	位一スクリーン損タ	失水頭
日平均	+14.719 - 0.000 = +14.	719 m	+14.717 —	0.000 = +	14.717 m
日最大	+14.729 - 0.000 = +14.	729 m	+14.727 —	0.000 = +	14. 727 m
時間最大	+14.744 - 0.000 = +14.	744 m	+14.744 —	0.000 = +	14. 744 m
7. 破砕機	破砕機の通過損失を0.11mと	こすると			
ポンプ井水位					
日平均	+14.719 - 0.110 = +14.	609 m	+14.717 - 0.110 = +14.607 m		
日最大	+14.729 - 0.110 = +14.	619 m	+14.727 —	0.110 = +	14.617 m
時間最大	+14.744 - 0.110 = +14.	634 m	+14.744 - 0.110 = +14.634 m		
8. ポンプ設備					
(1) 揚水量及び台数	各流入量に対するポンプ運転	云は次のとおり)とする。		
1号ポンプ揚水量	1.7 m³/分		1.7 m³/分		
2号ポンプ揚水量	3.2 m³/分		3.2 m³/分		
		時間最大	日平均	日最大	時間最大
流量(㎡/分)	1.04 1.32	1.88	0.97	1. 25	1. 88
運転台数(1号) 運転台数(2号)	1 1	2	1	1	2
揚水量(m³/分)	1.70 1.70	3. 40	1.70	1. 70	3. 40
	0. 028 0. 028	0.057	0.028	0.028	0.057

項目	全 体 計 画	事業計画
(2) ポンプロ径	$D = 146 \times (Q/V)^{1/2}$	$D = 146 \times (Q/V)^{1/2}$
	D:ポンプの吸い込み口径(mm) Q:ポンプの吐き出し量(m³/分) V:吸い込み口の流速(m/分)	D:ポンプの吸い込み口径(mm) Q:ポンプの吐き出し量(m ¹ /分) V:吸い込み口の流速(m/分)
1号ポンプ	V = 2.5 m/分 $D = 120 \text{mm} \rightarrow 150 \text{mm}$	$V = 2.5 \text{m}/分$ $D = 120 \text{mm} \rightarrow 150 \text{mm}$
2号ポンプ	V = 2.5 m/分 D = 165 mm → 200 mm	$V = 2.5 \mathrm{m}/ \%$ $D = 165 \mathrm{mm} \longrightarrow 200 \mathrm{mm}$
(3) 揚 程		
ポンプ井水位	日平均 日最大 時間最大	日平均 日最大 時間最大
(m)	+14.609 +14.619 +14.634	+14. 607 +14. 617 +14. 634
压送管摩擦(m) 流速係数 管 径(m) 延 長(m) 条 数(条)	he=10.666×(Q/C) ^{1.85} ×D ^{-4.87} ×L C: 110 D: 0.30 L: 1,466 n: 1 日平均 日最大 時間最大 0.028 0.028 0.057	he=10.666×(Q/C) ^{1.85} ×D ^{-4.87} ×L C: 110 D: 0.30 L: 1,466 n: 1 日平均 日最大 時間最大 0.028 0.028 0.057
he(m)	1. 234 1. 234 4. 596	1. 234 1. 234 4. 596
流速(m/秒)	0. 396 0. 396 0. 806	0. 396
実揚程(m)	圧送管最高水位一ポンプ井L. W. L = +25. 028 -(+14. 634) = 10. 394 m	圧送管最高水位一ポッソプ 井L. W. L = +25.028 -(+14.634) = 10.394 m
全揚程(m)	ポンプ回り損失を1.5mとすると	ポンプ回り損失を1.5mとすると
	日平均 日最大 時間最大	日平均 日最大 時間最大
圧送管摩擦	1. 234 1. 234 4. 596	1. 234 1. 234 4. 596
実揚程	10. 394 10. 394 10. 394	10. 394 10. 394 10. 394
ポンプ回り	1. 500 1. 500 1. 500	1. 500 1. 500 1. 500
合計	13. 128 13. 128 16. 490	13. 128 13. 128 16. 490
	以上より、全揚程 = 17 m	以上より、全揚程 = 17 m

項目	全	体 計 画	<u> </u>	Ę	事業計画	町
(4) 設備仕様						
項 目 口 径	1号ポンプ 150 mm	2号ポンプ 200 mm		1号ポンプ 150 mm	2号ポンプ 200 mm	
型 式 揚 水 量 揚 程 原動機出力	水中汚水 1.7 ㎡/分 17.0 m 22.0 kW	ポンプ 3.2 ㎡/分 17.0 m 37.0 kW		水中汚z 1.7 ㎡/分 17.0 m 22.0 kW	kポンプ 3.2 m³/分 17.0 m 37.0 kW	
台 数	22.0 米 2 2 ※()内は内子	1 (1)		22.0 KW 2 ※()内は内-	1 (1)	
9. 水位等のまとめ						
	日平均	日最大	時間最大	日平均	日最大	時間最大
流入管底高	+14. 640	+14.640	+14. 640	+14. 640	+14. 640	+14. 640
ゲート室底高	+14. 500	+14. 500	+14. 500	+14. 500	+14. 500	+14. 500
ゲート室水位	+14. 720	+14. 730	+14. 746	+14. 718	+14. 728	+14. 746
スクリーン水路底高	+14. 400	+14. 400	+14. 400	+14. 400	+14. 400	+14. 400
	~+14. 500	~+14. 500	~+14.500	~+14.500	~+14. 500	~+14.500
スクリーン水路水位	+14. 719	+14. 729	+14. 744	+14. 717	+14. 727	+14. 744
ポンプ井水位	+14. 609	+14. 619	+14. 634	+14. 607	+14. 617	+14. 634
圧送先水位	+23. 490	+23. 490	+23. 490	+23. 490	+23. 490	+23. 490

伊勢山中継ポンプ場

伊勢山中継ポンプ場(佐野中央処理分区=現況施設)の検討

1. 基本事項

(1) 敷地条件

位 置 佐野市伊勢山町 敷地面積 約0.12ha 用途地域 準工業地域

建ぺい率 0.6 容積率 200% 地盤高 +22.200m

(2) 流入条件

(①全体計画) (②過度期) 流入管径 ○800 m m ○800 m m 流入管勾配 1.5‰ 1.5‰

流入管底 T. P+11. 400 m T. P+11. 400 m

満管流量 0.512m³/秒(n=0.013) 0.512m³/秒(n=0.013) 満管流速 1. 019m/秒 (N=0. 013) 1. 019m/秒 (N=0. 013)

計画汚水量(時間最大汚水量)

(①全体計画) (②過度期)

全体計画汚水量 0.161m³/秒=9.66m³/分 合流遮集量

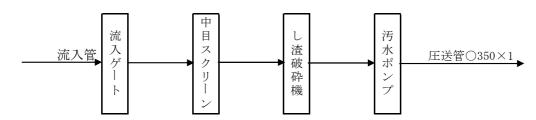
0.136m³/秒=8.16m³/分 0.144m³/秒=8.64m³/分

計 0.161m³/秒=9.66m³/分 0.280m³/秒=16.8m³/分

(3) 流出管

(①全体計画) (②過度期) 流出管径 \bigcirc 350 m m ○350 m m 圧送管距離 575m 575m 圧送管最高点管底率 +24.750m +24.750m 圧送管最高点管頂記 +25.100m +25.100m

2. フローシート



伊勢山中継ポンプ場

項目	全 体 計 画	過度期計画
1. ポンプ	(1) 揚水量及び台数(既設) 時間最大汚水量=0.161m³/秒 =9.66m³/分(Q) 既設ポンプ 8.7m³/分(φ250)×2台 +8.90m³/分(φ250)×1台(予備) =7.4m³/分>9.66m³/分(Q) →0K	(1) 揚水量及び台数(既設) 時間最大汚水量=0.280m³/秒 =16.80m³/分(Q) 既設ポンプ 8.7m³/分(φ250)×2台 +8.90m³/分(φ250)×1台(予備) =7.4m³/分>9.66m³/分(Q)
	(2) 実 揚 程 H ₁ =圧送管最高点管頂高 -流入管底高 =+27.750-11.400 =13.35m	(2) 実 揚 程 H ₁ =圧送管最高点管頂高 -流入管底高 =+27.750-11.400 =13.35m
	(3) ポンプ廻り損失 h ₁ =1.50mとする。	(3) ポンプ廻り損失 h ₁ =1.50mとする。
	(4) 圧送管損失(既設 \bigcirc 350×1条の場合) $h_2 = 10.666 \times (Q/C)^{1.85} \times D^{-4.87} \times L$ $Q = 0.161 \text{ m}^3/ $ ひ C = 110 D = 0.35 m L = 575 m	(4) 圧送管損失(既設 \bigcirc 350×1条の場合) $h_2 = 10.666 \times (Q/C)^{1.85} \times D^{-4.87} \times L$ $Q = 0.161 \text{ m}^3/\Phi$ $C = 110$ $D = 0.35 \text{ m}$ $L = 575 \text{ m}$
	$h_2 = 10.666 \times (0.161/110)^{1.85}$ $\times 350^{-4.87} \times 575$ = 5.81 m	$h_2 = 10.666 \times (0.280/110)^{1.85}$ $\times 350^{-4.87} \times 575$ = 16.17 m
	(5) 全損失水頭 $H_2 = h_1 + h_2$ $= 1.50 + 5.81$ $= 7.31 m$	(5) 全損失水頭 H ₂ =h ₁ +h ₂ = 1.50+16.17 = 17.67 m
	(6) 全揚程 H=H ₁ +H ₂ =13.35+7.31 =20.66 → 21 m	(6) 全揚程 H=H ₁ +H ₂ =13.35+17.67 =31.02 → 32 m

伊勢山中継ポンプ場

	全 体 計 画	過度期計画
1. ポンプ	(7) 原動機出力 $P = \frac{0.163 \gamma QH}{\eta} \cdot (1 + \alpha)$ $\gamma = 1.0 \text{ kg/m}_2$ $Q = 4.83 \text{ m}^3/\text{分}$ $(9.66 \div 2 \div 2)$ $H = 21 \text{ m}$ $\eta = 0.60$ $\alpha = 0.15$	(7) 原動機出力 $P = {0.163 \gamma QH \choose \eta} \cdot (1+\alpha)$ $\gamma = 1.0 \text{ kg/m}_2$ $Q = 5.62 \text{ m}^3/\%$ $(16.86 \div 3 \div 3 \div 3)$ $H = 32 \text{ m}$ $\eta = 0.60$ $\alpha = 0.15$
	P = ${0.163 \times 1.0 \times 4.83 \times 21} \atop 0.6} \times 1.15$ = 31.69 Kw<既設 55 Kw → 0K	P = $0.163 \times 1.0 \times 5.62 \times 32$ 0.6 = 56.19 Kw > 既設 55 Kw → NG
	(8) ポンプ仕様	全 体 計 画 レプ 水中汚水ポンプ
既設ポンプ揚水量=8.7+8.7=17.4m³/分(2台) 既設ポンプ揚水量=8.7×2+8.9=26.3m³/分(3台) (9) 今後の検討課題 ①全体計画では、全体計画汚水量=9.66m³/分、全揚程=21mであり、ポンプ2台で揚水可能である。 しかし、②過度期では、過度期計画下水量=16.80m³/分、全揚程=3ため、上記のポンプ3台で量的には足りるが、揚程が不足している。このため、全体で4台設置可能であるため、更新時には、過度期の下2全揚程に見合ったポンプを順次設置していくことが望ましい。 【更新時のポンプ仕様】		26.3m³/分(3台) 9.66m³/分、全揚程=21mであり、上記の 画下水量=16.80m³/分、全揚程=32mの は足りるが、揚程が不足している。 あるため、更新時には、過度期の下水量、